ると、早くよりして自分が他人のことに對して、相應に責任を負はせるやうに習はせるが宜いと言ふのです。他人の身の上に對して、自分が與つて責任を負ふと云ふ風に向けて行くと云ふことが、極く幼少の子供に早くから責任の精神を與へて行くことの捷徑である。例へば玆に七八歳の子供があるとする。それに妹なり弟なりの僅か二歳か三歳かの子供があるとするならば、母親が何かの用事の爲に家を明けて一寸他出をする其時に、お前に此の弟を賴んで置くから怪我をさせないやうに、能く留守の間番をしてお出でよと言つて賴み切つて行きましたならば、案外其の六七歳の子供と雖も妹なり弟なりの身に怪我をさせまいと責任を帶びてやるさうです。さう云ふやうに子供の時から信任して責任を負はせる習慣を附けたいと言ふのです。人から任されたならば屹度責任を帶びる。人から餘計な干渉を受けると、却つて十分責任を帶びぬやうになる。其點まで論じて行くと獨創の精神を養ふのも責任の精神を養ふのも方法は一つになるのである。詰り餘計な干渉をするなと云ふことになるのである。殊に此の責任の精神を養成することに就て注意すべき問題は、所謂勿れ主義を排斥することである。斯くの如きことをする勿れ。斯くの如きことをすべからずと云ふ、勿れ主義の教は人をして責任を帶びさせる工面ではない。況んや人をして獨創せしむる方法ではない。人をして責任を帶びさせる、獨創せしむると云ふのは、何々すべしと云ふ積極的の教訓をするに如くはない。例へば懶けるなと云ふことよりも勉强をせよと云ふ方が、其の命令は强く響くのである。今後は固より消極と積極とを場合に依つて斟酌せねばならぬけれども、殊に勿れ主義の訓練は次ぎにして、積極的の訓練を先きにすることを望むと言ふのでございまする。

斯くの如くに申しまするが、併しながら如何に子供をさう云ふ風に訓練しやうと思ひましても、教師自身に夫れだけの性質がなく、父母たるものに夫れだけの資格がなかつたならば、出來樣がないのでありますから、品性の基礎を造りまする第三の注意は教師たり父母たる者の資格を確かに定め、心得を明かにすると云ふことが入用である。それには種々の考もございますが、先づ第一番に申しまするのには、三つの性質を兼ねて居る父母なり教師なりが本當の品性陶冶、卽ち良い教育を施す人と云ふものになるのであると云ふことでございまする。其の第一番と云ふのは何でありますかならば、卽ちやさしき性質であります。何時でも言ふやさしき性質……英語で言ふとテンダーネス。此のやさしいと云ふことが教師なり父母なりに缺けて居つたならば、到底子供を本當に教育して行くことは出來ない。それからナンボ

やさしいからと云つてたゞ愛情に溺れると云ふやうなことでは可けない、確かりした所は何所までも確かりせねばならぬ、卽ち論理の立つて居ると云ふことが入用である。其の人が論理的であり、ロジカルであると云ふことが入用であります。やさしくあつて、論理的であつて、而も己れに克つ、卽ち克己心がある。此の三つの要件を具へて居ると云ふことが必要であります。

併し更に父母たり教師たるものゝ心得べき問題は何であるかと云ふと、凡そ人の品性を造らうとするときは、イメージに因つてすべし云ふことを能く覺えて貰ひたい。イメージと云ふのは譯して見れば象です。心に映る形でありますから心象であります。凡そ品性を養成するのはたゞ言語に依つて……言葉に依つて養成することは不十分である。必ずそれはイメージに因つて養成すべきものである。イメージと云ふのは子供の心の底にさう映らせることを言ふのである。父母教師の手本が子供の眼の底に映つて不知不識陶冶されるのである。品性はたゞ理窟や方案に因つて移されるのではなくして、現在眼の底に映つたイメージに因つて出來るのであると云ふことを申すのでござりまする。でありまするから、之れを昔の言葉で申しますれば、卽ち品性陶冶は言葉に因つてするのでなくして實例に因つてするのである。模範に因つてするのであると云ふことに當るのであります。今はそれを品性陶冶の心理的基礎はイメージに在ると云ふことを言ふのであります。品性陶冶の心理的基礎は觀念にあらずして、イメージに在るのであります。斯う云ふ理窟だと云ふ觀念に在るのではなくして、斯う云ふ工合だと云ふ心象に在るのだと云ふことを心理的の基礎と致しまする。

併しながら既に心象が立派になりましたと云つても、矢張り品性と云ふものは實は情の結果であるのです。人情自然の結果でありますから、之れを溫ためて自から春來れば草木が花咲くと云ふ風にしなければ出來ないのであるから、尤も望むところは幼少の折から家庭親戚中に於て極くあたゝかい溫和の連絡のあるとでござります。何等溫和親睦の連絡のない家庭でありましたならば、決して本當の品性は出來ませぬ。例へば孤兒です。夫れにも立派な人がありますだらう。或は繼子です。夫れにも立派な人もありますだらう。けれども追々お話をすれば分りますが、總じて孤兒などには何うも僻んだ根性の人が多い。總じて繼子には犯罪をする傾向が多いのであります。何うか成らうとならば一家團欒し、親戚睦まじうして自から不知不識溫和、和適の間に品性が陶冶されるやうにしたいと斯う云ふことを言ふので

す。だから品性陶冶の目的基礎は此の二つの獨創と責任との精神、夫れと又父母たり教師たるものゝ資格があり、其の方法がある。方法は主として心象に因るべきて、而して其の境遇はと云へば、卽ち一家の團欒和熟にあると云ふことを申すのでありまして、就學以前に旣に始まるべきことてあります。

更に一歩を進めて稍〻年齢が長じましたとても無論品性は陶冶せねばならぬ。就學中に於いては又女の子供てあるならば家事の手傳など、種々のことを家て教へるが最も必要でありますが、男女を通じて一般に云ひますれば、矢張品性を陶冶するのてあります。其の品性を陶冶すると云ふことに就きましては、どんな風に陶冶したら宜いか、如何なる性質を養ふが宜いかと云ふ品性陶冶の標準を明かにすることが先づ必要てあらうと思ふてす。日本には幸に教育勅語がありまして、我々の爲すべき事柄、我々の戒其德を一にすべき項目をば明かにお示しになつて居りますから、今更申すもくだ〳〵しいやうなことてござりますが、併し私の茲に言ふのは一般に品性を陶冶する、卽ち其の人柄を如何なる人に造るかと云ふことにあるのてす。夫れに就て昨年の萬國會議に於きまして段々議論がありましたが、苟も品性を系統的に秩序があるやうに形成して行かうと云ふのには、少なくも今こゝに掲げんとする八つの性質を具へて居ることが必要てあらうと言ふのてす。第一番は前を承けまして責任てあります。第二番はたゞ其の責任を重んじて、おれは責任を重んずることの堅いことは石部金吉金兜、一旦物を預つた上は、もう夫れは決して間違ひをすることはないと云ふやうに、たゞ責任づくめ一方の堅氣に過ぎては世の中を立派なものとすることが出來ない。また第一流の品性とは言へない。人は餘り堅いばかりては可かぬ。無論頼まれた事預けられたことに對しては責任を帶びなければならぬが、夫れと同時に愛敬が要ると云ふのてす。愛敬は英語で言ひますればエミアビリテーてす。さて次に心得ねばならぬことは、此處に譯して書くことが少し面倒てすけれども、何うか此の事は諸君の腦裏に深く入れて置いて貰ひたい、無論御同意と信じまするが、日本國民、殊に大阪などては此事を能く御注意を願ひたい、日本にも其の教は昔からあるのてありますするけれども、實際に於て此事の甚だ缺けて居ることが一つある、夫れは何てあるかと云へば英語のフェイヤプレー(Fair play.)と云ふことてあります。此のフェイヤプレーと云ふことが英吉利の道德の根本てす。英吉利人は如何にして品性を陶冶して居るかと云ふお問があつたならば、簡單に答へます：

フェイヤプレー。フェイヤと云ふのは今日の天氣のやうに晴れて居ることである、曇りのないことである。プレーと云ふのは遊ぶことである。遊ぶにも極く晴れ渡つて一點の疚しい所がないと云ふことである。卑怯未練なことをして勝つたのならば勝ちはしましたけれどもフェイヤプレーではないのです。能く知りませぬけれども、或る人は義には外人とベースボールなどをして隨分勝つたものであるが、近年は餘り勝たなくなつた。其の勝たなくなつたのは、一方の者が他方の手を能く知つてしまつたからださうです。情さけ無い。勿論孰れが以前に惡い手段をして勝つたのかと云ふことは、是れは失敬に渡り升から私は決して申しませぬ。けれども聞くところに依れば、隨分非常に機敏過ぎる樣な手段を持つて行つて、轉んでも何でも足さへ着けて勝つたら宜いと云ふので滑り込みなどした。夫れて以て勝つたともあるとかいふことです。戰爭の場合は往々無理押をする。某要塞を或る軍が攻落したなども手嚴しく無理押をしたのださうな。是れは顯著な事實で、誰からも恐らく異論は出て來ぬ筈だと思ふ。現に當局者も凱旋匆々に畏きあたりの御前に拜伏して「陛下の赤子を多數殺したのは誠に申譯がない臣の罪は大なり」とか申上げたさうだから、斯う言つても異論はないと信ずる。夫れても未曾有の大勝利を獲たのであるから好からう。但し人間を澤山殺して進二無二進んで行つて無理押しに勝つたのであるから、誰しも今猶ほ悲嘆せぬ者はあるまい。兎に角難攻不落と謂えたる要塞を物ともせず堂々と進んで行つた事はフェイヤプレーと謂へよう。否どの途亳も卑劣な事はしたのでありませぬからフェイヤプレーであるが、悲慘な光景は又目も當てられなかつたさうな。フェイヤプレーとは何は偖置き卑劣であるなと云ふとである。例へば試驗に及第するのでも然うです。日本ぐらゐ試驗に如何さまをする所はない。甚だしきは昔我々が試驗を受ける時代には墨壺の裏などに字など書いて來た者があつた。今でも往々然う云ふことをやる樣です。日本には斯う云ふことが多い。中々うまい手段を施して居る。甚だしきは入學試驗に代人まで出して試驗を受けた者がある。夫れが爲めに今日では學校の方でも入學試驗の願書には寫眞を添へて來いと云ふことになつて居る。嫁さんの見合ではあるまいし寫眞を添へて來いと云ふのは實にひどいと言はなければならぬ。斯くの如く日本人は何でも宜い、たゞ出來さへすれば宜いと云ふことになつて居る。是れは失敬ながら當處などでも隨分ひどいと聞いて居る。隨分生馬の目を拔くやうなことをやるやうです。併しながら手際の鮮かではないことが多くはなからうか。尤も武士

道に於ては夙に卑怯未練を戒しむることを第一とする。然う云ふことのあるに拘はらず人を騙してゞも構はぬ、只贏けさへすれば宜いと云ふことは日本人が兎角フェイヤプレーをせぬ證據である。是れは第三番に是非改正を望みます。譯は何と云ふ譯も附かない。マア強いて言へば卑怯未練を戒め、綺麗に遊べとも云ふのである。遊ぶと云つても茶屋に行つて遊ぶことは惡いけれども、遊ぶなら矢張り手綺麗に遊ぶのが綺麗である。併し茲にフェイヤプレーと云ふのは錢を遣ふのに錢離れがよいと云ふことではない。萬事卑怯にするなと云ふのである。第四番目は勇氣であります。夫れから第五番は誠實である。此の勇氣とか誠實とか云ふことに就きましては、固より私が說明するに及ばぬと思ふ。其次は道德上の立志とても譯しませうか、志を立てる。夫れは或は立志と言つても善し、もう一つは志操と言つても宜しい。兎に角善い事をしやうと考へることであるのです。苟も人が見て居らうが居るまいが、善いことを仕やうと企てることであります。其次は自ら反省することであります。自省であります。所謂自己が自己を批評する……自己批評であります。最後が謙遜であります。

最う一遍申して見ますると、夫れは忠義も大切だ。孝行も大切だ。だが一般に行き亘つた教訓としては先づ責任を重んずる。夫れと同時に愛敬がある。然うして爲す事が卑怯未練でない。フェイヤプレーで、さうして勇氣を以て進み、誠心を以て當る。苟も小善と雖も爲さうと志し、さうして且つは身を省み、謙遜をする。私は是れだけの心を以て教育勅語に宣べ給ふたことを行ふたならば、夫れこそ本當の御趣意に副ふことが出來ると思ふです。國憲を重んずる、國法に遵ふ。其の他人の有らゆる務に總て通ずるのは是れてはありはしまいか。此の八つのものを尙强いて分けましたならば二種類にすることが出來ると思ふ。初めの四つは一鎖、後の四つが一鎖になりますから、私は之れを假りに名づけて前の方は表面で、陽性と言はうと思ふ。外に對しては斷じて責任を重んずる。又後の方は裏でありますから內面であります、之れを陰性と言はうと思ふ。此の陽陰二面の道德が具はつて、夫れで總ての事を爲すのでなければならぬから、品性陶冶の目安としては大體こんなものが宜からうか。固より夫れは人々に依つて違ひますから、個性を酌酌し……個人々々の特質を酌酌してすべきことは言ふまでもないことでありますが、マア大體さう云ふことであらうと思ひます。

さて然う云ふことは然らば如何なる方針に依つてするかと云ふと、父母竝びに教

師が第一に其の性質を帶びることてあります。父母竝びに教師が斯くの如き人てあることてあります。併しなほ手近い方面と致しましては一家が團欒致しまして昔の物語等を爲すことてあります。昔話……昔物語と云ふことは誠に夫れは良い事てある。今の活きた世界に於けるたゞ種々の遺繰算段の話とは違つて、昔の美談と云ふものは流石に斯う云ふ性質を養ふに適するものてある。今に東京ても大阪ても都鄙の新聞に總て續物として講釋物が載つて居る。講釋物と云ふのは極めて舊いものてあつて、今日それを讀まなければならぬと云ふ必要はないが、あれが何て流行るかと云ふと、總ての講釋物と云ふ、昔の軍談の類のものは何となく趣がある。種々泥棒や惡漢の話もあるてせう。併しながら又大體の所は品性養成の根元になつて居る。何うかあれを利用致しまして、父母が圍爐裏や火鉢の側て冬の夜分にても子供に分るやうに面白く話して聞かせたならば、夫れは實に面白いとてあらうと思ふ。新聞が家庭の讀物としてあれを廢さないのは愈理由が分つて來た。是れまてはあれは廢したら宜からう、舊めかしいことだと、私共も言つたことがありますが、今は然うてないと云ふことを申します。

其の他今日行はれて居る方法の一二をお話致しますると、第一番に最も行はれて居りまするのは手工てあります。手工と云ふものは品性を陶冶するに最も必要てある。殊に下層の階級の者などには至極妙てある。歐羅巴て今日最も功能のある品性陶冶の方便は何ぞと云ふお問があつたら、手工の奬勵だと答へるてす。意外な答てせう。けれども事實は然うてあります。何故かと云へば、手工と云ふものは三つの長所がある。其の三つの長所はみな品性陶冶に適ふやうになつて居る。第一番と云ふものを申しますると、手工と云ふものは理想てすね、何か一つの理想を構成的に發表するものだと云ふのてす。然うてせう。一つ目安を立てゝこんな物を拵へて見やうと斯う云ふマア一つの理想を拵へる、自分の頭に描く。たゞ盲滅法に木を削るのてはありませぬ。穴を刳るのてはありませぬ。盆を彫るにしましても、一つの理想をば立てゝ、夫れを構成的に木などに移しまして發表するのてある。品性も然うだと言ふのてす。我々は一番に忠なら忠、善なら善と云ふ理想を立てゝ、夫れを自分の行狀の上に構成的に發表するのだから、其點に於て手工と品性とが共通して居ると思はれる。第二番に此の手工と云ふものは極めて多方面なものてあると言ふのてす。物を算へるとか何とか云ふととは違つて、種々の方面からやつて行かねばならぬ。種々の才が要るてす。工夫もしなければならぬ。算用もしなければ

なるまい。種々の方面のものであつて、夫れが極めて理窟では可かぬものです。ナンボ理窟が立つて居つても手工は出來ない。實際的のものであるのです。多方面にして且つ實際的と云ふことが手工でございます。品性も然うだと言ふのです。たゞ一本槍で空理窟を言つても立派な品性や行狀は出來ない。多方面に行き亘つて、其の前後を能く思料し、さうして實際的であると云ふことを必要とする。さうして又第三番目に此の手工と云ふことは子供の皆自然に好むものである。即ち自然的であつて、全く任意的のものである。品性も然うだと言ふのです。たゞ動物園の禽獸のやうに外から束縛し鞭撻を加へてやるのでは可かぬ。自然に心から善を爲さう、惡を爲すまいと云ふ任意的のことでなければ品性の直打がない。故に手工と云ふのは或は煙草盆なら煙草盆と云ふ理想を木なら木の上に移すのであると同時に、其事に慣れて居つたら品性も矢張り然う云ふ風に移すことが出來る。品性も一箇の手工である、一箇の工藝であると言ふのです。夫れも手工を一人でやるのでなくして協同してやる場合とか、或は一人でやるにしても大きな工場で一緒にやる場合に、其間に一致團結とか禮讓とかのあることは妙だと言ふのです。職人仲間に堅い義理のあると云ふことは日本でもあるが、西洋でも同じことである。決して手工と云ふことは卑むべきものでない。手工こそ却つて堅實なる品性を養ふに適當するものであると云ふことを申します。

右樣申しましたが、さて夫れを實際に行ふのには如何なる風にして行ふて居るかと云ふに就きまして、茲に一つ耳新らしいお話をして見やうと思ふ。一體此の手工と云ふものが教育上に種々功能のあると云ふことは、今日說き始めたのではございませぬ。既に此の說は大分舊くから言はれて居る。夫れを調べて見ますると千八百四十六年と云ふのですから今から六十五年ほど前のことでせう。英吉利にドクトル、セゲーン(Dr. Segain.)と云ふ人があつて、此人が一の書物を著はしました、英語で云へば『イヂオシー、エンド、イッツ、トリトメント、バイ、ゼフヒシヨロジカル、メソード』之れを譯して云へば『白痴並に其の生理的方法に依つての取扱法』と言ふのです。斯う云ふ書物を千八百四十六年に拵へたのであります。で白痴者を教育するには他に方法がない、手工に據るのが一番に宜いと云ふことを主張致しました。夫れに就ては今回私が英吉利に行つて、倫敦で一番大きなバーナード、孤兒院と云ふ所の女子部に行つて觀ました。何しろ何百人と云ふ女子を集めて居る。白痴の女子も澤山に居る。其の白痴の女子を如何に教育して居るかと云へば、皆手工をさせて教育し

て居るのである。でドクトル、セゲーンの六十五年の昔に言つたとが今倫敦、否、歐米各國に於て着々行はれて居るのであります。特に夫れを實際に廣く應用したのが瑞典であります。諸君！是れまで歐羅巴に於て最も教育や何かの進んで居つた國は何所であるかと言ふと、お聞き及びでござりませうが瑞西であつた。此の瑞西と云ふ國は諸大國の間に挾まつて居る。風景も明媚であるです。即ち獨逸、佛蘭西、墺太利、伊太利と云ふ諸大國の間に介在して居て、其の諸大國の權力平均の爲に別に大した兵備を設けぬでも宜い。獨逸が攻めて來やうと思ふと佛蘭西がやつて來る。佛蘭西が攻めて來やうとすると墺太利がやつて來る。故に瑞西は文事的の設備が非常に進んで居る。先年歐羅巴に行つて見ましたときに、教育は殆んど瑞西に止めを刺すと信じたから『新教育學講義』にもチューリヒの小學校のことを縷々述べ立て置いたのであります。今度また約十年振て瑞西に行きまして、再びペスタロッチの遺跡を尋ねると同時に、夫等の學校がどれだけ進歩して居るか、前と同じ學校に行つて觀るのが便利だと思つて、矢張りチューリヒの同學校に參りました。即ち『新教育講義』の中に書いてある學校へ行つて見たところが、少しも進歩して居らない。無論惡いとは思はぬが、最早進歩が止まつて十年一日の如くに見えた。之れに反して北歐羅巴の瑞典に行つて驚いた。瑞典は今日戰爭にこそ弱くありませう。けれども社會的、文事的のことに於ては實に立派に備はつて居るのであります。殊に教育が餘程立派であります。嘗て瑞西のチューリヒで見た學校も立派なもので、一つ一つの學校を建てるのに四十萬圓ぐらゐ掛けたと云ふ話である。尤も四十萬圓ぐらゐは大阪でも掛けると云ふことを申しまするが、併しながら彼國は非常に建築費の廉い國である。日本は物價の高い所ですから、マア平たく言へば西洋の建築よりも五倍ぐらゐも高いと言はなければならぬ。でありますから四十萬圓の建築は二百萬圓の建築である。岩本さんの公會堂は百萬圓ですから、夫れは餘程大したものである。けれども其の工事が出來上つて見ても左程感心せぬかも知れぬと思ふ。然るに瑞典の學校へ行つて見ると大きなものであつて、教場の數が二百四五十もある。さうして雨天體操場などは無論別に離れて居りませぬ。内部でやるので、四つ程もある。無論講堂もある。總ての物が備つて居る。殊に感心したのは序だからお話をしまするが、小學校の生徒に齲齒が多くて困ると云ふことは、日本でも夙に歎息することである。其の齲齒を療治する爲に何うするかと云ふと、獨逸などでは學校醫として齒科醫を必ず一人づゝ置いてある。けれども瑞典では夫れでは滿足せぬ。瑞

典の學校では齒科治療室が必ず一校に置いてある。夫れは大阪あたりにある通例の齒醫者さんの治療室よりも餘程立派なものである。もう電氣器械などもチャンと置いてあつて、主醫者は時間を定めて來るが、助手は二人いつも詰め切つて居る。だから齒が痛いと云へば其處へ行つて直ぐに診て貰へるです。凡そ只今小學校に於て齒科治療室の開かれて居るのは瑞典より外になからうと思ふ。然う云ふやうに敎育のことが進んで居る。夫れから養老院、感化院、下女學校のことまで、夫れはもうドシ〳〵進んで居るのである。然う云ふ風でありまするから、瑞西と云ひ、瑞典と云ひ、是れは何れも芽出たい國だと思ふ。何れにしても瑞の字が附いて居ることは感心ですね。斯く言へば日本にも矢張り瑞と云ふ字が附きます……豐葦原瑞穗國と云ふ瑞の字が附いて居るではありませぬかと言はれまするかも知れぬが、夫れは落し話だ。何れにしても以前は瑞西の方が立派であつたけれども、今は瑞典の方が立派であると云ふことを申すのであります。

ところで其の瑞典の首府は御承知の通りストックホルムと云ふのである。此のストックホルムと云ふ首府は非常に手工の隆んな所であつて、瑞典、那威は彼のスロイド式の手工と云ふものゝ本場であると云ふことは、今更申さぬでも分つて居る。

ところが近頃になりまして何と譯を附けたら宜いでせうか、貧兒手工敎育所とでも云ふものが盛んに組織せられまして、夫れがストックホルムの市中に二十一箇所ほどあると云ふことを見たのでございまする。夫れはどれくらゐの人數でやつて居るかと云ふと、一箇所で少なきは六十人、多きは二百人ぐらゐの人數でやつて居て、總計二千五百人ぐらゐの生徒が、此の二十一箇所の貧兒手工敎育所にございまする。夫れは何う云ふことをするのかと申しますると、斯うなるのです……學校の授業時間の除暇に貧兒に手工を敎へる。さうして無論夫れは種々なる職業を與へる端緒も開くのでせうけれども、詰り品性陶冶である。精しく申すと向ふの學校は大概朝八時から十一時までやるのです。夫れから日中の休が二時間ほどあつて、夫れから又假りに一時からやつて五時なら五時まで、或は四時なら四時までやるとして置きませう。然うしたところで十一時から一時までの間、或は五時から後の間、此の時間を利用して、一定の時間だけ手工を子供に敎へるのであります。成程さうでせう。私が學校を參觀すると學校はもう退けて居つたけれども、皆二階に集まつて手工をやつて居つた。年齡七歳に十歳までの子供は十一時から一時までの間に、其の貧兒手工敎育所に行けば手工を敎へて呉れる。夫れから十歳から十四歳までの子

供は五時から七時までの間に其處へ行つて習ふのである。十歳以上の子供となれば毎日行くのではありませぬ。一週間に三回ほど行くのであります。斯く言へばアナタ方が「夫れは大變結構であるけれども、然らばお辨當は何うですか、握飯もなからうから、パンぐらゐを喰べて濟ませるのですか」と言ふと、夫れは貧兒手工所でありますから、手工を習つた後は其處で晝飯を喰はして呉れる。夫れから午後は七時時分になると晩飯を喰はして呉れる。斯樣に手工を敎へて呉れた後におまけに公の費用を以て晝飯なり晩飯を喰はして呉れるのであつて、體も養い、心も養つて、貧民ながらも立派な市民を養成すると云ふことにするのは、非常に注意すべき問題ではありますまいか。費用はどれぐらゐ掛るかと云ひますると、夫れは一人平均日本に直しまして、マア一箇年十五圓ぐらゐ掛りませう。夫れは何うしてやるかと云へば、多少の基本金がございまする。夫れは創立者が寄附をしたのであります。夫れから利子はマア幾かのものでございまして、五百五十圓餘りも年に出ませう。夫れから又製產品を實際賣拂ひませう、夫れからも年々幾らか出まする。けれども大體はストックホルムの市の補助であります。ストックホルム市が今日のところでは年々約二萬圓を之れに補助して居ると云ふことは、大阪などでも餘程聞いて學ぶべき問題であるだらうと信じます。場所は學校を借りるのがあり、或は寺院等を借りるのがありまして、みな無料でやつて居ります。斯くして今日まで約二十箇年の間やつて居るが、之れを初めて主張した人は女であります。卽ちアンナ、イエルタ、レルチウスと云ふ女の人が千八百八十六年に初めて此事を主張したのでございます。以上申しまする通り、其の目的は貧民の子弟にして父母の監督の十分でない者に仕事を好むと云ふ性質を與へ、品性を陶冶してやると云ふのですが、子供のとですからたゞ敎へるばかりでは出來ませぬ。家で喰ふよりも美味い飯を喰はしてやると云ふ、恩あり威ある仕方は實に立派だと思ひます。尙此の事には敎師も皆殆んど無報酬でやつて居る人が多いさうです。世話を燒いて居るのは婦人會の連中であつて、然う云ふ連中が頻りに力を盡して居る。如何にも美風であると思ひます。之れに依つても手工は實際人の品性陶冶に功能があると云ふとはお分りであらうと思ふ。

夫れに就いて尙申しまするが、併し手工は夫れでも宜いけれども、農事の方は何うであるか。都會にして工業の發達して居る所では夫れでも宜からうが、然うまでない所に於ての農事は何うであるかと云ふことのお問がありませう。夫れに關して是れは極く新らしい話でありますから、獨逸で私の觀たことをお話をしやうと思ふ。

獨逸と云つても私の此の差して居るカハス留を買ふた所ですが、夫れは何と云ふ所かと言ふと、獨逸の西の方で、ライン河の岸にダルムスタットと云ふ所がある。一寸お聞きなつたことはないかも知れぬが、マンハイムと云ふ所はお聞きてせう、其のマンハイムの直ぐ附近です。是れは獨逸中での信用組合の中央本部のある所である。私は信用組合を調査する必要があつたから、其のダルムスタットに一週間ばかり居つたが、或時朝飯を喰つて市街を散歩しながら、ツヒ場末なる兵營の少し向ふの靜かな所へブラ〳〵行つて見ると、公園の樣な景色のよい所がある。而して其前に小さな札が掛つて居る。ツヒ一つの黑塗の小札に金文字が書いてある、「バテナ、何の札か知ら……」と思つて見るとアルバイト、シューレと書いてある。アルバイトは働くと云ふことである、シューレは學校である。即ち働く學校です。此のアルバイト、シューレと云ふことは教育學の書物で段々讀んで見て知つて居つたから、是れは宜い所へ來た。一つ訪ねて見やう、別に紹介が無くつても宜からうと思つて、丁度十一時頃であつたが、チーンとベルを鳴らすと、内から出て來た、其の人は其處の校長さんである。私は其の校長さんに向つて、實は名刺を持ちませぬが、私は日本で斯う云ふ教育學を研究して居る者、大學教授でありますが、何うかアナタの學校を參觀させて戴きたい」「夫れは能く來て下された、サア〳〵お通りなさい」とズツと内へ通して種々說明をして呉れたのは何うかと云ふと、是れもダルムスタットの小學校へ行つた子供に、其の學校の授業が濟んで餘暇に仕事を教へるのです。夫れは極く手輕な學校です。本日の會場なる此の學校の百分の一もないのです。詰り集まる所が一二室しかない。其處で簡單に算術、讀書、音樂を教へます。併し主なる仕事は夫れでなくして、屋敷の全部と云ふものは殆ど田地である。一寸いま坪數を記憶致しませぬが、種々の菜園になつて居る。そこで子供が此の學校に這入りますと、例へば四時に退けると、夫れから毎日二時間づゝ來て、豫て與へられたる一定の菜園を幾人かと結合して耕すのである。そして只空理空論を習ふのでなく、アルバイト、シューレと云ふやうに働くことを稽古する。是れも非常に品性陶冶に宜いさうであります。學校で兒童を一定の時間教へた後、まだ餘つたゞけの時間は何う教育するかと云ふと、夫れは家庭の任であると思ふけれども、此のダルムスタットに於ては家庭と結合して斯う云ふアルバイト、シューレをして居ると云ふことは大變珍らしいではありませぬか。是れは獨逸中でも澤山にはないが、斯う云ふことを經營するには隨分費用が要る。夫れに就てはダルムスタットの市から澤山補助して居る。是れも品性陶冶に就て

の一の方法でございまする。

次に申しますることは殊に女子に關してのことでございまするが、女子は成るべく家庭に置くが宜いのであります。併し何うしても家庭から學校に通はすことが出來なければ、夫れは已むを得ませぬから、寄宿舍に入れるのが宜いのであります。若し寄宿舍に入れましたときには、成だけ家庭と連絡を絶たぬやうに屢〻歸省をさせること、屢〻通信をさせると、屢〻父母が寄宿舍を見舞ふことをお勸め致します。何故に斯く家庭に置くが宜いかと云ふと、家庭に於て習ふべきことは第一に割烹であります。夫れから昨日も申しました婦女の衞生……性的教育に關係したことであります。併し家庭に置くことが出來なくして寄宿舍に入れるならば、其の寄宿舍は所謂家塾的であることを希望致します。今の兵營的の寄宿舍は可けませぬ。家塾と云ふのは家計的に經濟されたるものを言ふのである。人數は大抵三十人ぐらゐを限るさうであつて、幾つも室が分れて居る。一室に多きも四五人を限りとする。夫れも年の行つたものと行かぬものとを合せて自然姉あり妹ありと云ふやうにする。さうして學校へ行く外の時間には割烹、洗濯、音樂を教へる。又其他の時間には種々な所へ連れて行つて參觀をさせる。卽ち幼稚園などを參觀させるのである。何うか高等女學校の生徒にも餘暇があつたら幼稚園を參觀させることを希望する。夫れから又良い家庭に引連れて行つて觀せることを希望します。斯樣にして母たる務を專ら教へるのであります。昨夜も他所のお嬢さんが見えて居つて、一寸話を致しましたが、今度歐羅巴へ行つて感心したことは、女の教育として三つのことをやつて居る。表面的立派な教育は音樂であります、夫れから裏の方へ廻つて教育して居ることは第一番にお料理、第二番に洗濯であります。そこで先日も言ふ通り女學校であつたら必ず音樂を聽けと言ふのでありますが、今度も到る所に於て音樂を聽きました。併し夫れと同時に女子大學を初め初等の學校に至るまで「先生、一寸此方へ來て御覽なさい」と言ふから何れ綺麗な所を見せるのだらうと思ふと、二階から梯子段を降り、夫れから又地下まで降りて洗濯場を見せるのである。此の洗濯をナンボ見せられたかも分らない。此の節は英吉利、佛蘭西、獨逸の女學校で競うて洗濯をやつて居る。殊に伯林などに於ては貧民の女の子が路傍に出て人の袖でも引張ると云ふと、巡査が之れを見付次第に一寸來いと言つて連れて行く。さうして强制的に職業を教へる學校へ入れて教育するのです。併しながら然う云ふ女を入れて居る所の寄宿舍は隨分ひどいです。殆ど牢屋のやうになつて居る。夜寢る所はチャンと外部から

錠を下ろして逃げられぬやうにしてある。窓の所には鐵の枠が張つてある。何しろ然う云ふ仕樣のない女だから、然うして置かなければ惡い男が引張り出しに來るからである。然う云ふ女には何う云ふ職業をやらせて居るか。夫れは農事をやらせるのである、卽ち大根を作らせたりする。一向お化粧などを構はずと野良に出て働かせる。さうして二三年經つて善くなつたら、百姓の嫁に世話をしてやる。夫れから又一方に於ては大仕掛の洗濯を敎へて居る。其の洗濯を覺えたならば、其女は一人前の人間となつて喰へるのである。畢竟仕事が嫌ひだから喰へない。喰へないから墮落するのである。最も下等の然う云ふ學校でさへも農事を敎へる、洗濯を敎へる。更に高等女學校に行つても割烹や洗濯が大流行である。斯くの如く今の歐羅巴の女子敎育は非常に家庭的になり、音樂と同時に割烹や洗濯をやらせるのであると云ふことは注意しなければならぬ。コロンビヤの大學に行つても割烹や洗濯が女子大學の學科となつて、之れを敎へて居るのでありますから、決して割烹や洗濯が下等な學科ではないとは分ります。何うか學校の寄宿舍に於ては其の方に致したいと云ふことを希望します。

尙之れに就きまして問題がございますどうも女をして女らしく養ふには、女ばかり分けて置いては女らしくならぬ、昔の御殿女中の女ばかりの所では嫉妬心が强くして、却つて淫風が盛んに行はれたやうである。矢張り男あつての女であるから、女に男を知らしむるが宜いと云ふことで、コーエヂュケーション卽ち男女共同敎育の可否と云ふことが問題として盛んに論ぜられて居ります。今のやうな議論から、男と女とを一緒に敎育したら宜いと云ふ論が出來て居る。さればと云つて又其の弊害も多い。そこでマア斯うすると言ふのです。最も簡單なのは成るべく親戚の男の人が其の女の寄宿舍などを訪問すること、であると言ふのです。お母さんばかりては可かぬ。日本では然うでもありませぬが、西洋ではお母さんが行く、お父さんが行く、兄さんも行く、弟も行く、從兄弟も行くと云ふやうな風である。そしてさう云ふ人が參觀に來ても、例の通り監獄人に面會するやうにはせぬ。そこで親戚の男が訪問するやうにしたら何うか、善い惡いは言はないが、さう云ふ論もある。もう一つ酒落て居るのは、佛蘭西の北の方に於て、英吉利へ渡る所にカレーの港と云ふのがある。其の近所の一つの家塾では女子の塾でありながらコーエヂュケーションをやつて居る。それは其の娘さんの男の兄弟である、それを一緒に容れて敎育する。男女兄弟姉妹を皆一緒に入れると云ふ方法ださうであります。私が鹿兒島に行つて其の

話をしたところが、或女子教育家が言ふのに、それは矢張り可かぬと云ふのです。成程其の兄弟姉妹は姉さんと弟であつたり、兄と妹であるから、これは間違ひつこがない。併し他人の兄弟と此方の姉妹とは然うでないから、隨分其の間に間違ひつこが出來る。斯う言つては甚だ失禮だけれども、女の墮落するものは往々兄さんのお友達などと云ふものから出來る。さう云ふものが險呑な分子であるのだから、鹿兒島の方でも夫れとは違ひますが、稍々それと類似のことを些とばかりやつて見た結果、それは宜しくないと云ふ話を聞いて、私も成程と思つたことであります。これは西洋でも未定の問題であります。併し女の教育を是非とも家事的にする、實際的にする、決して兵營的にしないと云ふには、これも幾らか參考とすべき所があらうと思ふ。

段々お話が進みましたが、其の次には第一番に父母と學校との連絡することを一層盛んにすることを求めます。これはくだ〳〵しく言はぬでも分りませう。卒業式、入學式、其他に於て父母の來ることを求めます。第二番目に成るべく父母が平生學校を參觀する。第三番には教師が家庭を訪問する。第四番には一層詳密なる通告をなすこと。第五番は成績品の展覽會を開き、それと同時に又成績品を家々に回すことであります。所謂回覽をすることであります。夫等のことを今より一層盛んにしたら宜からうと云ふことでございました。別に名法はございませんなんだ。日本でも定めて諸君は既にお遣りになつて居ることであらうから、益々それをお遣りになることを希望するに止めます。

もう最後に短いことを二三分間述べて此の章の講義を了へませう。斯くの如く家庭と學校とが連絡せねばならぬと云ふことで、或場所では子供を學校に遣らずして、家庭にて子供に普通教育を施すことが今盛んになりかけたのであります。それは何處であるかと云ふと米國であります。米國にパルチモアと云ふ所のあることは御承知でせう。パルチモアに於きまして、今から六年ほど前にゼ、ホーム、インストラクションと云ふ新しい運動が起りました。ホームは家庭、インストラクションは教授です。家庭教授ですが、之れを平たう譯しますれば、通信教授である。何かの事情で子供を學校に通學させることが出來なければ、通信に依つて教授することが出來る。それは「私の子供は斯う云ふ性質の者で斯樣々々です」と云ふことを言つて遣ると「左樣ですか、それでは何級に編入致します、教具は是れです」と云つて、石盤其他のものを學校から送つて來る。さうして毎週間前の日に教案を送つて來る。夫れに據つて親なり、兄なり、少しく文字のある者が其の教案の通りにやれば出來るのである。

然うして其の成績を學校へ送る。すると又其次の週間の教案が來ると云ふやうにして、自宅で教へると云ふことでありますが、これは彼の國では非常に距離が隔たつて居つたり何かして、學校に通學の不便なところから考へたものかとも思ひます。或は向ふでは種々雜多の人種が寄つて居るから、邊鄙の方ではさう云ふ雜多の所へ自分の子供を遣ることを嫌ふやうな所から起つたことかとも思はれますが、日本でも從前から家庭の事情に依り、學校へ遣らずして家で教授することが出來るやうになつて居る。さればと云つて資力の乏しい者は家庭に教師を招いて教へるとは出來ませぬから、或は斯う云ふ方法に依つての通信教授と云ふことも一種の方便ではあるまいかと思ふ。これは左程まだ必要なことではございますまいが、御參考に申して置きます。右樣のことが大體自宅に於て爲すべき學校との連絡の教授法であります。此の次は卒業後のことをお話致します。

第五章　卒業後の家庭教育

以上就學前と就學中の家庭教育に關する注文を大體述べ了りましたから、本章には卒業後のことに就てお話をいたさうと思ひます。

此の卒業後のことに就てお話すべきことの箇條は、色々澤山にございますが、第一番は補習教育の事でございます。日本でも先年來補習教育の必要は頻りに唱へられて居りますが、今回歐米を再遊いたして見ますると、殊に此の補習教育の必要が到る所に重んぜられて居ることを見たのでございまする。尤も更に論を進めて申しますると、啻に補習教育ではなくして、義務教育を延長すべしと云ふやうな論が隨分盛んであります。第二章には既に義務教育と云ふものを少なくも十四歳まで延長しなればならぬと云ふ論が、農事教育と關係してあると云ふことを申しましたが、英國のごときは既に義務教育は滿十四歳までと云ふことになつて居るのでございます。然るに十四歳までと云ふ義務教育てすらなほ滿足致しませぬで、近頃は十六七歳まで義務教育を延長すべしと云ふ論が唱へられて居りまする。でございまするから日本は往年四箇年であつたものを近頃六年に延ばされた、それが又八箇年になることは、私共の考では十箇年を出でまいと思ふのでございまするが、やつと八箇年に延ばして滿十四歳までとしたところで、尙近頃の議論には遠いのでございます。西洋では遠からず十六七歳まで延長せらるるとてあらうと思ふ。併しながら義務教育は一年延長すると云つても、夫れは大事でございまする。經濟上に非常に關係

する、中々容易に行はるべきものではございません。隨つて實際の上に於ては此の補習教育が最も盛んに行はれるのでございます。補習教育は夙に獨逸が本家とも申しても宜いのでございまする。獨逸でも却つて普魯西などが主ではございませぬで、此の問題に關係致しましては、南獨逸を寧ろ進んだる國と申すのでございます。南獨逸と申しましても、殊に彼のバワリア王國が最も進んで居るのである。而して此の獨逸に斯くの如く補習教育が進んだと云ふことは、誰の功であるかと申しますると、無論種々の學者、種々の實際家の力でもございませうけれども、取分けて此處に名前を書きたいと思ふのは、ケルセンスタィンと云ふ人である。此の人などが重に有功でございます。ケルセンスタィンと云ふ人の名前は、日本では餘り汎く知られて居らない。併しながら『系統的新教育學綱要』の中には早く其の名前を載せて置きましたが、今日獨逸に於て教育施設の實際問題に關係して、最も權威ありと人に思はれて居る一人は、卽ち此のケルセンスタィンでございます。此の人の身分はバワリアのミュンヘン市の市視學でありまして、此の人などが夙に補習教育の必要を唱へ、それを實行したことが端緒になつて、今日獨逸國では、お聞き及びの通り補育教育が行はれて居るのでございまする。併しながら此の補習教育は、啻に獨逸ばかりではございませぬ。今日では最も保守的だと稱せられて居る英國に於ても此の補習教育が盛んに行はれて居ります。英國の何處で盛大に行はれて居るかと云ふと、殊に北の方蘇格蘭に於て補習教育が最も盛んに行はれて居ると云ふことを今回は愈〻認めたのでございまする。否蘇格蘭が中々着實に此の補習教育の事をやつて居ると云ふことは、既に前回彼方へ參つたときにも認めたのである。と云ふは丁度私が始めて蘇格蘭のエジンバラに參つたのは十月の初めであつたと思ひまするが、其の頃辻々に頻りに夜學校ですネ、夜學校を來る何日から開校する、何う云ふ學科を教へる、年限はこれ〳〵、月謝はこれ〳〵と云ふ廣告の出て居ることを認めました。それも整然秩序があり、規律が一定して辻々に廣告して居るのを見て、深くエジンバラ市の用意に感じたのであります。するが、今回參つて見ますると、それが一層發達して、此度は立派な補習教育になつて居るのでございまする。それは何時からと云へば千九百八年からですから、大體今から四年程前である。併しながら何に倣うてしたかと云へば獨逸、殊にケルセンスタィンと云ふ人の方法に倣つてしたのであると云ふことを承はりました。それは學校卒業、卽ち義務教育を卒へましてから後、滿十七歳までの青年には、毎日一定の時間、凡そ二時間と云ふものは一定の補習教育を施すの

てございます。而して其の補習教育を授けまする時間中は、其の青年を何等の他の仕事に用ゐることを許さぬのでございまする。でございまするから何處かの店に丁稚として抱へて居りまする場合であつても、其の時間だけは暇を與へなければならぬと云ふことになつて居ります。

さて右の如き學校に於ては、如何なる事物を主として教へて居るかと云ふことも又お話致さなければならぬと思ふ。日本で補習教育と云へば、動もすれば單に復習することのやうに誤解する人もありまするが、固より然うではない筈であります。又獨逸にしましても、殊に蘇格蘭に於ても、主として補習教育として教へて居るのは、其の地方々々に於て最も汎く行はれて居るところの職業である。其の當該地方に於て最も多く行はれて居る職業が第一に重き科目でございます。其次は國語、國文でございます。國語國文と云ふことの中には倫理の話も這入りませう。歴史の話も這入りませう。地理の話も這入りませう。謂はゞ國文で書いた教科書を以て教へると云ふことで、何も文學と云ふことではございますまい。其次に教へますることは、最も體育に熱心することでございまして、即ち體操遊戯でございます。だから其の當該地方に行はれて居る職業、それから國文國語、それから體操遊戯、此の三つに依つて身と心とを發成して行くと云ふことが、補習教育の主意でございまする。尚言葉を換へて見れば、補習教育者の主として居る所は心育と體育とである。體育の方では強健なる身體を造るのが主意であると云ふことは申すに及びませぬが、さて今日心育の主として居る所は何であるかと云ふと、必ずしも物識りを造らうと云ふのではありませぬ。寧ろ補習教育に於て心育の主として居る所は、情と意との二つに在るやうに思はれるのでございます。其の情と云ふのは何であるかと申しますると、即ちやさしい情を養ふのです。で歐羅巴の今日の教育は溫雅ですね、即ち穩かなやさしい情を養ふと云ふことが、教育の方針になつて居るやうに思はれる。それから意志の方では如何なることかと申しますると、意志の方では能く言ひまするストロング、キャラクターである。今日の英國教育の眼目は全くストロング、キャラクターと云ふとにある。所謂鞏固なる品性です。だから情は眞に溫雅な情であり、而して意志の方からはストロング、キャラクターと云ふものを養成すると云ふことを主にして居るやうに思ひます。

併しこれだけのお話をしたのでは未だ不十分でありまして、なほ茲に近頃は新たなる學科が追々と補習教育に加つて來ることを認めるのでございます。今も申し

たやうに其の地方の職業、それから國語國文、或は體育と云ふことでありますが、尙其他に近頃は新たに學科が加はつて居るとを認めるのである。それは何であるかと云ふと、これから將來の人民の教育は、社會的でなければならぬと云ふとを申すのであります。教育が社會的になつて來ると云ふことが、今の一般の傾向でございます。社會的になると云ふことは何う云ふことかならば、種々の說明もありますが、學科としては社會的學科が總ての教育の中に數へられて來るやうになつて居る。社會的學科と申しますれば如何なるものであるかならば、卽ち社會の組織幷びに運用を心得させると云ふことであるのである。固陋の人にはさう云ふやうな社會の組織とか運用とか云ふことを青年輩に知らしむると、或は危險なる思想でも起るかと思はれる人もあるかも知れませぬ。併しながら歐羅巴の進んだる考は、其の固陋なる考とは正反對でございます。凡そ危險なる思想、殊に職工輩の危險なる思想を防ぐことの方便と云ふものは、職工輩に社會の本當の組織、本當の運用法を知らしむるに在りと云ふことになつて居る。然らば社會の本當の組織運用法を知らしむるのは如何なる學科であるかと云へば、卽ち社會學でございます。だが社會學と云ふことは、或は青年には少しく高尙に失するかと云ふので、只今英吉利などで一般に重んずる傾向を持つて居りまするのは、經濟學であります。經濟學を頻りに敎へるやうになつて居る。經濟學と云ふものは何をするかならば、卽ち社會生活の運用を論ずるものである。たゞ錢の取合と云ふことでない。謂つて見れば社會が運用して行くのには、資本主もなければ可かず、勞働者もなければならぬ。それに然う云ふことを考へずして勞働ばかりが貴いものである、資本などと云ふものは無用なものであると云ふやうな間違つた考をすると、危險思想も起るのです。何うして見ても社會が經濟的に運用して行くのには、資本と勞働との二つにあひ俟たなければならぬと云ふことを敎へる。經濟學を本當に敎へさへするならば、危險思想の豫防となり、また同盟罷工を防ぐなど云ふ功能があると云ふので、補習敎育に於ては盛んに之れを敎へて居りまする。其の一例を申して見ますると、英吉利にロッチーデルと云ふ所がございます。此處はマンチェスターの近傍でありますが、諸君も亦其の名前を恐らく御承知であるべき筈と思ふのぢや。此のロッチーデルに於ては從來冬向が來ますると、職工共を寄せてオクスフォード大學から經濟學の先生を招聘し、さうして講釋を聽かせて居つたと云ふことであります。又ロッチーデルの附近に於て、最も盛んな商賣の所は

マンチェスターであります、或人が英吉利の大阪は卽ちマンチェスターであると云ふくらゐに商賣の盛んな所でございまするが、此のマンチェスターに於きましては現に大人と小兒との二つの科を分つて、大人科では盛んに經濟學を敎へて居ります。ロッチーデルを初めとし、マンチェスターに於ても、近頃の補習敎育の新傾向は經濟學の敎授である。經濟學と云つても舊い經濟學ではありませぬ、社會學的に見たる經濟學であると云ふことを申すことが出來ます。尙實際のお話をいたして見ますると、昨年英國に於きまして私はケンブリッヂで見たことでございまするが、此のケンブリッヂと云ふ所は、申すまでもなく、ケンブリッヂ大學と云ふ大學の所在地でございます。さうして人口も十萬內外ある相當の都會でございます。此のケンブリッヂに於きましては、夏マア職工の頭……職工長とも云ふべき者を幾十人か寄せて、さうして經濟學を講習をして居つた。不思議だと思つて或人が其の事を調べて見たら、職工共の動搖を防ぎ、職工共の亂暴を防ぐための第一の方策は、職工共に經濟學の新知識を與へるにあると云ふことを確信したから、種々の經驗に據つて今は斯う云ふことを行うて居るのだと云ふことが分りました。日本では頻りに忠孝と云ふことを說きますが、これは無論結構なことであります。倫理敎育は何處までも必要でございます。併してそれも必要でありますが、本當に社會の動搖を防ぐと云ふのには、人をして此の社會が如何にして運用して居るかと云ふことを正當に解釋させると云ふことも亦同じく最も必要なことであらうと思ふのであります。我國の補習敎育を行ふ人は夫等の點を考へずして、たゞ徒に活きたる知識を斥けて、死んだる知識を授ける樣でありますが、これは勞して效が少なからうと思ひまする。右が第一番に申しまする補習敎育であります。

其の次に卒業後の施設として申すべきことは、第二に追々西洋各國、殊に英國に於きましては大學殖民ですね、大學殖民と云ふことが卒業後の生徒の爲めに盛んに行はれて居り、家庭と相俟つて卒業後の生徒の爲めに盡して居ると云ふことであります。大學殖民と云ふのは何う云ふことかと言ひまするに、今日西洋の大學が運動して居ることに二つあるのであります。其の一つは大學擴張、夫れからもう一つは此處に書きました大學殖民であります。大學擴張と云ふことは日本にても數年來頻りに說いたことでありまして、私共もやかましく言ふことであります。何も大學擴張と云つても大學の敷地を取擴げると云ふ意味ではありませぬ。詰り大學敎育と云ふものを成るべく汎く社會に普及させると云ふのが、所謂大學擴張であります。

英語で云ひまするとユニヴァシテー、エキステンション、夫れは彼方此方へ大學關係の人々が出て講演をすると云ふやうなことでありまして、例へば此の夏季講習會の如きも種々やりやうはございますが、概して言へば無論一のユニヴァシテー、エキステンションであります。我が京都大學の連中に於きましても此のユニヴァシテー、エキステンションをやつて居りますが、尙夫れを以て足れりとせずして、昨年來夏向になりますると、豫て我々が『新教育講義』中に於て七八年前主張した如く、今は大學構内に於て實際夏季講習會を開くやうになつて居ります。西洋でも地方に於ても夏季講習會は到る所に開かれますが、其の地方に於て夏季講習會を開くのと同時に、英國に於てはオクスフォード大學やケンブリッヂ大學で夙に大學の中に於て夏季講習會を開いて居ります。夫れは大學の中でやつたら格別に感想が深からうと云ふところからやつて居るので、幸に我國に於ても亦我々の主張したことが事實となり、斯樣な催を見るに至り、大層結果が宜しい樣なので、大いに喜んで居るのでございます。何うか諸君も來年から奮つて來聽あらんことを希望するのであります。成るべく斬新な學科、さうして成るべく地方などで餘りお催しのない學科の講演を大學の夏季講習會に於て聽くことの出來る組織にしてございまする。是れは西洋でも爛んにやつて居ります。

此のユニヴァシテー、エキステンションに對してユニヴァシテー、セットルメントと云ふことをやるのであります、是れが卽ち大學殖民でございまする。夫れは平たう申しますると、大學の關係者が大學の出店を其處此處に拵へて、さうして一般人民、殊に貧民の爲に社會的の知識を與へ、社會的の援助を與へると云ふのであります。大學の出店であるから大學殖民と云ふ名を附けたのであります。夫れは何う云ふ所にあるかと申しますると、固より今申しまする樣な譯でありますから、多くは貧民區にあるのでございます。英吉利の倫敦ではお聞き及びの通り東倫敦、西倫敦と分たれてあつて、其の西倫敦と云ふ方は主に富貴な人の居る所であり、東倫敦は貧民區であります。隨つて大學殖民は倫敦に於きましても、東倫敦の方面に最も盛んに行はれて居りまする。凡そ倫敦には只今十數箇所もあるだらうと記憶いたして居ります。其中で最も舊いのは何であるかと申すと、東倫敦に在りまするトインビー、ホールと云ふのであります。ホールは館のこと、トインビーは人の名であつて、トインビーと云ふ人が初めて之れを計畫したのであります。私は先に西洋に行つた時に親しく視察致しましたが、今回も亦萬障を繰合して第一に行つて見た。是れは大學殖

民の模範と云ふことになつて居る。夫れは設立以來凡そ三十年と記憶致しますが、別に大きな建物がある譯でも何でもない。夫れは東倫敦の貧民區の極く穢ない中で、而も古ぼけた苔蒸したる煉瓦造の家である。其家は大體どんな風になつて居るかと云へば、マア這入つて見ると斯う云ふ風になつて居る。表門を這入りました横の所に館長の居る家がある。夫れから其の次の所に持つて行つて集會所竝びに座敷と云ふやうなものがある。夫れから一方の隅の所に合宿所がある。夫れから廣場の所に持つて行つて大きな食堂がある。大體極く簡單に云へばこんな建物である(此時圖を描きて示す)合宿所は約五十程の人が居るのでありまして、夫れは大學を卒業した人が大抵這入つて居る。日本で云へば若い學士のやうな人が居る。其の若い學士と云ふやうな人は各職業を持つて居るのであります。其の大學殖民ですることを職業としては居らない。他に職業を持つて居るのであります。或は銀行會社に勤める。無論新學士であつて、又特志の人でありますから、此處に寄宿して居る。さうして自分が日々の業務に從事する傍ら貧民の爲に社會的教育を施して行くのが、此の大學殖民の主なる仕事であります。此のトインビー、ホールでは何う云ふことをして居るかと申しますると、先づ第一は卽ち大學擴張をやつて居るのであります。時々演說會を開きます。又時々講演會を開きます。時には一種の講習會と云ふやうなものを開きます。斯くの如くして貧民の家庭と結合して一般の知識を普及し、貧民に專門の知識を普及することを努めて居ります。又夏向になりますと、此の場所或は少し廣い場所を借りまして、音樂會を催し、涼みがてらの娛樂も仕やうし、さうして又精神を養ふと云ふことを組織して居ります。是れも家庭と連絡してのことでございまする。夫れから又夜學校を拵へまして、補習教育をも遣つて居ります。是れも家庭と連絡して居るのでございます。併しながら我々がトインビー、ホールに於て更に感心したことが三箇條あるのであります、其の第一番は何う言ふたら宜しうございませうか、總て何事に拘はらず社會のことに關係した質問のある者は、或一定の日を定めまして、其の質問に應ずると云ふ組織になつて居ることでございます、謂はゞ質問會を開いて居つて如何なる質疑にても答へてやると云ふ組織であります。第二番には宗教上の疑問に答ふべき日を一週間に一回殊更に設けられてあると云ふことでございます。是れも非常に大切なことである。諸君！宗教上に疑問のありまする者は常に煩悶をするです。社會で危險思想などの起ることを本當に取締らうと思ふならば、人をして宗教上の安心立命を得させると云ふことが最

も急務であらうと思ふです。現に英國などで見ましても職工共、殊に貧乏なる職工共は今や當に非常に此宗教問題に就て疑惑を懷き、熱烈なる意氣を以て宗教の疑問を闘はして居ることであります。倫敦にハイドパークと云ふ大きな公園がありますが、此ハイドパークに行つて見ますると、毎晩其の入口で路傍演説をして居る。夫れは宗教説教であります。其路傍の宗教説教の所に汚ない衣服を着た職工共が寄つて居りまして、さうして一の演説説教の濟む毎に、辯士に向つて質問を矢の如くに放ち、辯士と口角泡を飛ばして討論して居るとを見るのであります。まだ日本では何を申して見ても世の中の進歩が遲いですから、然う云ふ問題はなくして、職工輩もお祖師樣、お大師樣に詣ると云ふやうなことを以て滿足して居るやうでありますが、もう一段進んだならば宗教上の問題が起つて來るに違ひない。夫れを解決する爲めに一週間一回の時間を設け、何たる疑問にても答へてやると云ふ風になつて居ります。もう一つは法律上の疑問に答へる會を矢張り一週に一回拵へてある。世の中が追々面倒になつて來ると法律上の疑問が多い。殊に職工輩には雇主との關係などから種々法律上の疑問があります。其の法律上の疑問を能く解決せずして自から損をするものがあり、或は自から心を苦しめて居る者もあらうと云ふ樣な譯であります。一週間に一回一定の時間を設け、法律上一切の疑問に答へてやると云ふ組織になつて居ります。尙ほ感心致しますることは、若し夫等の者が何事かで訴訟を起さうと云ふときには、トインビー、ホールの法律部に於いて夫れを引受けてやることであります。夫れはトインビー、ホールに常任の辯護士がありまして、其の辯護士の人が引受けて訴訟をやつて呉れると云ふことである。尙感心することは若し訴訟費用が不十分であると云ふやうなときには、トインビー、ホールに於て其の訴訟費用を幾分か負擔してやると云ふこともあるのであります。斯くの如くいたして夫れは誰がやつて居るかと申しますると、皆大學の卒業生が各〻自分の知識を以て社會の爲に盡して居るのである。是れが家庭と相俟つて貧民の爲にやつて居る主なる運動であります。諸君の中に然う云ふ事は學校教育と一向關係がないとお考へになる人があるかも知れませぬが、茲に斷言して置きます。是れまで人のすることは先づ第一に政治であるとか、第二は宗教であるとか云ふやうなことに考へて居つたのでありますが、是れから後人のすべきことは政治、宗教の外に必ず社會的に働いて來ると云ふことが出來て來るに違ひないのであつて、我々が今熱心に主張して居ることは文科大學或は法科大學の卒業生の爲に一種の此の大學殖民的運動を

させると云ふことにあるのであります。若し我々の希望通りになつたならば、京都に於て大學の附屬として斯う云ふ一種の運動を始めて見やうと思ふ。夫れは或は日が遠いかも知れないけれども、幸ひに我々の同志があつて着々地方には其の運動が始まり掛つて居ります。此事は日本全國、殊に此の大阪に於ては當に必要が起つて來て居ると思ふ。けれども日本では未だ大學卒業生が十分夫等のことに實際奔走すると云ふ場合には立ち到りませぬが、何うか一般の教育者諸君に於ても然う云ふことに御同情下されて、さうして家庭と相連絡して適當なる知識と適當なる教育とを一般人民に普及するやうに致したいと思ふのでございまする。

話が長うなりますからそれは是れで措きまして、夫れから第三番目に移ります。第三番目は女子教育に關してお話をするのであります。是れは先日來毎々お話を致しましたことでありますから、今更繰返して申す要はありませぬが、女子の教育層一層家政的になつて來たと云ふことであるのです。是れが第三の卒業後に對する注意として言ふことであります。即ち言葉を換へて言へば、或は當り觸りがあるかも存じませぬ、夫れは御免を蒙りますが、女子の獨身で居るなどゝ云ふことは全く間違ひであると云ふことが今日の健全なる輿論であります。嘗ては女子と云ふものは男子と全く同權のものであると云ふやうなことから、頻りに女子獨立論がやかましうございまして、隨つて結婚を左程重んぜぬと云ふ間違つた風が行はれたやうにも存じまするが、今歐羅巴に行つて見ますると、一部の論客、一部の物好の人の中には依然として然う云ふことを盛んに唱へる人がある、併しながら一般社會の傾は女子は男子との結婚を以て本當の道理だとすることが一層行はれて來たのでございます。即ち女子教育の卒業後の方針は結婚の準備をさせると云ふことにあるのであります。否、小學の義務教育の如き、更に進んで高等女學校等に入學する場合に於きましても、其の高等女學校は何を主とすべきものかと云へば即ち家政的に、即ち婚姻と云ふものを何處までも主とした教育にしたいと云ふことが、只今の一般の傾向であるのでございます。夫れは何う云ふことに依つて分りますかと申しますると英吉利にユーゼニック、エヂュケーション、ソサイテーと云ふ會がございます。ユーゼニックは先日お話致しました通り種を改良する、即ち善種である、マア謂はゞ人種改良教育會とでも申しませう。此のユーゼニック、エヂュケーショシ、ソサイテーに於ては盛んに女子教育の本分は母たるべき教育をすることにあると云ふことを主張するのでございます。そこでユーゼニック、エヂュケーション、ソサイテーの趣意

書に斯う云ふことが書いてあります、……本日は高等女學校に關係のお人も段々お見えになるやうぢやから殊更にお話をいたすのでありますが、其の趣意書が非常に振つて居るのであります。と云ふのは女子教育を施す人々が若し將來母たることに何等役立つことのないやうな教育を施して居るのであつたならば、其の教育は決して高等女子教育と稱することは得ぬのであつて、單に劣等女子教育と稱するに止まるべきものである。と云ふのは斯う言へば何でもないやうでありますが、英語で高等と云ふことはハイヤーと言ひます、劣等と云ふことはローアと言ひます。そこで女子の高等教育、高等學校などはハイヤー、エヂュケーション、フオア、ガールスです。所が自から稱して女子高等教育を施して居るなど云つて居りまする所の其の教育が將來母たることに貢獻せぬのであつたならば、夫れは高等教育ではなくしてローアの劣等教育であると云ふことを言ふのであります。其の言葉を我々が云ひ換へて申しませうならば、然う云ふ教育を施して居る高等女學校があつたならば、夫れは高等女學校ではなくして劣等女學校であると斯う云ふのである。例へば其の地方に第一高等女學校、第二高等女學校があつたならば、夫れは第一劣等女學校、第二劣等女學校となるのであります。或は清水谷劣等女學校、夕陽丘劣等女學校

であると云ふべき樣に成るのである。決してハイヤーとは言ふべきものではないと云ふことを、やかましく言つて居るのであります。

然らば將來母に役立つやうに教育すると云ふのは何うであるかと言へば、第一番は如何にして各〻自分の身體に注意し、自分の身體を守るか、と云ふことを教へるに始まると云ふことであります。何となれば此の母の身體と云ふものは一の宮殿であると言ふのです。ドエライものです。母の身體は一の宮殿である。何の宮殿であるかと云ふたならば、卽ち一國の將來の生命の宮殿である。一國將來の生命は只健康なる子孫を得ることです。其の子孫が母の體內に宿るのでありますから、母の體內は一國將來の生命の宮殿である。ザ、テムプル、オブ、ライフである。然るに其の宮殿が不十分なるものであつて、屋根から雨が漏ると云ふことでは困るから、第一番に母たるものは健康なる身體を得ると云ふことである。而して其上で其の子供を正しく教育する方法を知ることであると言つて居る。故に日本で女子教育の方針を良妻賢母などゝ言ふと古めかしい、アナタのやうに新教育と云ふことを主張する人が何故に良妻賢母などゝ古めかしいことを言はれるかと云ふお問もございませうが、此ユーゼニック、エヂュケーション、ソサイテーは、卽ち良妻賢母を主張して居るの

てある。だから今の通り母たる務に役に立たぬものは高等教育でなくして劣等教育であると云ひます。乃ち教育は何處までも良妻賢母であると斷言して構はぬと思ふ。歐米の最新の女子教育の風潮は卽ち良妻賢母主義である。たゞ良妻賢母主義に種々通りがありまして、良妻賢主義だからと云つて古風な良妻賢母主義には悉く我々は贊成することが出來ない。今日我日本に於て女大學をソックリやらうとする人や、貝原益軒を無上のものだと思つて居る人があつたならば、夫れは物笑ひてあります。固より惡妻惡母であれと云ふことは何處にもない。そんなら教育の理想は何であるかと言ふと矢張り良妻賢母である。現に今言ふ通りユーゼニック、エヂュケーション、ソサイテーと云ふ新らしい會に於ては夫れを主張して居るのであると云ふことを申すのでございまする。卽ち女子は普通教育を卒へた上て如何に教育するかと言へば、是れは學校にも相竢たねばならぬが、殊に家庭の注意を促すと云ふのである、卽ち家庭に向つて體育と德育とを主にすることを主張する。其次には知育をやる。體育と云ふのは何うしてやるかと言へば、もう少し女の食物を改良すべしと云ふのである。是れは家庭に殊に望むのである。そんならどんなものを喰べたら宜いか、先づ薩摩芋、此節て云ふならば南瓜と云ふやうなものであるが、夫れも至極結構で澱粉質があつて大變うまく喰へるてありませうけれども、英國の今日要求して居るところの女子の食物をもう少し實質的にしろと云ふ注文である。如何なるものを實質的と云ふかならば、是れは無論申さなくとも分るてあらうと思ふ。卽ち女子が卒業後家庭教育の任務としてなすべきことは女子の食物を最う少し實質的にする。而して女子にもう少し空氣を與へよ、又もう少し光線を與へよと云ふのでです。空氣と光線を與へると云ふのは女子が、家にばかり閉籠つて居らずして、矢張り外に出て活潑に運動し、或は旅行するとてある。斯くして空氣と光線とを與へるのである。夫れから女子に水浴をやらせることてあります。海水浴も至極結構てす。冷水浴も至極結構てす。昨日は今歐羅巴へ行つて學校を見ると音樂、其次には割烹、洗濯と云ふことを申しましたが、もう一つ茲に注意すべきことがある。今の歐羅巴の新らしい學校、大きな學校、例へば是程の大きな學校になつたならば、當日の會場たる浪華校を指して言ふ、無論必ず一の設備がなければならぬのてあります。併し此の學校ても恐らく其點までは行つて居るまいと思ふ。夫れは何てあるかと云へば西洋の學校には風呂場があると云ふことてある。尤も日本ては風呂は隨分廉く這入ることが出來まするから、學校てやると云ふ要はないかも知れぬが、西洋は

一體湯錢が高いです。そこで市が社會政策を行ふと云ふ場合は市で風呂屋を澤山に拵へる。市營の風呂屋と云ふものが多い。例へば當り前の風呂屋に行けば何うしても三十錢出さねば這入れませぬけれども、市營の風呂屋に行けば五錢で這入ることが出來る。併しながら五錢でも尙高いと云ふのであつて、中々貧民などは子供を市營の風呂にやらない。殊に北の方の寒き國に行けば風呂に行かない。垢が一ぱい溜つて居る。だから自然に蟲が湧く。殊に和蘭の人などは垢を溜めて居るのが通例である。洋行のハイカラにも種々通りがあつて、私の一友人などは三年留學して居る間に二回しか風呂に這入らないと言ふから、「夫れは君、餘りひどいぢやないか」併し是れが西洋式だ、是れが本當のハイカラだ」と言つて歡んで居つたが、然う何も彼も西洋に疵れてしまつても困る。然う云ふ風に中々風呂に這入らぬが、今は一般に沐浴の衛生上必要なることを認めて種々の設備をするやうになつて來た。殊に學校で貧民の兒童の爲めに風呂を設けるやうになつて居る。けれども衣類が汚くして垢や虱が着いて居つては仕樣がないと云ふので、瑞典の學校では風呂から出て來るまでにチャンと衣類が消毒されて居る。實に行き屆いたものであります。けれどもまだ夫れを以て滿足はせぬのであります。是程の大きな學校でありましたならば、必ず今日では水浴場を附設して居ります。水浴場と云ふのは水を浴びる所ではない、水を泳ぐ所である。大きな學校では必ず水浴場が拵へられてある。大體謂はゞ此の講堂ぐらゐの大きさでせう、或は此の半分ぐらゐの所もある、深さは種々ありませう、或は片一方に高い臺があつて、水中に飛んで這入つて泳いで行くことも出來る。此の水浴場は固より夏分は水であります。冬分は生溫い水の所もあり、冬でも全く水でやらせる所もある。此の學校で水浴をやらせると云ふことは非常に注意すべき問題であつて、夫れは極く廉い金で入れさせる。或所では全く無料で這入らせる。海水浴も中々宜いけれど、其處へ行くのには費用が掛る。さうして遠方へ行くと云ふことは億劫である。故に學校内でやる水浴場と云ふことは大に注意すべき問題である。卽ち女子の體育は食物を實質用にする。空氣、光線を與へる。水浴をする。夫れから運動を盛んにさせることであります。此の運動のことに就ても御注意を申さねばならぬが、西洋の女は日本の女よりも能く運動する。良妻賢母と云つても其點が違つて居る。我日本に於ても是れからの新時代に立たうとする女子は此の運動體操を盛んになさるが宜い。向ふでは數年來立派な銀行員などでも、五時なら五時に銀行が退けますると、チャンと體操場があつて、其所へ行き、さう

して上衣を脱いでテニスをやつたり、其他種々の體操をやる。獨逸へ行つて見ても、巴里に行つて見ても、銀行員ばかりでなく總ての人の體操場があります。或は又小學校の教員が結合して體操場を拵へて居る。夫れから男ばかりではない、女でも矢張り夫れと同じ組織で拵へねばならぬと云ふことになつて居る。尤も是れまでは學校の教員や銀行員が役目を濟ませた後の時間一緒に寄合つてテニスをやると云ふこともあつたが、今日はもう少し進んで一緒に體操をやると云ふことになつて居る。卽ち學校を卒業したからもう運動や體操は何うても宜い、閑雅にして居れば宜いと云ふやうな人はないのである。

第二番に德育は如何なる方針を以て育てるかと申しまするとと、第一には意志を堅固にいたすことでございます。第二には秩序の精神を敎へることである。女子敎育だと云つても直ぐに忠孝だ、貞操だと云ふやうなことは言はない。忠孝や貞操を餘りやかましく言ふよりも、先づ以て秩序を敎へることが必要である。と云ふのは女で一番困るのはひこずりである。洗濯物は其邊に積んで置いて始末をせぬ。それは秩序の精神がないからである。秩序の精神がなければ一家に秩序のあらう道理なく、一家が平和に治まつて行かう道理がない。それから其次は氣分を平かにすることであります。氣分平靜、これは女の大切なことであります。男にも尤も大切なことであります。女には別して大切である。女大學のやうに嫉妬は慎むべしと斯う云ふと、もう頭から惡いことをするなと云ふやうになりますが、氣分平靜と云へば自然慎むことになる。意志を堅固にし、秩序精神を附與し氣分を平靜にしろと云ふことで、女の敎育の德育は盡きて居りますまいか。それに併せて溫和であり、獻身的、犧牲的精神を敎へなければならぬ。再言すれば意志堅固、秩序整然、氣分平靜、溫和にして獻身犧牲の精神があると云ふことであります。本當の良妻賢母たるものは、夫に自然善き模範を示し、子供に善き模範を示す、さう云ふ女を良妻賢母と稱するのであります。良妻賢母だからと云つて、外に出て種々の運動をいたし、鹿爪らしい顏をして歩いては可かない。されば云つて、だゞへイ〳〵ハイ〳〵と言つて居つても可かない。氣分平靜、意志堅固にして、夫が妻を見て恐れては惡いけれども、何となく感心するやうに、子供は矢張り母を見て其の情と威とに服するやうに、卽ち夫の良模範であり、子供の好模範であることが必要である。

其上に知育をやらせやうと云ふのであります。尤も卒業後の知育は別段深い學者になる要はない。第一番は男の心を知ることであります。どうか男の心を十分に

研究して、男の氣に入るやうにして貰ふことが、一家平靜の基である。で卒業後の家庭教育は、第一番に男の心を知るとである。第二番は行儀作法を覺えるとである。これも必ずしも小笠原流と云ふのではありませぬ。餘り小笠原流で、出入まで事々しく三つ指を突ひてやられても困る。されば云つて馴染むに從つてぞんざいになつても困るから、それだけの行儀作法を覺えること。其次は召使を使ふ心得を知ることであります。其次は母たる務を知ることであります。言葉を換へて申しますれば、兒童の生理、心理、衛生、竝びに教育の法を心得ることであります。

斯う云ふやうなことが卽ち女子の卒業後に於ける家庭教育、乃至高等女學校の大方針であると云ふのでありますが、日本の高等女學校は色々變るです。例へば女が袴を掛ける。此の袴を掛けることなどに就ては明治になつてから掛けさせたり外したりする。我々は日外大學に於て「女學校の袴」と云ふ題で講義をしたことがある。教育史を說くときには女の袴と云ふことだけでも隨分長く說けるです。明治十四年頃であつたか、當時の文部大書記官をして居つた濱尾と云ふ人、卽ち只今の東京大學の總長濱尾男爵である、此のお人が東北地方へ視察に行つた。ところが仙臺か靑森で女が皆袴を掛け、靴を穿いて居つた。それを見て濱尾さんが「斯くの如きものは女子の淑德を害するものである、閑雅でない、男子の眞似をするものである、宜しく禁ずべし」と言つて、折角穿いて居つたものを脫がせた。それから女子にして袴を穿くことがなくなつた。ところが此度は支那の大官が日本へ來て、東京の女子高等師學校を參觀した。其時その支那の大官に向つて「何か缺點はないか、若しお氣附ならば言つて貰ひたい」「別に缺點と云つてはありませぬが、强いてのお尋ならば、どうも女性が人の前で脛も現はに起居動作をすることは、少しく支那人に取つては見苦しいと思ひます、これは矢張り支那風の裳を着けるやうなことが宜しうございませう」と言ふた。それが爲に又袴を掛けさる樣になつた。斯樣にして袴を脫がせたり穿かせたりしたが、私は今のやうであつたらば、屹度これから四五年後には又袴を脫がせるだらうと思ふ。何うも德川時代には女が袴を穿いて居らなんだと云つて、屹度○○省から脫がせるであろう。さうかと云ふと又大昔は、宮中の女官などが皆袴を穿いて居つたと云ふので、或は復々袴を穿かせるかも知れぬ。さう云ふ變遷の狀態は誠に面白いものであつて、見て居ると寧ろ滑稽であります。隨つて女子の高等教育が日本では未だ定まつて居らない。獨逸でも他のことは定まつて居るけれども、女子の高等教育は昨今まで未だ定まらないのであります。併し私は夙に斯う云ふことを

主張して居りました。大都會はいざ知らず、地方に於て小仕掛の高等女學校を設立せんとするならば、文部省令でやつて居る女學校よりも、一種の技藝的學校にしたら宜からうと云ふことを常に唱へて居つたのであります。其の私の言ふたことに感じて、或郡立の技藝趣味を帶びた學校も出來て居る。否、私の豫言に違はずして、文部省も昨年になつてから高等女學校を餘程技藝的、家政的にせられたことを喜ぶのであります。私のは新しい賢母良妻主義、新しい家政主義でありますから、女學校を家政的にし技藝的にするからと云つて、高等女學校を擧げて昔のお針のお師匠さんの家に化せんとするのではない。若しも然う云ふ傾があるならば、我々は大いに歎ずるのであります。お縫物ばかりが決して女の務ではありませぬ。それは新しい家政主義ではありませぬ。

右の體育、知育に依つて始めて將來の女子教育が出來るのでございますが、それに就ては又斯う云ふ事を待たなければならぬ。先づ第一は雜誌の功能である。其次は書籍であります。其次は種々の繪畫の功能であり舛。日本にも家庭に關係し、女子に關係した雜誌もありまするが、何うも如何はしい雜誌が多い。其中でも如何はしい廣告などの載つて居るのを見て甚だ歎息するのでございます。其の次は家政學校を拵へるのであります。今の高等女學校が變じて一種の家政學校になる時機が來はしまいかと思ふ。家政學校と云ふのは佛蘭西語で言へばエコール、マテルナールである。エコールは學校、マテルナールは母、卽ち母たる學校と言ふのであります。又英吉利の言葉で云へばドメスチック、スクールである。ドメスチックは家政ですから家政學校である。追々と此のドメスチック、スクールと云ふものを拵へるやうになる。たゞ今日の一般の議論では其のエコール、マテルナール、或はドメチック、スクールと云ふ家政學校にして、宗教の根柢を有せざるものは十分に成績が擧がらぬと云ふのである。日本の今日の學校では、まだ宗教を根柢に入れるものは少ない。既に家政學校を起せば其上に家政大學校がなければならぬ。東京の女子大學でも夙に家政科をやつて居りますが、西洋のは一層大仕掛にやつて居るやうであります。亞米利加はコロンビヤ大學を初めとし、約九箇所の大學に各〻家政科が設けられてあります。これは日本で申しますれば大體高等女學校ぐらゐを卒業した人が這入るのでございまするが、矢張り四箇年の課程である。二箇年は普通科、二箇年は專門をやると云ふことは他の大學と同じことでございます。先般私はコロンビヤ大學に行きまして「我輩が十年前に見た時より何か新規に出來たものだけ見せ

て貰ひたい」と言ふと「それでは前には家政學部を主張して居つたばかりでまだ出來てなかつた、此度は夫れが立つたから見て下さい」と言ふので見せて呉れた。それは如何にも能く整頓して居ることを認めました。コロンビヤ大學の家政部は大體四つに分れて居ります。第一番は家政技術を教授するのです。第二番は家政化學科、第三番は家政の監督科、第四番は保姆科である。保姆までが大學の學科として十分に研究されるやうになつて居る。此中にも保姆諸君が居られると存じまするが、是れに由つても自分の職業の神聖なることを思はれんことを希望する。それは家政技術科を卒業した者は、自分が何もせぬても妻君となつて立派にやつて行ける。或は大きな家に雇はれることが出來る。家政學部を卒業した人は家政學の先生となることが出來る。家政監督科を卒業した人は大きな家の女中頭になることが出來る。大きな旅館の臺所頭になることも出來る。大きな貴族の家庭の召使頭になることも出來る。さう云ふやうに大學に於て種々の部門が設けられて居ることは我々の注意すべきことで、これは女子の學校卒業後の教育が愈〻家政的になると云ふことであります。

今度は第四であります、第四番にお話をしまするとは男女の教育が追々と美術化すると云ふことであるのです。強いて云へば美術教育とでも申しませうか、男でも女でも學校に居るときより既に美術を重んじさせなければならぬと云ふことは無論でありますが、今は更に卒業後に於ても家庭教育並に補習教育に總て美術的の趣味を帶びさせねばならぬと云ふ傾向になつて來た。夫れは何う云ふことから割り出したのかと云ふと、生活を美術の中に置けよ、美術を生活の中に置けよ」と言ふた先哲の言葉を實行せんとするのであります。「生活を美術の中に置けよ美術を生活の中に置けよ」と云ふ言葉であります。斯くの如く生活と美術とが結び付くと云ふと人生が非常に愉快になるのです。而も其の愉快と云ふことが劣等な愉快でもなければ極端な愉快でもない。美術に因つて起る人生の愉快は第一極めてシムプルである。極めて手數の掛らぬ簡單な愉快である。第二番に夫れは適度の愉快である。第三番は決して人に何等の害惡を與へない、何等の損害を與へない愉快である。だから簡單で、適度で、而も他に何等の害を及ぼさゞる愉快を與へると云ふものは美術に過ぎるものはないのであります。言葉を換へて申しますれば美術の嗜好があり、美術の愛玩があり、美術心のある者は危險思想などに陷る心配がない。夫れで私は危險思想の豫防の一と致しまして茲に美術を奬勵致します。

然らば如何にして美術と生活とを結び付けるかと云ふと、第一番に美術の雜誌を成るべく各家庭に普及させると云ふことであります。日本で申しますれば幸に彼の『國華』と云ふ雜誌があります。少し高價でありまするけれども、各小學校や、殊に大きな學校に於ては此の『國華』と云ふやうな雜誌を一部づゝお備へ付けになることが至極宜からうと自分は信ずるのであります。其次には美術の講演を催すのであります。其の美術の講演は色々幻燈入りでやるのである。美術の講演を空談でやつては困る。左ればと云つて美術畫の如きは畫間であれば之れを見せたら分るけれども夜は分らない、否、晝間でも掛物などを皆の者にハッキリ見せることが出來ない。隨つて美術の講演は必ず幻燈に頼らなければならぬ。日本では衞生上の講話に幻燈入りと云ふことは昔からやつて居りますが、美術には餘りまだ幻燈を入れぬやうに思ふ。丁度前回私が佛蘭西に居つたときに美術史の講釋を聽きに行つた。すると一時間の講釋に四十分まではたゞ幻燈を見せるばかりである。今は我が東京の大學でも京都の大學でも美術史の講義はスッカリ幻燈でやるが、夫れをもう少し手廣くしまして、教育會のお催しなどにも日本、支那乃至西洋の美術の講演を幻燈に頼つてやるやうにしたならば、餘程其の趣味を增すことが出來やうと思ふ。其次は遠足をすることであります。先刻申しました英國のトインビー、ホールなどでは貧民の子弟或は丁稚、小僧の爲に平生掛金をして置きまして、團體を組んで、例へば伊太利のフローレンスと云ふやうな所に旅行する。日本で云へば京都、奈良のやうな美術上の古跡に富んで居る所に旅行するのである。大阪などは近いからして時々奈良、京都へ美術的遠足を行ふことを希望致します。日本でも學校では夏向になりますると段々遠足をやりまするが、併しながら殆んど無意味の遠足旅行が多いかと思ふ。と云ふのは生徒を連れて行つても一向其の土地の說明も何もせず、不用意の遠足が隨分澤山にあるやうである。私の子供の如き先達ても學校から遠足旅行をすると云ふので、八幡の八幡樣の下に連れて行かれた。併し先生が別に八幡樣なり又其の土地の事に就て何も說明をして呉れない、たゞ其邊で遊んで辨當を喰べて來たゞけだと言ふが、甚だをかしいことだと思ふ。但し中學校などでは學生を連れて遠足旅行をすると、奈良なら奈良につき專門家が豫めチャンと調査をしまして、一枚刷の案內記を蒟蒻版で刷り、夫れを各學生に配付して居る。無論中學校と小學校とは程度が違ひますけれども、小學生相應の案內記を一枚刷か何かにして、之れを手に持たせ、奈良なり京都に行くなり、或は其他の美術に富んだ所へ行くと云ふやうなこ

とが極めて善い方法ではございますまいか。第四番は博物館を參觀させることであります。西洋各國に於ては殊に美術博物館の進歩と云ふものは驚くべきものである。夫れは何處で見ることが出來るかと云ふと、先づ亞米利加で見ることが出來ます。亞米利加は萬事大仕掛で家の建物が四十階以上もあるが、此の十年ほど前に紐育へ行つたときに、私は總てのことが大規模で、立派であると云ふことに感心したと同時に、自分が不滿足に思ふたのは博物館の建物が立派にも拘はらず、其の内容の乏しかつたことであります。其際館員が私に問うて「此の博物館に何か缺點と思はれる所はございませぬか、何か不十分な所があるとお思ひなさるならば、何うか仰しやつて戴きたい」と言ふたので、私は少しも憚るところなくして、「此の博物館の建物は頗る御立派ですが、併しながら内容が不十分である、内容が乏しいと思ひます、見れば大抵寫し物ばかりである、例へば彫刻物ならば他の國の美術の品物を模造したものである、繪畫ならば他の國の美術畫を寫したものであるではございませぬか」「御尤もです、何分此の亞米利加と云ふ國は新所帶のことでありますから、舊家のやうに美術品を持つて居ることがない、已むを得ず模造品を持つて居るのであります」と言ふたことでありましたが、今度も然うだらうと思つて行つて見ると、ナンボ美術でも矢張り金で買へる、苟くも金で買へるだけの美術品は歐羅巴へ行つてドン〳〵買ふたから、其の博物館が今日では大に面目を改めた。今は米國の各地に大小の美術博物館が續々起つて來るのであります。何うか日本も此點に於て十分奬勵したい。で博物館の參觀と云ふことを第四條に申します。是れは學校教育を美術的にするのであります。危險思想を豫防するのはたゞ朝から晩まで忠孝思想を吹き込むのではなく、夫れは種々方便がある。第一に美術教育などゝ云ふことは最も危險思想豫防に功能があると信じます。

其次は第五番であります、第五番は夏向になつて一般に遠足旅行を奬勵するのであります、だから旅行……日本でも此の遠足旅行は大分近頃大仕掛で出來るのが歡ばしい。朝日新聞社に於て滿洲地方に旅行を試みるとか、遠きは歐米を一周して來たと云ふやうなことがある。もう少し内地の方で申しますると、本年は毎日新聞社が九州の沿岸に學生を連れて旅行をした。斯う云ふ企は至極歡ばしいことであつて、今後と雖も年々然う云ふことが盛んになることを希望します。西洋では今云ふ夏季の旅行熱と云ふことが非常に高まつて居る。夫れには種々便利の仕方があつて、大概は平生から掛金が要る。又特別の保護がございます。割引がございます。

如何にも行屆いて居りまするが、昔から云ふ通り可愛い子には旅をさせよ、卒業後の家庭教育の注意は、家庭が其の子供をして適當な時季に知らぬ他國へ旅をさせよと云ふことを茲に申すのであります。尚我々の感心しましたことは此の程西洋から歸りますときには、彼の東洋汽船會社の地洋丸に乘つて歸つたが、段々若い人が乘つて居る。ヤッと大學を卒業したぐらゐの亞米利加人が幾人か乘つて居るから、「君は何うするか」と問ふと、「私は漸く此程大學を卒業しましたので、是れから何か實地の職業を見付けて夫れに從事しやう、先づ職業を定むる前に當つて一應世界を一周して見やうと思ふ、さうして種々物事を知つて徐ろに自分の爲すことを決めやうと思ふ」と云ふことでありましたが、之れに因つても西洋人は如何に旅行を重んずるかゞ分るのである。因て小學校や中學校を卒業した者には、田舍ならば大阪、京都或は東京を見せると云ふことが活きた教育ではございますまいか。卒業後の家庭教育の任務は成るべく子供に適當な準備をして、可愛い子に旅をさせられんことを希望致します。

第六は矢張り歐羅巴の新運動であつて家庭交換と云ふことであります。家庭交換と云つても自分の女房と人の女房とを取り換へるのではない(笑)一週間なら一週間自分の所の子供を他の家庭にやり、又他の人の所の子供を自分の家庭に預かつて、各〻家庭の模樣を見せるので、卽ち家庭に於て子供を取り換へるのであります。昔から教育をするのには自分の親の膝下で教育しては可かぬ、所謂甘へる、で鄕を換へて教へると云ふことは聖人も昔から言ふたとてありますが、是れは一はそれです。もう一つは西洋では他國の語學を研究することが盛んである。此の語學と云ふものはどんな善い先生に就いても中々うまく行かぬ。實際其國に行かなければ本當に習はれるものでない。夫れはマア日本でも隨分外國語は英語や佛蘭西語を能く話す人がある。けれども本當に英語を話す人間にならうと思ふならば實際英語を話す國へ行かなければならぬ。其國へさへ行きましたならば、ひどう面倒がなくして早く其の語學が習はれる。夫れが爲に英國で子弟に佛蘭西語を習はせやうと思ふ人は佛蘭西人の家庭へやつて置く。或は佛蘭西人にして子弟に英語を覺えさせやうと思ふ者は英國人の家庭に托する。卽ち家庭交換である。二箇月ぐらゐ夏季休暇の間其國へやつて置くと云ふと語學が能く習はれる。日本では未だ其の必要がありませぬけれども私は始終然う言ふのです。例へば英語を習はうと云ふ中學校の生徒は夏休暇に上海まで行つて居つたら、餘程英語が上手になりませう。西洋では

然う云ふことが非常に大仕掛になりまして、千九百三年、今から八年前、佛蘭西に萬國家庭交換會と云ふ中央會が組織されました。其會に頼みまするとアナタのお子供が英語が習ひたければ丁度英國の家庭へ廉くお世話しませうと云ふことになる。或は獨逸へやりたいと云へば獨逸人の所へお世話をしませうと云ふことに爲る。チャンと萬國家庭交換會と云ふものが出來て居る。之にて西洋は如何に卒業後の生徒をして實地的に學問をさせると云ふ方針であるかと云ふことがお分りにならうと思ひます。

最後にお話をすることは第七てあります、第七番目は青年會であります。日本でも青年會は當局者が頻りに骨を折られ、御奬勵になり、各地方に於ても追々物興するやうでありますが、何うしても卒業後の家庭教育と結び付いてやるべきものは青年會だと思ふ。ところがぢや、日本では青年會が興りまするけれども、事に據ると其中の多數はまだ青年會の本分を能く心得て居らぬやうに思ふのであります。故に今日は青年會と云ふものは何をするのであるか、歐羅巴の青年會は何をして居るかと云ふことを述べ、教育者諸君のお力を藉りて日本でも青年會を一層盛んにし、一層有效なものにしたいと云ふことを切望するのであります。抑、青年會の目的と云ふものは種々あると言ふのです。一てはないのであります。青年會の目的は三つあると云ふことを申すのでございます。第一番に青年會の目的は必ず何か仕事をすることである。青年會と云ふものは寄つて喰つたり飲んだり飛んだり跳ねたりする所ではない。青年會の目的は必ず何か寄つて仕事をするのである。けれどもたゞ仕事ばかりでない。青年會の目的は學問をする所である。併しながら仕事ぢやの學問ぢやのと云ふ眞面目のものばかりでは青年者が歡はない、故に青年會の目的は娯樂を兼ねるのである。本當の青年會は仕事と學問と娯樂とである。此の三つを兼ねたものでなければ本當の青年會とは言へない。さて歐羅巴の各地の青年會で致たして居りまするこを取り纏めて見ますると、大體九箇條に分けてお話することが出來る、第一に青年會に於きましては何れの青年會でも相互補助と云ふことをやつて居るのであります。是れは佛蘭西の言葉でミュチュアリテーと云ふことを申します。是れが青年會の根本であります、と云ふは平生一定の掛金をいたして居りまして、人の危急なとき、人の病氣のとき、人の極く必要なときに向つて互ひに助け合ふの相互補助でございます。第二番は貯蓄事業をやつて居る。第三番は體操でございます。必ず青年會に於ては貯蓄事業をやつて居る。第三番は體操でございます。體操をやる。青年會では體

操場を設けて盛んに體操をやる。第四番は遊戯をやる。日本では遊戯をやる人もあるけれども體操をやる人は少ない。第五番は音樂と芝居であります。卽ち娛樂に當る。音樂會をやり演藝會をやる。向ふの人は皆寄つて芝居をする。第六番は讀書會であります。第七番は討論會であります。第八番は遠足及び旅行であります。さうして第九番は何か手工をやると云ふことになつて居ります。此の中で私の考へまするのに遊戯としましては日本では譬へば相撲を取らせるのが宜いと思ふ。近頃大阪日報社で素人相撲を奬勵されたやうでありますが、我々も贊成をする。何も遊戯と云つてもテニスやベースボールをさせねばならぬと云ふことはない。謠を歌ふも結構である。或は淨瑠璃を語るも結構だと思ひます。又諸君が芝居をするとをかしいが、是れまで田舍の青年は皆村芝居をして居る、之れも一層改良してやらせたら一向差支がないと思ふ。日本でも上流貴顯の人が、能を舞ひまするのは矢張り一のシアターである。併しながら田舍の百姓の子に能を舞へと云つても夫れは出來るものではない。矢張り一種の村芝居の改良が必要ではなからうか。西洋では女子供が頻りに活人畫をやります。非常に巧なものであります。然う云ふ事が娛樂として何かなければならぬ。青年會であるからと云つて一寸一分の時間を惜み、常に爪に火を點すと云ふことは到底青年の心理に合せぬのであると云ふことを申します。

尙私の調査したるところに據ると、歐米各國の青年教育には各〻一大眼目を決めてやつて居ると云ふことであるのであります。知らず、日本の青年會には何を眼目として居るのであるか。或は忠孝の二字を眼目とするか。青年を報德づくめに是れからやつて行かうと云ふのであるか。西洋では何うして居るかと云ふとを申したら分ると思ふ。是れはお土產になると思ふから殊に大きな聲をして申しまするが、第一は英國である、英國では青年教育の眼目を何として居るか。夫れから次に佛蘭西では何うか。瑞西では何うか。獨逸では何うか。米國では何うか。五箇國に就て調査したとをお話致します。何れも簡單です。一言で盡きるのである。其の簡單な言葉が全體の教育を支配して居るのである。夫れが今言ふた忠孝主義や報德主義と比べて何うであるか。又今後何うして行つたら盛んになるかと云ふとに就て諸君の御注意を望みます。是れは學校教育でも宜しい、學校以外の教育でも宜しい。兎に角其の教育の方針が定まらなければ困る。今茲に言ふのは卽ち夫れに就ての眼目を定めるのであります。英國の青年教育はセルフガヴァンメント主義である。

佛國の教育主義はリベルテ、瑞西の教育主義はボン、シトアイヤン、獨逸の教育主義はアルバイトシユーレ、夫れから米國の教育主義は殊に我々が贊成するところであります。ハヽア珍紛漢ぢや。先づセルフガヴアンメントと云ふのは之れを譯して見ますると自治です。英國は自から治むると云ふことを以て、自分で自分の身を能く處理して行く、人手は藉らない。セルフガヴアンメントと云ふことを以て青年教育の眼目として居る。だから英國に於ては自治が能く十分に行き亘つて居るのであります。日本は制度は備はつて居りますけれども、失禮ながらまだ自治制が十分に行かない。外國人に誠に恥かしいやうなことが時々新聞に載つて居る。英國人はセルフガヴアンメントでありますから極めて堅實であります。佛蘭西人のリベルテと云ふのは自由で、粹であります。佛蘭西人は自由を生命と致します。併し夫れでは少しく工合が惡いと云ふので、近頃青年の教育の主義はミユチユアリテー、卽ち相互であると云ふことを唱へる人もある。或は又近頃やかましく云ふソリダリテーもある、改めて連帶と譯を附けます。一體佛蘭西固有の教育法は自由と云ふことを旨と致しましたが、近頃社會的に相結んで相互にやるとか、或は連帶的にやると云ふやうなことになつて居るが、是れは未だ一定してお話が出來ない。瑞西は昨日もお話致しました通り諸强國の間に挾まつて居るから別に武を練る必要はない。たゞ平和的の立派な市民、立派な公民になつたらば夫れで宜いのです。ボンと云ふはグッドである、シトアイヤンはシチズン、卽ち良い民になつたら宜いのだから、之れを譯すれば良民です。是れは固より異存がない。併し私が諸君にお話をしやうと云ふのは佛蘭西や瑞西を言ふのではない。獨逸のアルバイトシユーレと英吉利のセルフガヴアンメントであります。是れは先般大阪市教育會のお招を受けて公會堂でお話をしたときにも申しましたが、アルバイトシユーレと云ふのはアルバイトは働く、シユーレは學校です。學校は十年前迄は物を習ふ所であると云ふのが原則でありましたが、併しながら近來は學校は如何に働くかと云ふことを教へるのである。卽ち獨逸の今日の教育方針は既に空論を避け、たゞ文字口舌の上のことは避けてしまつて、皆手工にせよ、農業にせよ、化學工業にせよ、總ての事働くと云ふことを以て方針として居る。だから獨逸の國運は順順に增します。獨逸の國民が非常に幅を利かせて來ると云ふことは我々が注意せねばならぬ。亞米利人はラーニング卽ち習ふ事を教場で習ふのでなく、ヴーイング卽ち爲すと云ふことに由り、自から爲して習ふのである。たゞ書物に因つて習ふの

てはない、爲す事に因つて習ふと云ふのて、實際的々々々と云ふことを言つて居るのてあります。

諸君！日本の敵と云つては語弊があるかも知れませぬが、日本の競爭相手としては東の方に於ては亞米利加てあります。西の方に於ては獨逸てあり舛。無論歐羅巴まて行つて喧嘩をしやうと言ふのてはありませぬが、支那に於て日本人と獨逸人とが如何に接觸し來つて居るか。日本人は亞米利加人と友人てあると同時に又競爭者てある。私共はジョルダン博士の來ぬ前から言つて居る、卽ち亞米利加に於ては速に門戸を開放するやうにして貰ひたいと云ふことを望んて居るのてある。何うしても日本の競爭相手は獨逸と米國てある。其の獨逸は働け〳〵と言つて居り、米國は爲せ〳〵と言つて居る。日本は何と言つて夫れに對して教育して居るか。私の望む所は先づ英國人の樣にセルフガヴァンメントてす。自から身を堅く極めて、さうして獨逸人の如く働き、亞米利加人の如く爲すと云ふことてはあるまいか。マア强いて言へば日本て近頃自彊と云ふことを頻りにやかましく云ふが、現に平田男爵の『自彊講話』なども出て居る。之れに就ては我々も贊成をする。忠孝は根本てす。忠孝は精神てす。併し外に向つて發動して行くときには何てあるか。獨逸人は働け、亞米利加人は爲せと言つて居る、是れは非常なことてあると思ふ。其の言ふことに因つて諸國民の各〻の性質が違ふと云ふことを此程も言つたが、若しも人が各國人の性質を聞いたならば、英吉利人の性質は一言て云ふことが出來る、英吉利人の性質は堅いてす……堅實てあります。佛蘭西人と瑞西人の性質は意氣てす、粹てす。さて獨逸人と米國人は何てあらうかと云ふ問が出たら何う答へやうか、獨逸の國民性は頑張るのてす、何と言つても後へ退きはせぬ。此頃の摩洛哥問題を考へても然うてす。何處までも頑張るからして佛蘭西は何うも一目も二目も負けるやうてす。亞米利加は昔はモンロー主義てあつたけれども、今は然う云ふものは棚の方に揚げてしまつて、何所までも勢力を張つて行くのてある。更に言へば米人は一方から張つて〳〵順々に勢力を伸ばして行かうとする、獨逸人もまた頑として守つて一歩も退かぬ。して見れば日本も忠孝は無論必要てす、併し其上積極的にウンとやることがなければならぬ。日本人の性質は何てせうか。英の堅か、佛の粹か、獨の頑か、米の張かと云ふやうに、何か一字て形容する文字があるか。何と云つて形容するか。日本て青年教育の方針は何てあるか、皆考へて見たら分るさあらう。夫れは誠に情けないのてあります。何うか善き方に青年會を導きたい。是れが卒業後の家

庭教育の方針であります。

以上卒業後のことに就ては六箇條か七箇條ほどお話をしましたが、矢張り夫れに引續きまして、最後に家庭教育の一任務に就てお話をするのでござり舛。それは何であるかと、言葉を換へて申しますれば青年の讀物のことであるのです。尤もたゞ青年の讀物のことだけを言ふのは少し狹くありまするから、それに因みまして一般の幼年者の讀物のことを含んで申さうと思ふのです。でありまるから言葉を換へて申しますれば學校教育以外に於ける幼年幷びに青年の讀物と云ふ題でお聽き下されても差支ないのであります。此の問題は時節柄極めて必要であらうと思ふ。文部省に於かれても先般來頻りに御調査になつて、其結果の幾分を既に御發表になつて居るのは至極時の宜しきを得たものであります。私が此の題を擇びましたのも其の時機の宜しきを得て居ると思ふ。併し文部省が今さう云ふことを御調査になつて居るから、殊更其の問題に適應せしめんが爲に此の題を擇んだのではありませぬ。それは文部省が歐羅巴なり世界の新風潮を採られたのであつて、極端に申しますれば今日の歐米各國の教育界の一大問題は幼年幷びに青年の讀物であるのであります。さう云ふ譯でありますから、此の講義は矢張り世界の教育の新風潮としてお話するのであると云ふことを御承知を願ひたい。

只今申しまするやうに文部省に於て此事に氣が注かれざう云ふやうな風潮と一緒に歩調を合せて着々進めて行かれると云ふことは、我々の大いに賀する所でございます。何故に此の讀物問題が右樣やかましくなつたかと云ふことを一つお話申して見ねばならぬと思ふ。それには大いに理由のあることゝ存じます。佛蘭西に加特力教の僧侶で、教育のことに中々熱心であると聞いて居りまするスランゼ、ボーダンと云ふ人がある。此の人が昨年の家庭教育會議に於て、主として熱心に此の少年青年の讀物問題に就て論ぜられました。それは三つの理由の下に此の讀物問題が必要であると云ふのでござります。第一番に凡そ子供の時の印象と云ふものは最も深いものである。であるから學校に於て無論能く教へなければならぬが、學校以外に幸に良き讀物があつたならば、それは非常に深い印象を與へるに違ひない。成程然うでせう。私は昔圖書館蟲と言はたほどであつた。今は餘り圖書館に籠りませぬが、書生時代に一番好きなことゝ云ふたら實際本を讀むことであつた。何に一番能く錢を費したかと云ふと本を買ふことでありました。本屋に言はせると、今でも日本で本を買ふ人を十人算へたら私も其中に這入る樣ださうです。隨分餘計に

買ふ。從つて妻を迎へたときから、おれは本を買ふことが道樂だから、これだけは苦情を言はぬやうにして呉れと言つて置いた。餘り餘計に本を買ふと、妻が好い顏をせぬやうに見えたから、さう言ふたが、女狂ひでもするとか、茶屋狂ひをするのではないから、妻もどうやら堪へて居るらしい。今日私が一人で教育書類を一箇月に買ふことが、某府縣師範學校で教育書を買ふことの十年分の費用と同じであると云ふことである。それだけ私は買ふのです。固より大學では其の幾層倍も買ひます。詰り一年に約二千圓ぐらゐの教育科書を買ふ。私は一人で毎月五十圓ぐらゐは買ふです。他の物は買はぬで堪へますが、本だけは何うしても廢められない。けれども今は幾ら本を讀んでも餘り印象に留まらぬ。印象に留まつて居るのは矢張り中學時代或は小學時代のであります。それで今は餘り能く覺えられませぬが、覺えられぬでも構はぬ。これが道樂なので、本が無いと淋しいです。尤も日本の本は餘り見ない、西洋の本であります。でありまするが今は印象が深くないと云ふことを染々感ずる。何うしても子供の時に習つたことは能く覺える。そこで第一に青年幼年の讀物に注意することを求むるのでございます。第二は兒童と云ふものは誰でも本を讀むことを好むものであります。殊に繪草紙などは子供の好むものであるから、それに適當の材料を與へて遣ることが教育上必要である。第三はこれが振つて居る、今までの二箇條は餘り珍しい說でもないが、第三箇條が極めて振つて居る。曰く、今の世は印刷物の時代である、昔は言論の時代であつたこともあるが、今は印刷物が最も勢力を占めて居る。世の中に何が一番勢力があるかと云へば、新聞ほど勢力のあるものはない。內閣まで動かすやうなことになる。そこで印刷物が貴重であると云ふことを知らしめ、竝びに印刷物に依つて知識を得るやうに小さい時から習慣を附けることが必要であるから、學校教科書以外に幼年青年の讀物が大切である。既に大切であるならば、それだけ又其事に注意をせねばならぬと云ふので、……ボーダン氏自身の意見では立派な教育者が寄り合うて編輯會議を起し、適當な讀物を編纂するのが一番希望である。若し夫れが出來なければ責めて立派な教育者が寄り合うて、幼年青年の讀むに適した雜誌を編輯せられんことを希望すると云ふことでございました。一例を擧げてありましたが、これは佛蘭西の雜誌であります、だが私は其の雜誌を未だ見ない、其中に取寄せて見やうと思ふのですが、『マ、レクリアション』とか云ふ雜誌で、卽ち『私のなぐさみ』と云ふのです。これは價も極く廉い。一冊五錢です。ボーダンは頻りに此の雜誌を贊成して居りました。尙ほボーダンの意とし

ては、さう云ふ雜誌にしても書物にしても各家庭で一々買ふことが出來ないから、極く簡易の圖書館を成るべく汎く各地に立てたい。其の圖書館は教會を利用したいのである。寺院を利用したいのであると云ふ論をして居りましたが、これは非常に面白いことゝ思ひます。私は數年前神道の社や或は佛教の寺を利用して幼稚園を開くべしと云ふことを主張致しましたが、尙ほそれに附け加へて、宜しく佛閣を利用し、簡易の圖書館を開かれんことを主張したいと思ふのであります。因つて此の佛蘭西の加特力教のボーダンの説に贊成をいたして置きます。

然らば書物さへあれば宜いかと云ふと、此度は書物の取締り樣があるのであります。日本でも當局者に於て書物を取締られる。之れに就いて民間の論者などは青年の書物を取締ると云ふことは甚だ宜くない、壓制に過ぎることである、干涉に過ぎることであると云ふ非難を致しますするけれども、昨年丁度此頃英國に居りましたときに、倫敦に於きまして印刷業者、即ち書籍出版業者の大會があつたのであります。其の大會の問題は世人に危險なる思想を與へるもの、危險なる思想と云ふのは必ずしも社會主義を云ふのではありませぬ、所謂自然主義でも何でも宜い、淫猥なることを敎へる、總て善くない所の思想を與へる、さう云ふ危險なる書物を取締るのは出版業者の任務である、竝びに當局者に於てもさう云ふものはドン〳〵取締るが宜い。否、遞信省に於て若し斯くの如き書物を發見したならば、斷然發送を禁止するが宜いと云ふことを主張した者がありました。併し夫れは採用にならなかつたと思ひますが、英國の如き自由國に於ても、之れに依つて如何に幼年青年の讀物に注意して居るかと云ふことが分りませう。尙昨年白耳義の會議にて、これは餘り名前の聞えた人ではありませぬが、フローアヂェールと云ふ人が非常に面白いことを言ひました。今や各國政府は年少者に所謂アルコールの飲料を賣ることを嚴禁して居るではないか……日本でも十八歲以下の者に對しては然うである……して見れば何故に危險なる書物を賣ることを禁じないか。アルコール飲料を禁ずると同樣に必要である。或一定の年齡以下の子供には、父母其他の代表者の然るべき證明の無い限りは、決して或る種類の書物は賣らないやうにしたいと云ふことを主張致しました。これも歐羅巴思想界一部の傾向を見ることが出來ると思ふ。さてさう云ふ風であります すれば、又一面には如何なる書物が最も良いかと云ふ問が起る。そして良き讀物とは如何なる資格を備へることであるかと云ふと、之れに就ても種々の話がございますが、第一番にお話を致しまするのは、矢張り白耳義の人でございまして、エルバー、

ボッバルーと云ふ人が言つたことて、凡そ善き書物と云ふのには二つの資格を兼ねて居らなければならないのてある。第一の資格は醒めたる論理と云ふのてす。一昨日お話を致しました通り、物の理窟と云ふものは何うても言へる。危險思想ても理窟を立てゝ言へばどんなことても言へるだらう。狂人ても一面から見れば理窟のあることを言ふ者てす。て良い書物は餘り奇拔てなく、餘り片一方に偏して居らず、當り前の理窟のものてある。卽ち眞面目にして醒めた理窟が書いてあるものてなければならぬ。發狂染みた一杯機嫌の浮れ調子の理窟てなくして、醒めた眞面目な理窟の書いてあるものてなければならぬ。そんならと云つて筋が通つて居り、理窟が立派ても、それだけては人の讀まないものてある。況んや青年になつて來るとそんなものは何うも硬苦しい、蠟を嚙むやうだ……今て言へば白墨を嚙むやうだ……と言つて讀まない。それて必ず第二の性質が要る。第二の性質は何てあるかと云へば眞の美麗てす。必ず其者が美文てなければならぬ。文章が好くなければならぬ。麗しくなければならぬ。尤もコテ〳〵と作つた怪しげなる美しさてはない。良き讀物とは醒めた論理に基き眞の美文て飾つたのてある。例へば小說は矢張り人が好んて讀むものてす。病氣して居るときや草臥れたときには、誰も眞面目な本は讀まない。それで醒めた論理を眞の美麗な文で書くことが必要である。筋が通つて居つて、而して成程と感心させるやうな書物を良書と云ふのてす。其の裏を云へば、醒めたる論理に非ざる書物は皆夫は不忠實なる書物てある。眞の美麗に非ざる書物は我々は之れを虛僞と言ふ。或は虛飾と云ふ。だから不忠實にして虛飾の書物は我々は之れに反對するのてある。と云ふことを申されてありますが、我々は之れに贊成致します。語を換へて申しますれば、醒めたる論理は青年幼年の堅固なる判斷を養ふてす。眞の美麗は青年幼年の美しい情緒を養ふのてあります。判斷と情緒とは之れに依つて二つ兼ねられるのてあります。

併し夫れにも增して私の感心致しましたのは和蘭人のエッセリングと云ふ人の言つた言葉てある。別に珍らしくはないけれども、簡單にして要を盡して居る。凡そ良き書物は三つの性質を帶びなければならぬ。夫れは知眞……眞を知ることてある。世の中の眞の道理を知ると云ふことてある。さうして愛善……善を愛すると云ふことてある。さうして味美……美を味ふと云ふことてある。別に珍らしいことてはない、所謂眞善美てす。眞善美てはあるが、本當の良き書物は知眞、愛善、味美

と云つたのは至言である。此の三つの資格が具はつて居るのでなければ、青年や少年は歡んで讀まず、又我々も奬めぬのである。良書はたゞ徒らに道理を說いたばかりでも可けなければ、餘り堅苦しくても可けませぬ。同時に又美でなければならぬと云ふことを言つたのは、諸君の御注意を煩はすのであります。言葉を換へて申しますれば則ち小說と云ふものが學校以外に於ては青年少年の讀物として最も適當なるものであるのであります。是れは日本の或部分の御意見とは違ひまする。けれども話を能くお聽きになつて行つたら分ります。小說と云へば一概に惡いやうに言ふけれども、併し人の好んで讀むものは多く小說である。然るに小說を惡く云ふのは今日の小說の多くが今言ふ醒めた論理でなく、眞善美のものでないからである。眞善美のものであるならば眞に人の心に感化するのであります。學校の先生の六づかしい話よりも淨瑠璃、浪花節を聽く方が功能のあると同じく、鹿爪らしく書いたものよりも小說の方が功能が多いと信じます。之れに就て私の曾て調査したとがある……夫れは巴里や倫敦に澤山の圖書館がある。然も巴里や倫敦の大圖書館は頗る大きうございます。併し巴里に行けば大圖書館の外に普通の圖書館が澤山ある。私の記憶にして謬らずんば九十程あると思ふ。倫敦にも凡そ九十程あります。

夫れは日本の大阪と西洋の倫敦、巴里とは人口が違ふと云ひませうけれども、何れにしても九十以上の普通圖書館があると云ふことは非常に注意すべき問題であります。而して其の圖書館は日本の圖書館とは丸で違ひます。日本の圖書館は何うしてあんな風になつたか。圖書館と云ふたら其所へ行つて本を讀まねばならぬやうに言ひますが、夫れは西洋でも行つても讀むことは讀みまするけれども、今言ふ九十程の圖書館は其處へ行つて本を讀むのよりかも、大概は皆貸出圖書館であります。さうでありますからチャンと日を定めて書物を貸出します。一週間の木曜日の午後とか、水曜日の午後とか云ふときは、役場の書記のやうなものが一人手傳ひすれば立派に書物の貸出が出來る。然う云ふ風にして家々に書物を借りる。大抵二週間借る。尤も本を借らうと思ふと初めは身元の證明が要る。何處の人やら分らぬ人には貸しませぬ。大抵其の町なり其の村に住んで居る人に貸すのでありますから身元が能く分かつて居る。又旅の者でも何處其處に居ると云ふことが分れば貸して呉れる。斯樣に西洋の圖書館は皆貸出圖書館であるのでありますが、其の九十餘の圖書館はどんな風に書物を配當して居るかと調べて見たところ、是れは英國の統計表に依つて見たのでありますが、大體書物を四つの部門に分つて居るのでありま

す。第一部、第二部、第三部、第四部と云ふことになつて居りまして、第四部は參考書であります。第三部は一般書籍であります。第二部は少年書類であります。而して第一部は小說であります。是れはそんじよそこらの人にお知らせをいたしたいのであります。ですから、態と斯う云ふ風に逆にお話をしたのであります。小說は一概に害があると云ふけれども、併し誰れも白墨は嚙まない美味い物を喰べるのである。マア一概に小說は排斥すべし、小說は可かぬと云ふことはない。西洋では小說を重んずるから小說が出るわ〳〵。夫れは實に小說の出版が多い。倫敦の總ての圖書館に於て備付けてある小說は中々多い。參考書は別ですが、總ての書物の四分の一は小說でありませう。四分の二は一般書類。然う云ふやうにして皆家庭に借りて來る。だから西洋人はみな女の人でも誰でも一寸腰を掛けると老人は編物をする。若い人は本を出して讀む。誰も修養書を讀む者はない。皆小說である。現に神戸にも居留地には此種の貸出圖書館があると見えて、西洋人は自分の身體に飯を喰ふが如く精神に書物を喰つて居る。然るに小說などは空論だと言ふ人がある、大學の我々の友人中にても、然う言ふ人がある「君、一體小說などは嘘だ、今の理學の盛んな世の中に於てそんな嘘のことを讀んで時間を費すのは實に馬鹿だ」と云ふ批難を屢〻聞くのであります。卽ち往々理學者などの連中からは然う云ふことを聞くです。けれども我々は默つて居る。それは然う云ふ先生よりも遙かに偉い理學者が矢張り小說を主張して居るのであります。夫れは誰であらうか、彼の進化論の親玉ダルヰンであります。ナンボ日本の理學者の諸先生がえらいと云つても、ダルヰンよりもえらいと言つて高慢はせまいと思ふ。此のダルヰンと云ふ人が死ぬ前に友人にやつた書翰の中に斯う云ふことが書いてあるのである。「私は既に年を老つて來たが、若し私がもう一度生れ變つて來る日があつたならば、私は少しく規則を更へて多少の詩歌を讀むと云ふことを日課とし、尙一週間に少なくとも一回だけは美しい音樂を聽くと云ふことを日課にしやうと思ふ、若し然うしたならば私のやうに早く老朽になることがなくして餘程幸福を增したらうと思ふ、然う云ふものを讀むことや聽くことの樂みのない人は、幸福の幾分を失ふ者である」と云ふことが書いてあるのである。ダルヰン先生は小さい時から種々の動植物ばかりを愛して進化論を研究したが、人生は理窟ばかりでない、人情もなければならぬのである。人情は進化論では分らぬのである。夫れは小說が分らせるのである。或は音樂が分らせるのである。所謂詩歌が分らせるのであると云ふことはダルヰンの懺悔話：

述懷話に在るのである。是れには我々が耳を傾ける直打があるのではございますまいか。

右樣のことを原則と致しまして、西洋各國に於ては子供に讀ませる本を何う云ふ風にしたら宜いかと云ふことに就て種々の說がある。夫等の說を參考して私は其の書物の名を列擧して見やうと思ふのでございます。夫れは大抵斯う云ふやうにいたすことになつて居る。マア誰も三歲より下で本を讀む者はなからうから、アマ三歲から七歲まで、夫れから七歲から十二歲まで、夫れから十二歲から十六歲まで、さうして十六歲から以上、大體これで分つて居ります。卽ち幼稚園時代。夫れから普通敎育時代、卽ち小學時代。夫れから又中學時代、中學生以上と云ふやうなことになりませう。斯う云ふ風に分けてあるやうでありますから、夫れに因つて申しますると、が、三歲から七歲までのところに於いて讀むべきものは何であるかと申しますると、是れは日本のお伽噺で宜からうと思ふのであります。お伽噺と云ふものは國民文學の根抵であるのでありまするから、是れはお伽噺で宜からうと思ふ。併し日外清水谷でもお話をしましたやうに、何うも日本のお伽噺は立派なやうで、而して不立派なのが多い。例へば桃太郎の話を誰やらが牽强けて、是れは日本人が遠征、卽ち領土を擴張するの意味だ、誠に勇ましい物語だと言つて、近頃は大分買被つて居るやうでありますが、あれは伊弉諾尊、伊弉冊尊の神話を書いたものであると云ふことは先哲が夙に研究して居る。夫れから又舌切雀の話は動物虐待を敎へるものであると云つて、私は話をしたことである。夫れが大分諸方の新聞や雜誌にも載つたやうである。私は日本のお伽噺は何分幼稚であると云ふことを高言して憚らぬのである。併しながら子供の時からハイカラ染みるのも可かぬから、マア適當なお伽噺にして置きませう。

其次に七歲から十二歲まで、此の時期に於て採るべきものは先づ西洋の話、否、西洋と云つても世界中でのお伽噺である。夫れは獨逸のグリムと云ふ人の物語を採用したいと思ふ。グリムと云ふ人は文學者である。此人が昔から獨逸に行はれて居る種々の物語を集めた、所謂『グリム物語』でありますが、是れはまだ不幸にして日本に悉く飜譯にならぬ。併し追々文藝委員などが文部省に置かれたことでありますから、必ず遠からず飜譯になることゝ信ずる。又其の幾分は旣に巖谷小波君などに由つて譯されて居る。諸君！『グリム物語』が如何に必要であるかと云ふことは、古い話でありまするけれども、ヘルバルト派などに於ては第一年級の子供に敎へるの

に、其の百編の中の十二編だけを選擇して、之れを修身教科の材料にしたと云ふことに因つても分るではござりませぬか。其の話は流石に日本の舌切雀や勝々山と比べて見ると、餘程立派なものであると思ひます。私の一番に言ふのは有名なる『星むすめ』と云ふ話である。夫れは幾歳かの少女があつて、さうして手にパンか何かを持つて獨りで野原を歩いて居つた。さうすると向ふから非人がやつて來て「お嬢さん〳〵何うも私は此間から何も喰べないので、お腹が減つて堪りませぬ、何うぞ其パンを些と下さいませぬか」「些とではない、丸で上げませう」日本のやうに「桃太郎さん、〳〵お腰のものは何でござりますか」「日本一の吉備團子」「一つください」「一つはやられぬ、半分やらう」と云ふのとは少し違ふ。少々下されと云ふたら丸でやると言ふた。夫れも鬼ヶ島を征伐に行くから戰の役に立てやうと云ふやうな、交換的の約束は含んで居らぬ。夫れから又向ふの方へ行くと、一人の憐れなる人があつて「お嬢さん〳〵私の小供は着物が無うて寒うて堪りませぬ、何うか其の着物を一枚下さい」「ア、一枚ではない、丸で上げませう」と言つて襦袢を一枚だけ殘して、外の着物を皆やつてしまつた。又向ふの方へ行くと同じやうな人が居つて「私の所の子供は帽子が無うて困つて居ります、何うぞ其の帽子を下さい」「ア、宜いとも〳〵、帽子を上げませう」又向ふの方へ行くと素足で立つて居る弱さうな小兒があつて「お嬢さん、私は靴を買はうと思ふけれども、お錢がない、何うぞ私に其の靴を下さいませぬか」「ア、宜いとも〳〵、靴を上げませう」と云ふので到頭パンも着物も帽子も靴も皆人にやつてしまつて、だと「襦袢一枚となり、さうして野原をブラ〳〵と行つたが「ア、善い事をした」と思つて少しも悲しむ氣色がない。すると何うしたものか、天から花火の流星星下りのやうに、ピカ〳〵と輝くものがバラ〳〵降つて來た。何うしたのだらうと思つて、其處へ行つて見ると、キラ〳〵したものである。一々拾つて見たら、夫れが丸て黄金であつた。夫れが爲に其の少女は立派な分限者になつたと云ふ話であるが、丁度日本に於ける花咲爺の話と能く似て居るのでありますけれども、少し其間に違ひがあつて、是れは矢張り何處までも慈善喜捨心と云ふやうな精神を養ふことの主義が立つて居るのではありますまいか。花咲爺の話も至極結構ぢやけれども、此方がもう一段進んで居るやうに思はれる。もう一つ私の能く言ふ話は、是れも面白いから序に申して置かう、茲に消炭、長い藁、蠶豆の三人が連れ立つてズッと旅をして行くと、向ふに小さい流れがあつた。一同流れへ飛び込む譯にも行かないで、ほと〳〵困つて居ると、藁が言ふのに「皆さん、心配しなさるな、私がポンと寢たら橋になるから、私の背面の上に乘

つてお渡りなさい」と言ふ。「それよからう、それでは頼む」と先づ消炭が藁の上に乗つて行つた。所がまだ少し火の氣があつたものと見えて、それが藁にうつり、クス〳〵と燻ぶり出し、流れの中央で藁がボッキりと半分に折れて、消炭は河の中に溺れてしまつてシウーと云ふた。すると蠶豆が岸の方から之れを見て大口を開いて笑ふた。之れを上帝が咎めて、難儀は互ひに助け合ふべきことであるのに、友の難儀に陥つたを見て笑ふとは怪しからぬと云つて、黒い糸を以て蠶豆の口を縫ふたから、今に蠶豆は口が皆黒くなつて居る。日本ではお鐵漿を着けたと言ふけれども、あれは口を縫ふたのであると云ふのです。斯う云ふ話は如何に慈善心や公共心を教へて居るかと云ふことが分りませう、然う云ふ話が大體百ばかりもある。何うか是等を御參考になることを希望致します。固より是れは何處でも殆んど共通的に讀むやうでありますから茲に申して置きます。

夫れから十二歳から十六歳までに讀ませまするのは、是れはもう世界で一番の讀物である彼の『ロビンソー、クルーソー』であります……『ロビンソン漂流記』でございます。是はもう恐らく世界で教育者とても云ふべき人にして讀まぬ人はなかう。之れを讀まぬ人があれば恐らくそれは日本の教育者だけであらうと思ふ。切めて子供に讀ませることがまだ遠いのであるならば、何うか學校教員諸君は御一讀あることを希望する。是れはもう人生の妙味を能く穿つたものとして、萬國此の書物の上に出るものはない。何うか諸君にお奬め致します、夫れと竝べてお奬め致しますのは、彼の『ドンキホーテ物語』であります。是れも大體『ロビンソー物語』のやうに殆んど萬國で讀みます。非常に面白い。是れが如何に大切であるかと云ふことは、今度文藝委員が出來ましたに就て、其の文藝委員の中の島村抱月と云ふ人に文部省から囑托せられて全部飜譯になると云ふのて分りますが、私は實に喜びます。併し其の飜譯は急には出來難いことてあらうと思ひますから、手近なのはッヒ『ドンキホーテ物語』と云つて僅か三四十錢のものが坊間に賣つて居ます、昨年あたりに出來ました、何うか彼れをてもお讀みになることを希望致します。夫れから其の次に讀みまするのは『アンデルセン物語』であります。アンデルセンと云ふ人は丁抹の文學者である。最早亡くなつて卅年程になるが、先年誕生百年祭のときに私はアンデルセンのことに付き弔文を書いて『讀賣新聞』に載せました。是れも中々面白い。子供の讀物が『グリム物語』てあれば少しく年の行つた者は『アンデルセン物語』が宜い。此の『アンデルセン物語』は幾らか男女の情と云ふやうなことが入つて居る。

一寸いま譯者の名は記憶しませぬが『アンデルセン物語』の方は近頃全部飜譯になつて居りますから是れも諸君にお奬め致します。此の『アンデルセン物語』の中には種々指環に因んだ話などがあつて、少年少女には至極面白いやうに思ふのであります。此の指環と云ふことに因んで、先日鹿兒島で私の此の指環の話をしたことがある。すると『指環の光』と云ふ題で鹿兒島の新聞が二つとも小說見たやうに書いて呉れた。と云ふのは私の玆に差して居る指環には中々に由來があるのであつて、是れは實は私が何も結婚をするときに妻との間に取交したのではないのです。又之れを差して居るからと言つて別にハイカラがるでもない。あり樣を白狀して見ると前度洋行するときに購ふたのである。其の故は西洋では結婚した者は皆指環を差して居る。先づ指環を差して居らぬと云ふと相應の紳士として待遇して呉れない。ところが私は西洋でドエライ若く見えて、前に佛蘭西に居たときには、私から幾歲に見えるかと言ふたら、或人が十八だらうと言つた。今度も又二十七だらうと言ふた者がある。十八から二十七になつたのは當然であると云ふのは、十年前に十八であつて十年後に廿七になつたのだからて、矢張り前の通り若い。否、餘程高う買うて呉れても三十五六より上には買はぬ。本當の年よりは十歲も若く見えるのであ

る。況んや體軀が小さいから半分は向ふも子供あしらひにしてしまつて居るのであらう。私はそんなことは少しも頓着せずして平氣な顏をして歩いて居る。そして幸に何處に行つても相當な待遇をして呉れたは蓋し此の指環の德と謂はう。且つ又彼の國の習慣で此の指環は既婚者が差して居ると云ふことになつて居るのだから、之れを差して居ると女難除にもなるのである。即ち是れは勿體なくも紳士體面保持、女難除の指環と云ふのである（笑聲起る）夫れに就て面白いのは先回洋行の時である。私が巴里に居つた時に或人が來て「これから一緒に女子師範學校へ參觀に行かうではないか」と云ふから「夫れでは一緒に行かう」と言つて連立つて參觀に行つた。すると校長が出て來て內へ通し、スッカリ教室を見せて呉れた。或教室では佛蘭西文學か何かを敎へて居つたやうである。ところで校長が言ふのに「何うてす、一寸簡單なお話でもなさつて下されば大變都合が宜い」と云ふやうなことで、日本でも同じことである。私は望に任して「アヽ、宜しい」と言つて準備も何もしてなかつたが、突と立つてマア何か話をした。自分にも其の喋つたことが一向分らぬから、向ふにも分らなんだらうと思ふ。けれども夫れが大層能く出來たと云ふので、私の話が濟むと、其級の中から一人の總代らしき女が立つて挨拶をして呉れた。夫れは私の話

が面白いとか感じたとか言ふたのである。それから演説が濟んで、此方に出て來ると校長が「まだ御覽に入れるものがある、夫れは卒業生の團體が拵へて居る種々の事業でござりまする」と云ふのでマア夫れを見せて呉れた。そこで私は校長に挨拶をして「是れでお暇をしまする」と言ふたら「もう少し見てお貰ひしたいものがある」「何所でありますか」「寄宿舍を一つ御覽を願ひます」と云ふ。有樣は私等も寄宿舍を見たい。何も女の寄宿舍だから覗きたいと云ふ、そんな野心はないが、西洋の女學校の寄宿舍はどんな風に管理されて居るかと云ふことを見るのは、教育學上必要であるから、寄宿舍を見たいのは山々であるけれども、私のやうなづう〳〵しい男が女ばかり居る寄宿舍を見たいと云ふやうなことを言つて謝絶されてはテレ臭いから、もうお暇をすると言つたのである。と云ふのは又由來があるのです。私が行つたよりも一箇月ばかり前に、今日日本で有名な人、……併し是は失敗した方だから、名前だけは略して置きますが……其人が某女學校へ參觀に行つて教室を見た。夫れが濟んでから一つ寄宿舍を拜見を願ひたいと斯う言ふたら、「少し差支があります」「一寸端の方でも構はぬ、見せて貰ひたい」と言つても何うしても見せて呉れない。到頭拒絶されてしまつて見ることが出來なんだと云ふ話を聞いて居たから、今日も亦私が然う云ふことを言ひ出したら同じく拒絶せられるであらう。そんなことになつては、第一日本の恥だと思ひ、チャンと氣を利かして、「種々お取込でもございませう、夫れは拜見せぬでも宜しうございます」「イヤ然う仰しやらずと、是非見て戴きたい」と言ふから、私は不思議で堪らぬ。私がお爺さんと云ふ譯でもない、或人からは十八だと言はれて居るくらゐだのに、何う云ふ譯で自分には見て呉れと云ふのであらう、前の男には何故見せなんだのかと思つて氣が注いて見ると成程解めた此の指環の光ぢや（笑聲起る）マア斯う云ふこともあつた。それで今度洋行をするのにも矢張り之れを差して行つて、種々の社會的の調査をし教育上の取調をした。今言ふた通り西洋では紳士と云はれ、殊に既婚者は指環を差して居るのだから、私も紳士として待遇を受け、餘程の便利を得た。是れが所謂紳士體面保持、女難除の指環と云ふ所以である（笑聲起る）で日本でも必ず之れを眞似られよと云ふのではないが、此の話を鹿兒島の新聞が二つとも筆を競うて面白く書いて呉れた。が最う少し面白い指環の話が『アンデルセン物語』の中にありますから、何うかお讀みになることを希望致します。

それから其次に讀むべきものは伊太利の本です、『ケウル』と云ふたら誰でも知つて居る、これは英語のハート、卽ち心と云ふことです。私が前に伊太利に居るときに、

伊太利では子供を何と云ふ書物を以て教訓するか、伊太利の國民的讀本の最大書物は何であるかと云ふことを調べて見たら、此の『ケウル』に據つて教訓されて居ると云ふことが分つた。『ケウル』とは今言ふ通り心と云ふことである。これは伊太利の少年の極く勇氣に富んだ話などをを澤山寄せたのであつ。であるから『伊太利少年魂』とか、或は『伊太利魂物語』とでも言ふべき書物であります。既に此の本は百幾版を重ねて居るのであつて、日本では未だ悉く飜譯になりませぬが、其中の十ばかりは東京の何處かで先年出して居るやうに思ふ。（後註。本年に入りて全部飜譯成れる由私は此の『ケウル』を八九年ばかり前に讀んだのだから確かなことは覺えませぬが、書中には或少年が學校へ行く途中一人の老爺が馬車に乘つて來た。然るに馬が暴れて老爺が馬車から落ち、大變に怪我をした。それを右の少年が介抱した爲に學校が遲れた。併しながら學校へ來て、先生から何故遲刻したかと言はれたときに、老人を助けたことを言はずして、『先生、誠に惡うございました』と言つて其の罪を謝したと云ふ。これぞ本當の伊太利の子供であると云ふやうな美談が載つて居たと思ふ。西洋にはさう云ふやうな國民的の讀本が種々あるのであります。例へば英吉利ではシェークスピヤ、獨逸ならゲーテの『ファウスト』である。日本にも『源氏物語』などがありますが、斯う云ふ書物で教訓されたらば勇往邁進、剛氣堅實な國民になりませうか、それともハイカラになりませうか、自然主義になりませうか、御承知の人は分ると思ふ。『枕草紙』の清少納言のやうな女が出來たらば、誰も奥さんに貰ふ者はないであらう。女子教育は紊亂すると思ふ。併し只今申した書物ならば殆んど萬國で讀むものであるから、茲に諸君の御參考に擧げたのであります。

それから十六歳以上の所でお勸め仕ますものは、これは旅行記であります。それから更に進んで斯う云ふやうな書物を讀まして貰いたいと云ふことを、昨年の萬國會議に於ても矢張り申しました、……例へば空中旅行或は海底旅行、或は地底旅行などである。即ち當り前の旅行記の外に空中旅行、地底旅行、海底旅行とか云ふやうな話を讀まして貰ひたい。先年日本で中學生が何う云ふ書物を好むかと思つて取調べたら、最も好むのは例の『冒險世界』と云ふ樣な雜誌でありました。西洋の昨年の會議で言ひましたのは空中旅行、海底旅行、地底旅行であります。此の空中旅行と云ふのは、曾て佛蘭西人が拵へたものでありまして、我國に於ては明治十五六年頃飜譯になりました。今は却つてさう云ふものを讀まないのは如何にも殘念であるですが、佛蘭西では更に新しい空中旅行の本を拵へやうと云つて居るさうである。前

の空中旅行と云ふのは未だ飛行機はありませぬ。大砲をドンと射て其の大砲の彈丸に乘つて、月の世界へ飛んで行くと云ふやうなことが書いてある。月世界旅行と云ふのも其の種類であります。海底旅行と云ふのは潛水艇で遣るのであります。是も古い飜譯がある。今日は潛水艇が一般に行はれて居りますけれども、其頃は潛水艇が一の理想であつて、實際には行はれなんだ。併しさう云ふものを讀んで居ると、自然發明工夫の心が起る。一國の文明は何うしても發明工夫に待たねばならぬ。故に十六歳ぐらゐの年が來たら海底旅行、地底旅行、空中旅行を讀ませるが宜い。今でも古本屋、又は圖書館にてもあるでせう。價は五十錢か六十錢です。是等の本を再版して賣り出したら非常に便利だと云ふことを私は主張したのでありますが、これと一緒に竝んでなほ面白い本は、『八十日間世界一週』と云ふものです。本日此の席に大體六七百の人が居られるが、斯う云ふ本を讀んだか讀まぬかと云ふ統計を取つて見たらよからう。私は實に此の本を面白く讀みました。それは英吉利に或二箇の人があつて、一人の方が對手の人に言ふのに『お前が世界を八十日で廻つて來たら五萬磅？の賞金を遣らう』と云ふた。そこで約束をして、其の人は英吉利を出發し、ズッと一人で東の方へやつて來ると、到る所で難儀に遭ふ。印度へ來れば虎の難儀に遭ふ。支那に來れば天災の爲に前途を遮られる。或は日本に來ると捉へられて横濱の輕業師に賣られるとか、種々の困難をして、遂に世界を廻つて倫敦に歸つて來た。所が豈に計らんや八十一日掛つた。八十日で廻ると云ふ約束のものが八十一日掛つたのである。そこで約束通りよりは一日遲いのだから、其の人は大に悄氣返り、門を閉ぢて溜息を吐いて居つた。ところへ對手の人が來て「君、無事に歸つて結構だナ」「もう一日早う歸れば宜かつたのに、一日遲れて八十一日掛つた、僕は失敗だ、誠に君に會はす顏がない」「それで僕は約束通り五萬磅持つて來た」「それは受取ることは出來ない、君は厚意上、僕の難儀を勞つて五萬磅與れると云ふのだらうけれども、僕は約束よりは一日餘計に掛つたのだから、其の金は貰ふことは出來ない」「君は確に八十日目に歸つたのだから何うしても受取つて與れ」「けれども八十一日目に歸つたのだから貰はれぬ、僕はフェヤーブレーだ」「それでも最早此の金は君のものだ、夫れを受取らぬと云ふことがあるものか」と双方とんちんかんで爭つて居つたが、段々調べて見ると、日本から亞米利加へ行くときには日が一日延びる。同じ日が二日ある。亞米利加から横濱へ歸るときには日は一日減る。それを知らなんだから其の人が亞細亞から亞米利加へ廻つたので、一日後れたと思つても實は同じ日が二日あつて、倫敦に

着いて見ると矢張り八十日目であつたのじや。て遂に其の五萬磅を貰つたと云ふ筋である。是れは世界を一週して或所を通るときに日が一日延びる、或は日が一日縮まると云ふことを敎へる目的である。斯くして敎へれば、地球が圓いものだと云ふことを、單に地理學的に敎へるよりも、本當の印象を頭腦に與へるのではなからうか。現に私も先回亞米利加から日本へ歸るときに、十二月の何日であつたか、日曜日の一日飛んだことがある。一寸は日曜日であつたが、朝の九時頃からパッと月曜日に飛んでしまつた。我々は船の上で始終退屈して居たから、一日飛んだ方が早く家に歸れると思つて喜んで居た。ところが西洋人は然う行かない。宗敎心が熾んであります。宗敎の儀式が盛んであります。船に乘つて居りましても、日曜日はチャんと大食堂か、或は大きな座敷に寄りまして、牧師が乘つて居れば宜し、乘つて居らなければ、船長などが牧師となつて儀式をする。そこで此日も十時頃から禮拜祈禱の儀式を始めねばならぬのに、一日飛んでしまつたので、儀式を何うするかと云ふ問題が起つた。「今日は廢めに仕やう」、「イヤ一週間に安息日がないと云ふことは不思議だから、矢張りこれからやらう」、「けれども月曜日に日曜日の禮拜をすることは出來ない、廢めやう」、「イヤやらう」、「此の日曜日を飛ばしたのは神樣が飛ばしたのだ、我々が飛ばしたのではないから、別に禮拜はせぬても宜からう」、「だつて二週間の間安息日の儀式をせぬと云ふことは面白くない、矢張り日は何うなつて居つてもやらう」と云ふので、少數の人は儀式をやつたやうであります。私はそれを聽いて居て、大變に面白く感じた。これは『太平洋航海日曜日物語』とでも名づけて、矢張り新聞の一日や二日の物語になりはせまいかと思ふ。さう云ふ樣な話が重なると種々の發明發見の心を養ふことが出來る。飛行機でも何でも佛蘭西人が初めに考へ出すと云ふのは、矢張り子供の時からの敎育が違つて居るからである。忠孝で固めたら戰爭の時には宜いだらうが、又平生から今言ふやうなことで以て固めなければ、日本人は不斷外國人の眞似をするばかりで、一向發明工夫と云ふやうなものが起るまい。今日まで日本人にして堂々たる發明工夫をする者の無いのは、甚だ遺憾であると言はなければならぬ。私が前度佛蘭西に居つたときに、豫て懇意にした佛蘭西人が「君、僕は一つ面白いものを發明したのである、これは有效な潛水艇であるから、日本が使うて呉れたら結構である、日本政府に賣渡したい、何うか世話をして呉れ」「承知をした」と言つて、それから私は巴里の大使館へ行つたときに、館員に其の話をした。けれどどうしたものか然う云

ふものは買はぬ方が宜からうと云ふことになつてしまつた。それから私が日本へ歸つて來て、四五年經つと云ふと、其の人から手紙が來て、「君に豫て心配を懸けた事のある彼の潛水艇は、幸に佛蘭西政府が買上ることになつて、僕は三十萬圓の金を儲けた、それが爲にこれまでは貧乏であつたが、一躍して別莊を買うた、斯う云ふ大きな別莊である」と云つて、其寫眞を封じてあつて、「君もう一度遊びに來玉へ」と言つて來た。

で又緣があつたら行かうと思つて居た。卽ち昨年佛蘭西へ行つたときには、其の人の所へ行かうと思つたが、巴里から大變に遠いのである、此の大阪から東京へ行くよりも最う少し遠いので、時間の都合上行くことが出來なかつた。ところがなほ其の手紙に、「此度はもう一遍儲けやうと思ふ、と言ふのはこれから後は飛行機或は輕氣球が戰爭に使はれるやうになるに違ひない、其の輕氣球や飛行機に兵隊が乘つて來る、それを破碎するもの、卽ち空中兵器破碎機と云ふものを發明しやうと思つて着手して居る」と書いてありました。既に潛水艇で軍艦破碎を企て、また更に一躍して空中兵器破碎機を發明しやうと云ふのは面白い。畢竟平素の敎育が餘程與つて功あるものであると云ふことは、我々の大いに參考にせねばならぬことと思ふのでございます。

併しながら是等の話を言ふ前に、是非とも男女の諸君に各〻御一讀を希ひたい書物があるのであります。それは男の諸君にお奬めをしますのは、每々私の申すとてございまするが、卽ち『三家庭物語』と云ふのであります。これは飜譯が出來て居ります。恐らく男子の讀物としては、これの右に出づるものは無からうと思ふ。大體の趣意は私の拵へました『新敎育の主張と生命』(六盟館)の下編に詳しく話をしてあります。それは丁度私が先年福岡で講義をしましたときに、同地の衆議院議員などの人も聽きに來て居つたから、少しく時間を延ばして精しい話をしたのが載つて居るのであります。併し其の後全部飜譯になつて『三家庭物語』と云ふ題で出て居りまする樣だから、何れの本屋でも求むることが出來ませう。又女の方には淸水谷高等女學校に於ても、矢張り一場のお話を致しましたし、尙また到る所でお話を仕まする彼の『天國の寶』と云ふものが好いものであります。之れをお奬め致しまする。これはまだ飜譯にならぬ。けれども大體の趣意は拙著『女子敎育』の中に載せてあります。これは實業之日本社から出版になつて居ります。

さて種々お話を致しましたが、日本の書物では何う云ふものを讀んだら宜いかと云ふことの問が出ると、私は『論語』が最も宜いと云ふことを申すのです。併しながら『孟子』も讀ませ樣に依つたならば矢張り必要なものであります。これは自畫自

讀しては恐れ入りまするけれども、私の『孟子と新教育』(六盟館)と云ふ書物を御參考になることをお奬め致します。さて私は今現に實際子供を持つて見ると、此の問題は極めて興味のある問題でありまして、私の長男は中學の二年生になりましたから、何を讀ませたなら宜からうかと考へた末、最初に彼の『太閤記』を讀ませました。すると子供は非常に喜んで讀みます。私も子供の時に讀んで、今に深く印象に殘つて居るものは『繪本太閤記』でありまするから、私の子供にも『繪本太閤記』を讀ませました。其次には何を讀ませやうかと種々考へまして、少しく『三國志』を讀ませました。ところが子供は初め五六頁讀んで、何うも面白いやうだけれども能く分らないと言つた。と云ふのは未だ支那の歴史を習はぬ、二年が濟むと支那の歴史がある、三年の一學期には『三國志』の所が習はれると云ふことであるから、これはもう少し次に延ばしたら宜からう。そんなら他のものを讀めと云つて『太閤記』の次には馬琴の拵へた彼の『椿說弓張月』を讀ませました。是れ亦非常に子供は爲朝の勇氣を喜んだのであります。隨分荒唐無稽の說もありまするけれども、遠く琉球まで行くと云ふことも結構だと思ひましたから、卽ち『椿說弓張月』を讀ませたのであります。尤も其の中には白縫姫と云ふやうなものが出て、男女の問題もあるから、少しく何うかと心配したが、まだ子供だから餘り深くさう云ふことには氣が注かなんだらしい。其次には『源平盛衰記』であります、これは少し六づかしい。『太平記』を讀ませやうかと思ふたけれども、これも少し六づかしい。因て先年富田林へ來てお話をしましたときに、聲を嗄して諸君に御紹介をした彼の『楠廷尉秘鑑』と云ふ本があります。これは小說ですであります、けれども、如何にも能く楠氏の人情を穿ちてありますから、これを讀ませました。子供は非常に喜んで、これは『弓張月』よりも面白いと云ふことを申して居ります。斯樣な順序で子供に讀ませて居る。其の次に私は大抵『曾我物語』『義經記』を讀ませ、好い加減な時が來たら『日本外史』を讀ませやうと云ふ積りであります。大體中學時代にはさう云ふものを讀ませ、高等學校になつたら『漢楚軍談』と云ふやうなものから、もう少し六づかしい所では『十八史略』『史記』『左傳』と云ふやうな高い程度の書物を順々と讀ましてゆく考であります。まだ高等學校には入らぬから親しく試みては見ない。兎に角先刻言ひましたダルキンの曰く云々を能くお味ひを願ひます。有り樣を言へば山陽の『日本外史』も或意味では一種の小說體と云ふやうな所がある。それだから人心を感動させて、其の結果御維新も興つたのである。先刻も言ふた英吉利の普通の圖書館で一番重なるものは小說が占めて居

ると云ふことの議論を茲に反復するのであります。

尚一言申したいことは、それは修身倫理の教授法でございます。尤も此の事は小學校に就て言ふよりも、中學校以上に就て、或は高等女學校以上に就てお話をする方が便利かと思ひまするけれども、此の講義を利用して私の考を一言するのであります。世間では屢〻此の修身教授のことに就いては困つて居られるのであります。隨つて我々は種々質問を受けるのでありますが、不幸にして未だ御明答を申すことが出來ない。でありますが私の今考へて居ります所では、國定教科書に據つて整然教授をすることは、これはもう法令が定めてあることだから仕樣がない。其上に實際修身倫理の教授を有效ならしむるには二つの方法があると云ふことを近頃申すのでございまする。第一番は、修身倫理の教授は何處までも臨時的たれ、或は臨機的たれと云ふことを言ふのであります。第二に申しますことは、修身倫理の教授は何處までも間接的たれと云ふことを申すのであります。臨機的たれと云ふことに就ては獨逸の言葉に斯う云ふことがある。ゲレーゲンハイツ、ウンターリヒトと云ふことがあるのです。ゲレーゲンハイトと云ふのは機會、ウンターリヒトは教授です。機會に依つてする教授と云ふことであります。だから臨機教授であります。英語で言ひますするとオッケーショナル、インストラクションである。或はインストラクション、バイ、オッケーションとも言ひます。即ち機會を捉へて教へると云ふことであります。今日何れの學校でも課業的にやりまする修身の教授の外に、講堂訓話と云ふものをやられるやうに承知を致します。此の講堂訓話と云ふものは、我輩が往年高等師範學校に奉職して居りまするときに、そろ〳〵始めたものでありまして、有り樣は此の獨逸のゲレーゲンハイツ、ウンターリヒトを飜譯したものである。即ち定つた教授をする外に、適當な機會を捉へて臨機の教授を仕やうと云つてやつたそれが儀式的のものになつたのは如何にも殘念と思ふ。私は儀式的のものでなくして臨機の教授をやるやうにしたら、必ずや一層其の效果が擧ると思ふ。チャンと時間を極めてやるのも無效ではないけれども、それだけでは不十分であるから、何うか臨機的たらんことを希望致します。次ぎに間接的の教授と云ふのは、これは先生が自分の考だと云つて話をすることは、何うも子供には却つて功能が薄いやうに思ふ。尤も臨機的の方で、自分の經驗のことをさらけ出して話をするとは宜いかも知れぬ。先刻も向ふの休憩室に於て私は四五人と共に居て、此の會場の方を見ると、休みの間には立たれる人もあるやうぢやが、男子の一部分、及び女子の大部分と云ふものは殆

んど其の場を立たれぬ、矢張りヂッとして控へて居られる。あゝ云ふことは何方かと云へば宜くないです。矢張り休みの間は外に出て居る方が宜い。夫れに就て楠、親、學の曰はれるには、「先生、アナタが先年東京の高等師範學校に居られたときに、我々が植物園で校友會を開いた。其際矢張り我校の生徒にも休憩中ヂッとして居た者のあるを見られて、學校の校の家は木に交ると書いてある。然るに木に交はるを友とする校友會でありながら、斯る室内に潛んで居るなどは不覺の至りである。宜しく外へ出て活動すべし。平素學校の授業中の間の休みでも、我々教授は教場に這入つたり或は教員室に歸つたりして身體を動かすのに、休みの間室内にヂッとして居るとは何事ぞ、休憩の時間は宜しく外に出て木に交はるべしである、これが學校と云ふ意味を一面に發揮したものであらうと言はれたが、あれは誠に好い話であつた」と言はれた。實はそのときの話は私も何も準備をせずして咄嗟に出鱈目を喋つたのであるが、さう云ふ話に却つて好いことがあると見える。此間九州でも誰かゞ其の話を思出して、あの木に交はるのことは有益なお話であつたと言つて呉れた。これが所謂グレーゲンハイツ、ウンターリヒトの效である。

ところで間接の話と云ふは又然るべき書物に據るのです。矢張り本當の倫理の教は、『論語』でも宜しい、『バイブル』でも宜しい、聖賢の話を捉へて夫れを間接の材料としそれに據つて先生自身も教へられ、兒童も教へられると云ふ風にして教へる方が餘程便利だと思ふ。今の修身教科書はさう云ふ風には出來て居らぬ。善い人になれと云つて教へるけれども、先生もと云ふ風には今の書き樣では工合が惡いと思ふ。で間接的の材料を捉へ、それに據つて先生が教訓したいと云ふことを申すのでございまする。之に就て面白い話がある。明治二十三年の夏であつたが、私が大學を出て初めて山口の高等學校へ奉職するときに、倫理を受持つことになつた。其時に文部省の專門學務局長濱尾先生、今の東京大學の總長であります。濱尾先生が言はれるのには、「君は歴史と哲學と倫理とを受持たれるさうな。それは至極結構ぢやが、倫理だけは年が若いから持たれぬ方が宜からう、誰か年の行つた人に頼まれるが宜しい」「それでは左樣致しませう」と言つたけれども、種々の都合があつて、到頭矢張り私が持つことになつて、三年間倫理科をやつた。それから四年程立ちて山口を辭して東京に歸り、高等師範學校に奉職したときに、時の校長嘉納君の發議で倫理教授改良の相談會を開くこととなりまして、第一に招請して參つたのは加藤弘之老先生、それから故外山正一先生、なほ二三の人をも喚んで來た。原案は私が出さねばならぬや

うになり、矢張り一定の標準を立てゝ、然るべき嘉言善行を擇び、又理窟を附けて教案を纒め、さうして教授を仕やうと云ふ風に原案を出したところ、外山先生の曰く「そんな生々しい倫理談は誰が聽くか、さう云ふ君達の拵へた倫理談が何故人の教訓になるか」と言つて貶された。それから幾年か後、貴族院に於て同じ問題の起りましたときに、外山先生が又二時間も掛つて、倫理修身の教授と云ふものは矢張り『論語』などの等に據らなければならぬ、無論中學の話です、生生しい若い人の倫理講話や修身談は何故功能があらうかと言つて演說をされた。で先生をして言はしめたら、今の學校でやる倫理修身は、蓋し生々しいと云ふ譏りを免れぬと思ふ。先生は大變西洋染みた人であると思つて居るけれども、『論語』などの教育の必要を主張したのは決して澁澤老人ばかりでない。十幾年前貴族院に於て二時間も掛つて其の事を主張されて居る。近頃遠藤君の唱ふる硬教育と云ふのも、所謂生々しい所を些と減さう云ふ計畫ではなからうか。若し然うであるならば贊成するに値すると思ひます。そこで此程九州へ立ちまする前に、本年京都の文科大學を卒業した人が來て言ふのに、種々お世話になりましたが、何うか斯うか卒業が出來て、或學校へ行くやうになりました。大抵は其學校の舍監をするやうであります。其外に矢張り倫理修身の話もせねばならぬやうでありますが、それでは時間が少ないから、矢張り英語をも持てと云ふことであります。それで舍監の事や倫理修身の事に就て御教訓を承はりたい。何う云ふ風にやつたら宜うございませう」と言ふたから私が答へました「それは大變に面白い。君は舍監であるから、卽ち舍則に據つてゲレーゲンハイツ、ウンターリヒトをやり玉へ。舍監と云ふのは何時に火を消すとか、何時に點呼をするとか云ふのでない。舍監と云ふのは生徒と親子兄弟のやうになつて、臨機的に教へてやると云ふことだから、そこで眞修身科が出來る。至極結構だ。やり玉へ。尙ほ英語の先生であると云ふことも結構だから、英語を教へつゝ倫理道德を教へ玉へ。卽ち英語の教科書を取りも直さず間接的の本に使ひ玉へ」何う云ふものを使ふたら宜しうございませう」と言ふから私は三つの本をお勸めした。これは小學校に備へよと云ふのではありませぬ。併し諸君も亦これから世の中に立つて自ら修養されやうとならば、これくらゐの本は讀まれることを希望する。無論『論語』や『孟子』も必要ですが、其他に讀まれることの必要なるは、第一にエマーソンの文集です、之れを使うて間接にやり玉へ。それから少しく舊いところではベーコンの文集である。孰れも幸に飜譯もございます。又もう少し輕いものになれば『ラム物語』である、之れ

を使ひ玉へ、ラヴ物語ではありませぬ(笑聲起る)ラムは英國の文學者であります。英國では『シェーキスピヤ』と云ふものが『バイブル』であります。けれどもシェーキスピヤ物は澤山あつて、長うて六づかしい、それを誰にでも家庭で讀める樣に物語の大體を述べたのが、ラムの『シェーキスピヤ物語』と云ふのであります。これは中學の四年生、五年生ぐらゐには教へられると思ひます。此『ラム物語』を採り玉へと云ふ話をいたしたことでございます。シェーキスピヤが如何に立派なものであるかと云ふことは、先頃當大阪へ坪内逍遙博士が來て、ハムレット劇に就て話された通りである。忠孝の話は西洋にないなどゝ云ひますけれども、あのハムレットの話は立派な孝子の物語であります。なほ『リヤ王物語』と云ふのがあります。これも實に結構な話であります。西洋人に決して孝行話がないと云ふことは嘘であります。右のやうな讀物が西洋に誠に多くして日本に少ないのは殘念でありますが、併し日本のも『太閤記』『楠廷尉秘鑑』『曾我物語』『義經記』と云ふやうなものがある。どうか在學中は申すに及ばず、學校以外の家庭教育としても然るべき指導の下に適當なる書物を讀ませられんことを希望致します。これは今度佛蘭西のメルシエーの希望いたしたことに加へて、私の意見を申したのでございます。以上が今日の講義でございまして、甚だくだらぬことを長く申しました。

第六章　兒童研究の近況

以上五章で家庭教育と云ふことの主なるお話は先づいたした積りであります。是れから殘り三章ではもう少しそれを擴げて一般の兒童教育に關する事に就てお話をする積でございます。家庭の主として取扱ふものは無論兒童であり、兒童の善くなると、惡しくなるとが、每々申しまする通り、主として家庭に關係することでございまするから、申して見ますれば此の兒童の話は家庭教育と云ふことの本體として論ずるのが當然でありませう。以上は家庭を本位と致し、以下は又兒童を本體といたして講義をするので、畢竟裏からと表からとより論ずるのでございまする。

さて斯くして、今日は先づ兒童研究と云ふことに就てお話を始めやうと思ふのでございまするが、幸に好き機會でございまするから、所謂教育學と云ふものは前と只今と大いに變つて來て居ると云ふことに就て、少しくお話をすることを許してお貰ひしたひのであります。御承知の通り教育學と云ふものは固より教育と云ふことを研究しまする一つの獨立の學科たるに相違はないのでございますけれども、併し

ながら其の學問は極めて複雜なものであつて、種々他の學問の知識を藉りてゞなければ十分やつて行くことが出來ません。別して之れを實際的に申しますれば教育と云ふ事業は他の學問の知識に俟つことが多いのでございます。それは彼のヘルバルトが早やくより申しましたやうに、大凡教育の目的を明かにする學問としては倫理學が入用であらうし、又其の目的を達する方便方法を明かにするのには心理學の知識が入用である。教育學と云ふものは倫理學と心理學の二つの學問の上に建設せらるゝものであると云つたことは、それは最も能く言ふたことでございます。併しながら今日はヘルバルト派は既に廢つてしまつて、隨つて教育學に對する基礎學の見方なども追々變つて來る樣に思はれまする。今の私共の考へる所では成程教育の目的を明かにすべき學問も要り、方法を明かにする學問も要りますが、其の目的を明かにすべき學問は倫理學よりも寧ろ社會學であるのであります。即ち今日の教育學と云ふものは社會學の上に建設せらるゝと云ふことになつて來て居る。固より倫理學にも據らなければなりませぬが、我々の考では倫理學其者が社會學其者の上に建設せられなければならぬ。たゞ徒らに家族が斯うであるとか、或は社會が斯うであるとか、國家が斯うであるとか、乃至は個人が斯うであるとか云ふやうな空論をした所で、それは埒のあかぬ話である。本當に社會の組織並に其の進歩を明かにして、其上で進んで參らなければならぬ筈でありますから、只今の大勢は教育學と云ふものを社會學と結び附けると云ふ傾でございます。其事は西洋各國に於ても獨逸はひどく遲れてしまつたのである。遺憾ながら社會學と云ふ學問が獨逸では十分に發達いたして居りませぬ。昨今は獨逸人も社會學と云ふことをやかましく申し出しましたけれども、其の獨逸の社會學と云ふものは未だ今日では他の國の書物を飜譯して出版するものが多いと云ふやうな程度であるのでございます。獨逸では右樣の次第でありますから、教育學が甚だ振はぬのでございます。之れに反して例へば佛蘭西では既に教育學が社會學と結び附いたのでございます。前に私が佛蘭西に留學しました時は、巴里の大學で教育學を講じて居られました教授は、ビュイッソンと云ふ老先生でありました。是は二十餘年間普通學務局長を勤め、それから夫れを罷めて巴里大學の教育學の教授になつた人でありますが、謂はゞ實際的思想家とでも云ふべき人であつて、實は餘り感心しなかつた。ところが老人でありましたから其後間もなく退隱せられたと云ふことを聞きましたが、今回再び巴里大學に行つて見ますると、新しい人がビュイッソンの後繼になつて居る。それは

諸君も近頃定めて新聞雜誌等で能く聞かれませうが、デュルケームと云ふ人であります。此人が今日は殆んど佛蘭西第一の社會學者であるのです。我々が前に佛蘭西に居りました頃はボルドーと云ふ所の大學で社會學の教授をして居られました。ところが其後右のビュイッソン氏が退隱せられたから、ボルドー大學からデュルケーム氏を呼び寄せ、さうして社會學と兼ねて教育學の講座を擔任せしむると云ふことになり、今現にやつて居られます。是れは新しい勢を能く現はしたのであります。又社會學が今日追々新たに研究せられて居る國は米國であります。而して米國の各大學に行つて見ますと、社會學の教室と、それから教育學の教室とは最も親密の關係を持つて居るのであります。尙一歩を進めましてコロンビヤ大學などに於きましては社會學的教育學などゝ云ふことを講じ出して居る人もある。夫等は未だ十分物になつて居るやうには思ひませぬけれども、今の所では倫理學と教育學を結び附けると云ふことは最早舊いことであつて、社會學と教育學とを結び附けるやうになつて居る。私の今實際大學で講じて居りまする教育學は卽ちそれであつて、社會學の上に建設されたる教育學であります。否、京都帝國文科大學に於ては、創立以來社會學と教育學とは他の歐米諸國にも優つて、最も親密なる關係を附けることにな

つて居ります。現に不肖ながら私共が矢張り社會學の世話をもいたして居ります。講義は屢〻御當地に見えまする彼の米田庄太郎君と云ふ人が、私の信ずる所では日本に於て有數の社會學の大家であらうと思ふ、で同君を講師として煩はして居ります。併し私も自ら社會學のことに就て及ばずながら色々世話をいたし、隨つて社會學の研究室と教育學の研究室とは一緒な所に置くと云ふことをやつて居るのは、えらい自慢らしうございまするけれども、それは世界の今の學問界の大勢に應じて居る積りでございます。さう云ふ風でございますから、何うか諸君も是れから教育のことを論じやうと云ふのには、眼孔を廣くして行かれることを希望致します。又之れと同時に教育の方法を明かすことは、是れは心理學に據らなければならぬ。けれどもヘルバルト派の心理學などは哲學流の心理學であつて、事の實際に當ることが遠い。卽ち實驗と云ふものに土臺をして居らないと云ふことが缺點でございませう。今日は所謂實驗心理學と云ふものが追々盛になつて參りましたから、教育學の方法を明かにすることは實驗心理學に因ると云ふことになるのでございます。尤も人は段々取違へる人があり、もう少し言葉を遂へて申しますれば、人は兎角極端に物を考へる癖がありまして、實驗心理學と云ふものが今追々盛になつて來ることより致

しまして、教育學は卽ち實驗心理學である、實驗心理學を措いて教育學はないのであると云ふやうに論ずる人もないてはございませぬ。けれどもそれは間違て、人間其者の傾、人間其者の氣風と云ふやうなものを研究することはそれは實驗心理學て出來ませうけれども、教育學が教育の大勢、教育の理想、教育の結局の目的と云ふやうなことを定める場合には、決して實驗心理學から割り出しても分るものてない。それは矢張り社會學乃至倫理學と云ふやうなものに據らざるを得ぬのてあると思ひまするが、實驗心理學の明かにする所は卽ち教育の方法論てあつて、教育全體てはないのてあります。故に實驗教育學など稱して、實驗心理の上にのみ建設したものを以て教育學の能事足れりとして居ることは、今日に於ては採ることが出來ませぬ。それは本當の心理學を明かにして居る人は皆同論てあります。語を變じて申して見ますれば凡て教育學と云ふものが茲に斯うあるとすると、其の教育學を二分する。二分した一方の目的論の方は社會學てやり、又方法論の方は實驗心理學てやる。實驗心理學は無論たゞ心理顯象を實驗的に研究すると云ふ自分固有の目的があり、それと同時にそれを藉りて教育學の方法を明かにすると云ふ助けにもなるのてございます。斯う云ふとより外には見えぬのてあつて、教育學卽ち實驗心理學と云ふやうな事は、固より申されるべき筈のものてはなからうと信ずるのてございまする。斯う云ふ譯てございますするから、同じく京都大學に於きましては幸に同僚松本亦太郎君と云ふのが實驗心理學に熱心な人て、又造詣の深い方てあるから、創立のときより實驗心理と云ふことに非常に重きを置きまして、諸教授一同の協議て先づ實驗心理研究室を大成することを努めましたから、自分等から申しまするとをかしうございますするけれども、東京大學にあるくらゐの實驗心理學室は殆んど初めの數年間に出來てしまつた。而してそれからも三四年著々設備に盡くしますので大體申せば二三倍の大きさのものになつて居るだらうと思ふのてあります。それて我々は何所までも右の方に社會學を採り、左の方に實驗心理學を採り、さうして相提携して教育學を立てゝ行く事と致します。是れが世界の大勢てござり舛。世間ては種々何々教育學と云ふものもございまするが、それは皆結構てありませう……結構てありますけれども、詰り素人論に過ぎない。學問上の論としては右のやうに社會學と實驗心理學とに據つて研究いたして居ります。併しそれは未だ講習會などて十分發表するの域に達して居らない。たゞ我々も不肖ながら學問としては斯う云ふ方法て研究いたして居るのてあると云ふことを申すに過ぎぬのてあります。

さて此の實驗心理學に就きましては種々の種類があり、種々の說があつて、今日に於ては未だ一定したと云ふことは申されぬのでございます。丁度昨年の暮、佛蘭西へ參りましたときに、斯う云ふ書物があつたのでありまして、常に取引のありまする或大きな本屋へ行きました所が、店頭にコスチレッフと云ふ人の著はしたもので、譯して申せば『實驗心理學の危機』と題した書物を見たのであります。餘計な話をするやうでありますが、此の書物は何時出版になつたのかと云ふと、本年出版になつた。千九百十一年、卽ち本年出版になつた書物をそれを昨年買うて來た。明治四十四年に出版になつたものを私は明治四十三年に買うて來た。マア其のくらゐ私の話は新しいのである。諸君はそんな事があるものか、明治四十四年に出版になつたものを四十三年に買つて來る道理はないと思はれませうが、けれども事實はさうだから仕方がない。と云ふのは出版の奥附が四十四年の一月になつて居る、卽ち四十四年になつてから賣出す積りであつた。それが何う云ふものか、汎く賣り出さない前に私の行つた本屋に一部出てあつたから、私が買うて來た。佛蘭西に於ても斯う云ふやうに手早く買ふた者は吾輩より外にはなからうと思ふ(笑聲起る)其コスチレッフ氏が『實驗心理學の危機』と題する書物に於て、歐米各國の實驗心理學者のやつて居るとを逐一批評して曰く、種々の學者が實驗的にやつては居るけれども、其の方法などゝ云ふものは未だ悉く一致しない。其の目的と云ふものでさへ未だ悉く一致したとは云へないやうなことであるから、果して實驗心理學と云ふものが立つものであるか、立たぬものであるか、謂つて見れば聊か危ぶむと云ふことであります。併しながら此のコスチレッフ氏の書物は表題が面白うございまするけれども、其の內容は聊か非難を免れぬと思ひますから、此度歸朝早々京都帝國大學の敎育學研究會に於て其事は精しく批評いたしたのでございまする。コスチレッフ氏などは現に自ら實驗心理學に從事して居りながら、實驗心理學の危機などゝ云つて絕叫して居りまするけれども、矢張り本年の一月に出ました獨逸の『實驗心理學竝に敎育學雜誌』に於て、彼の實驗敎育學の卒先者と稱して居りまするモイマン氏が依然として各學校の敎案の編制から授業の末に至るまでも、矢張り實驗心理學の上に基しなければならぬと云ふことを書き立てゝ居りまするが當然で、それは多少過言であるとも信じますが、矢張りモイマン氏の方に我々は左袒することでございます。たゞ若し實驗心理學卽ち敎育學であると云ふやうなことを言ふ人があつたならば、それは我々が採ることは出來ないと云ふことを申すのでございまする。然らば我々は今後實驗

心理學と教育學とを如何に結び附けるかと云ふことに就て、其處に一箇の提案を爲したのでございます。雜誌等にも載つて居りますから、諸君は既に御覽下されたであらうと信じますが、一は大學の實驗心理學室に於きまして極く手輕の實驗案內を編纂し、を編纂せんことを求めたのでございます。さう云ふ極く手輕な實驗案內を編纂し、さうして各教育者或はもう少し各家庭にそれを頒布するのであります。さうして實驗心理學的に教育學を研究しやうとして居る人は屢〻發問をするのであります。其の發問は成るべく精しくせねばなりませね。其の發問に應じて、豫て手許にお廻しをして居る所の實驗案內に依りまして、それ〳〵實驗をせられてお答を此方へお送り下さると云ふやうなことが出來たならば、それこそ教育者と家庭と、さうして學者との三人が相提携することでございますから、完全なる日本流の實驗的心理學、否、日本流の教育學が出來ることであらうと云ふことを提案いたしたことでございます。是れは其中に追々實際に行はうと思ふことでございますから、何うか諸君に於ても、其の節は我々と相提携して、さうして日本の兒童は如何なるものであるか、隨つて日本の教育は如何にすべきものであるかを、少し實驗的に、もう少し精確にやることに御賛同下さることを希望いたすのであります。兎にも角にも何うしても今日の程度では未だ一般には器械や何かを使ふと云ふことは十分に出來ませぬから、暫くの所は卽ち發問法と云ふものに據ることで甘んじなければならぬ場合が多くあらうと思ふのでございます。發問法は卽ちクエッショチールである。是れは問題を拵へて、何枚もズッと廣くお廻しをいたし、それの答案を集めて調査するのでございます。甚だ不完全な法でありますけれども、實驗心理學或は又社會學に於ても今暫く同法に據ることを免れぬかと存ずるのでございます。

斯の如くにして教育の方法を明かにするために實驗心理學を使ふと云ふのでございますが、其中に於ても教育者の直接に使ふべきものは卽ち兒童研究であります。だから兒童研究とは今後教育の方法を明かにすべき第一の方便であると解釋をいたすのであります。而して廣い意味に於ては實驗心理學の幾分を成すものであります。兒童研究とは英語で申しますればチャイルド、スタデーであります。けれども近頃は又兒童學と云ふことを唱へて居ります。之れを原語でペエドロジーと申します。チャイルド、スタデーと云つたことがもう少し組織されてペエドロジーと成つて居る。ペエドロジーは卽ち子供の學問と云ふことであります。ペエドスは子供で、ロジーは學問と云ふことである。卽ち實驗研究の中に於ても此の兒童學

を大切にすると云ふことで、今度のブリュッセルの萬國會議に於ては殊に其の一部門を設けられました。而して此の會議に於ては滿場一致を以て、師範學校にも是非とも兒童研究の一課を設くべしと云ふことになつたのであります。否、家庭に於て本當に母が子供を教育するに入用なものは兒童研究であるから、將來母たる者の素養としても兒童研究を教へべきものであると云ふことを主張されたのでございます。但し何處にしても手數の掛ることは誠に面倒がるものであると見えまして、又一面は倫敦の大學の教育學の教授をして居りまする、是れも矢張り女で、アダムスと云ふ人があります。此のアダムスと云ふ人が右の動議に對して至極贊成ではあるけれども、今日の事情では兒童研究が極めて行ひ難いと云ふことを申し述べたのであります。それは何う云ふ理由で今の場合兒童研究が行ひ難いかと申しまするとと、三つの理由がある。第一は教師が兒童研究をまだ悅ばないのであると思ふ。兒童と研究と云へば何れ學校に於て兒童を借りてやらなければならぬ場合が多い。さうすると其の學校の教師が、種々のことを調査しやうとしたりすることを以て、自分の仕事に干渉するか何かのやうに思ひ、それを悅ばないのが多いさうであります、即ち邪魔をするやうに思つて、悅ばないものが多いさうであります。第二は英國に於ても、父母たる者が自分の子供を學校に於て兒童研究に使はれることを悅ばない。それは何か子供の性質を種々穿鑿せらるゝやうにも思ふのでせう。或は折角物事を習はせやうと思つてやつて居つたものを、何か調査の材料に使はれると云ふやうなことで、不平を云ふのでございませう。即ち家庭が悅ばぬやうに見えると云ふことであります。第三は矢張り英國に於ても、今日は教育關係の官吏、例へば視學と云ふやうな人が矢張り兒童研究に餘り厚意を表しない。學校で頻りに兒童研究をばやつて居ると、そんな暇つぶしのことはしないが宜からうと云ふやうなことを申すさうであります。夫故に只今の所では、遺憾ながら兒童研究は未だ十分實際には行はれぬと云ふことを言つて居るやうであります。此のアダムスの申したことは、倫敦の獄息話でありますが、私は單に之れを倫敦の事のみとしては聞かぬのであります。矢張り日本に於ても或は同樣でなかうか。學校ではたゞ教へさへすれば宜い。學校へは物を習ひにやつて居るのである。文部省なら文部省の法令通りにやれば宜いと云ふやうに、教師も父母も感じ、又官吏もさう考へて、さうしてトンと斯う云ふ本當の根本的の研究と云ふことに贊成をせぬと云ふ事情がありはしないかと思ふのであります。併しながら今も申しまする通り將來本當の教育學を建設しや

うとするのには……教育の方法を明かにしやうとするのには、兒童研究卽ち兒童學を啓かなければなりませぬから、是れは追々さう云ふ風潮にいたし、諸君も本務に妨げのない限りは、何うか斯う云ふことに興味を持たれんことを希望致します。

さてお話を段々進めて參りまして、然らば一體兒童研究と云ふものは、何を目的とするのであるかと云ふことから、申し述べて參りませう。只今までの所で兒童研究の教育學に於ける位置竝に其の必要、竝に其の困難と云ふやうなことは分つた筈でありますから、それを序論と致しまして、もう少し進んで兒童研究とは如何なることかと云ふことを申します。兒童研究と云ふことに就きましては、是れは亞米利加の或師範學校で、矢張り教育學か何かを教へて居りまする、ギルダー、マイスター、是れは別に有名な人ではありませぬ、併しながら其の云ふことが面白い、此人の云ふ所に依ると大凡兒童研究と云ふものは兒童の傾向を研究調査するものであると、斯う云ふのです。傾向と云ふのはテンデンシー、或はもう少し云へばインクリチーション：：兒童の傾である。言葉を換へて云へば凡て子供と云ふものは傾の塊りである。と云ふものは、子供は子供の好くことがある。子供は子供の慾がある。子供は子供の志望がある。子供は種々さう云ふものが寄つて出來て居るけれども、大人になると追々心が定まつて來るからしてか、其の傾が少なうなります。子供は其の特質を發揮して種々の傾を現はして居るものであります。故に兒童の研究は兒童の傾向を研究するものであると云ふのであります。其の研究の方法は何うであるかと云ひますると、ギルダー、マイスター氏は之れを大別致しまして、四つの方法に依つて研究することが出來ると、斯う申して居ります。第一番は卽ち科學的觀察、是れは申すまでもなく、種々の器械などを使ひまして精確に計るのであります。それから第二番は自分が自分の子供であつたときを回想するのであります。御同樣に無論一度は子供であつたのです。男の子であり、女の子であつたのです。自分が其の子供のときを回想して見なすれば、子供心と云ふものが分るです。昔からの諺にもある通り、善い生徒であつた人でなければ、良い教師になることが出來ぬです。卽ち善い子供であつた人でなければ、善い大人になることは出來ない。卽ち自分の子供のときのことを回想して見れば、自然兒童の心理が分るのであるから、强いて器械や何かを使つて科學的に觀察すると云ふやうな面倒なことをせずとも、徐ろに自分の幼時の心持を回想すれば、其の端緒を得ると、斯う申すのであります。それから其次の事柄は、是れは兒童と親昵するのであります。たゞ實驗室に這入つて、さうして兒童と云

ふものは、何う云ふものであらうかと考へても、それは分り樣がないのであります。卽ち成るべく子供と親しく接する、それは母であるとか、或は幼稚園の保姆であるとか、乃至學校の一般の先生であるとか、成るべく子供と親昵にする機會を造つて、子供を知ることであります。而して最後の第四番は、文學の中に現はれたる兒童のことに就て、種々の書いたもの、それを種として、兒童は如何にして生活するものであるかと云ふことを知るのであります。此の四つの方法があると云ふことをギルダー、マイスター氏が申して居りまする。而してギルダー、マイスター自身は、何を主張するのかと申しまするとと、殊に此の最後の文學に依つて、兒童を研究することを主張いたすのであります。文學と云ふのにも種々の通りがあると云ふのです。一番都合の宜いのは昔の人が各、自分の身の事を書いた自傳であるのです。それは取りも直さず回想に當る。昔から種々の人が自分の幼時のことを回想して書いた、卽ち自叙傳であります。それに續いては準自傳……純粹の自傳ではありませぬが、自傳に擬へたもの。それに續いては普通言ふところの傳記であります。それから小說、略して云へば傳記と小說とは兒童研究の好い材料になるのであると云ふことを申すのであります。傳記と云ふ中に自傳があり、準自傳がある。それから通例編輯した傳記があるから、精しく云へば四つに分ける。斯の如くいたして此のギルダー、マイスター氏は親切にも大凡百三十冊ほど一般の讀者が兒童研究のために讀むべき文學書類を揚げました。日本では兎角たゞ言ひつ放しにして置いて、自分から實例を示しませぬけれども、ギルダー、マイスターは親しく其物を算へて約百三十ほど實例を擧げて居るのであります。其の百三十冊を一々茲に朗讀しやうと思ひますが、不幸にして其の書物は外國語で書かれてあつて、無論大部分は日本語に飜譯になつて居りませぬから、茲に讀んでも分りませぬ。特殊の御研究を爲されたき方には別にお示しを致すとして、茲には大體を申しますが、一體何う云ふ樣なものをギルダー、マイスター氏が兒童心理の研究になると言つて居るかと云ふと、先づギルダー、マイスター氏が自傳として揚げてあるのは日本人の知つて居る人ではハーヴァード、スペンサーであります。スペンサーは凡そ今より六七年前に亡くなりました。其のスペンサーの自傳と云ふものは卽ち大きな本で二冊出版になつて居ります。此のスペンサーの自傳と云ふ如きものが大凡人は何う云ふものであるかと云ふ子供心を知る一端にならうと云ふのであります。其他有名なるミルの自傳もございます。先日茲に書きましたラスキンと云ふ人の自傳もございます。併し夫等の

ものは未だ不幸にして日本に飜譯になつて居りませぬ。日本に飜譯になつて居るものから申しますれば、近頃頻りに人の申しまする彼の亞米利加の有名なる政治家でもあり、學者でもあるフランクリン、此フランクリンの自叙傳の如きものが卽ち兒童研究の一端になると云ふことを申して居ります。まだ種々ございます。彼の幼稚園のフレーベルの自傳がございます。是もまだ日本には飜譯にならないのを惜しみます。それから昨日お話を致しましたアンデルセンも同じく自分の精しい自傳を書いて居ります。西洋に於てはさう云ふやうに自傳と云ふものがありまするから、それに依つて觀たならば兒童のときの有樣が幾らか分らうと云ふのであります。

それから其次に準自傳と云ふのは何う云ふものを申すのであるかと云ふと、是れも書物は澤山にありますが、諸君に殊に揭げたいものが二つあるのでございます。第一番はヒュースの書物であります。ヒュースと申しますると諸君は今から八九年前に日本へ來た彼の英吉利の女の教育家のヒュースであらう、大阪にも來て演說をされたらう、其のヒュース孃かとお思ひになるかも知れぬが、彼の人のことではございませぬ。英吉利にはヒュースと云ふ名前の人が澤山にあります。此のヒュースと云ふは最も有名なる人であつて、此人が『トムブラウンス、スクールデー』と云ふものを書いて居る。トム、ブラウンと云ふのは人の名前です、スクールデーは學校に居つた時と云ふのです。卽ち是れはヒュースと云ふ人が、トム、ブラウンスと云ふ人が英吉利のラグビーと云ふ中學校に於て生活した風にして、詳しく自傳體、小說體に書いたのであります。是れは小學校には直接關係しませぬ。寧ろ中學校のことが主ではございまするけれとも、併しながら子供のことは矢張りそれに關係いたして居りまするから、是非御一讀を願ふのでございまする。前に私が洋行をして歸りまして、二三の師範學校長などの御訪問を受けました時、ときに先生、何か珍しいお土產となる書物かお話はございませぬかとお聽きになつたから、其の時にいつも私が答へましたのは「トム、ブラウンス、スクールデー」を是非お讀みになるやうにと云つたことであります。價も廉い、僅か四五十錢である。それだから其の書物を買うて來て、私はお土產に彼方此方へ差上げたとであります。是れは其の後飜譯になつて居る。矢張り『トムブラウン學校物語』と云ふやうな表題になつて居る。て英書の讀める人は是非其の原書を讀むことを希望する。また失敬ながら英書の讀めない人は、其の飜譯物を讀むことを希望する。さうすると英吉利では、如何に自助的に學校に於いて教育するかと云ふことが分るであらうと信じます。もう一つ是れと竝べて云ふの

は獨逸の本であります。これは是非とも諸君が今後の修養に讀まれたいと思ふのであります、獨逸の有名なる詩人のゲーテであります。ゲーテと云ふ人は獨逸の政治家でもあり、有名なる文學者でもある。此の人の書いたものゝ中で最も主なるものは何と云ふ本であるかと云へば、申すまでもなく『ファウスト』であることは、御承知でございませう。是れは卽ちファウストと云ふ一個の人の生涯を書いたものである。其の一個の人の煩悶の狀態を書いたものである。けれども實はファウストと云ふ人の名を借りて、ゲーテが畢竟自分の閱歷を述べたものである。獨逸では之れをバイブルと云ふのです。獨逸の人が譬へば我々の『論語』を讀むやうに讀みます。現に先日も九州からの歸へり路で、丁度馬關から一人の西洋人と一緒になつた。それは誰であるかと思つて居ると、向ふから間もなく話をしかけて懇意になつたが、段々と話をして見ますと、それは獨逸人であつて、馬關に居りまする領事である。其人の話の末に「私は是れから一寸旅行をして宮島で一日か二日休養しやうと思つて參るのでありますが、私の鞄に何時でも這入つて居るのは此の書物である、是れは幾たびでも讀んで味ひます、さうでなければ能く了解が出來ませぬ」。と云つて見せたのが矢張り『ファウスト』です。英吉利の人がシェークスピヤを英吉利のバイブルと云ふが如く、獨逸の人はゲーテの『ファウスト』を獨逸のバイブルと云ふのでございます。何うか此の『ファウスト』は是非一讀を願ひたい。是れも幸に飜譯が出來て居ります。初めに出來ましたのは彼の高橋五郎と云ふ人の『ファウスト』と云ふ本であります。其後昨年新渡戸君も同じく其の大意を採りまして『ファウスト物語』と云つて拔書を拵へて居られます。何れにしても諸君にはお分り易い本であらうと思ひますから、茲にお奬めを致します。私は『ファウスト物語』の方がなほ便利であらうと信ずる。でございまするけれども高橋君の本は尙更、新渡戸君の書物にしましても、未だ決して立派とは云へない。聞く所によれば文部省に於ては此頃同僚で文藝委員の藤代文學博士、卽ち日本では獨逸文學の第一の人、マア我々の信ずる所では獨逸文學では泰斗であります、其人に此の『ファウスト』の飜譯を委托すると云ふことになるさうでございます。急には出來まいと思ひますが、昨日申しました『ドンキホーテ物語』を島村君に飜譯させると同じやうに、藤代君に托するさうで、我々は文部省の用意の宜いことを密かに悅ぶのでございます。何うかそれが出來まするまでの間、高橋君の書物なり、新渡戸君の書物に依つて御覽になることを希望致します。

其次に傳記と云ふものには、是れはもう餘り澤山ございますするから、一々茲に掲げることは致しませぬ。其次の小說に就きましては尙更書物が多うございますするが、是等とても諸君は西洋の小說だからお讀みになることが六づかしいかも知れませぬ。由つて別に之れを掲げませぬが、併しながら昨日申しました彼の『三家庭物語』は卽ち之れに屬するものでございます。尙英國人て小說を讀むと云ふたらば、必ず讀むのが彼の有名なるヂッケンスでございます。此のヂッケンスの書いた小說にして兒童研究の材料たらざるものはございませぬ。宜べなるかな、英國てはヂッケンスのことを敎育的小說家とさへ稱するのてあります。此のヂッケンスの書物は幾らか飜譯になつたものもございますするから、諸君は夫等を御覽になることを希望致します。

卽ちギルダー、マイスター氏に云はせますると、兒童を研究するのは文學に依つて見ることが宜いと云ふので、百三十冊ほどの書物を列擧いたしたのございますするが、不幸にして日本には是等の書物が少ないのてございます。例へば日本で自傳を求めると云ふと、殆んど自傳などゝ云ふものはありませぬ。自傳て最も著しきものにして、近頃最も人の讀みまするのは福澤先生の『福翁自傳』てあります。あれは諸君が是非讀まれることを希望するので、御維新前に學問をした人がどれほど困難てあつたかと云ふことが能く分ります。他の學者達もあゝ云ふやうな自傳でも遺して置いて呉れたならば、大變便利だと思ひます。此の福澤先生の福翁自傳があると同時に、一方には又福澤先生と相竝んで、明治の學問界の泰斗卒先者と云はれる所の彼の中村敬宇先生も、亦幸に自傳を遺されて居ります。尤も先生は漢學者てありまするから、福澤先生のやうに長たらしう、又詳密なる自傳は遺されなかつたが、彼の千字文を以て自傳を書かれまして、之れを『自叙千字文』と云はれて居ります。福澤先生は機敏なる人、中村先生は溫厚なる人てあつて、其の双方の幼時の生立、卽ち才子風の人と、君子風の人との生立が能く分るのてあります。是等に依つて見ても矢張りギルダー、マイスター氏の云ふ如くに、日本ても子供のことは自傳で研究することが出來ると信じます。準自傳の傳記と申しますれば、それは澤山に出版がございます、又準自傳に代へて我々の讀むべきものは種々の隨筆物或は種々の日記てあります。さう云ふ物に依つて徐ろに子供の生立なり考へ方を調ぶれば、材料が多くあらうと存じます。而して小說は又極めて少ないのてございます。

右樣申しましたが、併し茲に一つ御注意を申しますするのは、我々はギルダー、マイス

ターの云ふことに不贊成だとは申しませぬけれども、所謂文學に載つて居る人などは當り前の人は少ないのでございます。小說に載つて居る人は何れ難儀をしたとか、或は格別にえらいとか云ふやうな人であらうと思ふ。又傳記を遺すとか、殊更に自傳を遺すとか云ふやうな人は、それは多くは非凡の豪傑であるのであります。それで何うもさう云ふ異つた人、さう云ふ豪傑、さう云ふ非常な人の子供のときのことを知ると云ふことが、果して直接に兒童研究の一般の材料となるか、ならぬかと云ふことは、是れは問題であると思ひます。故に傳記も面白からうし、小說も面白いけれども、それに依つて兒童を研究せられやうとする人は、いつも是れは異つた子供である、所謂異常兒である、是れは所謂天才俊才であると云ふことを、眼中に於て見られることの必要があらうと思ひます。それよりも我々をして申さしめられますれば、矢張り兒童を研究するのには幾らか科學的に觀察しなければならぬと思ひます。之れには種々の器械が要ります、何う云ふやうな器械が要るかと申しますると、第一番には頭を測る器械が要る。彼の槇山君などは西洋から歸られて、頻りに頭顱を測量すると云ふことを言はれて居ります。頭顱を測量して果して子供の性質が分ることであるか、分らぬとであるか。私は能く承知致しませぬが、併しながら私が近頃着手しつゝあるのは、矢張り頭顱を測ることであります。私は京都に居りますから、自然僧侶方と御懇意になる機會が多いのであります。僧侶方でも眞言宗のお方はみな頭を綺麗に剃られて居る。さう云ふ人の頭を見ると、此の眞言宗の高僧になる人の頭は、何うも當り前の頭とは異つて居る。眞言宗の平凡な人の頭はそれは當り前の頭であるけれども、某僧正とも云はれる人の頭は、何うも一種の格好があるやうだから、此度機會を利用して僧侶の頭を測量しやうと思ふ。大凡何百か測量したら大抵結論が出るだらうと思ふ。一定の頭を持つた人は高僧に成られる。そこで是れから子供が小學校でも濟まして、お寺の小僧にならうと云ふときには、「お前の頭を持つて來い、一寸測つてやらう、成程お前の頭は高僧系になつて居るから、お前がお寺にさへ行けば屹度高僧に成れる。イヤお前の頭は何うも平凡であるから、是れは僧侶になつた所で何時までも味噌すり坊主たることを免れぬから、さう云ふことは廢めたら宜からう」と云ふ、材料を得ることが出來はせまいかと考へる(笑)餘り丁寧に云ふと骨相學者めくやうになりも致しませうが、私共の考では何か其所に連絡がありはしないかと思ふのでございます。兎に角今は頭顱の測量と云ふことを非常にやかましく云ひます。是れも頭顱の簡單なる算用の法を知つて居れば分ることであり

ます。其次に入用な器械は胸を測る器械であります。呼吸を測る器械であり舛。呼吸と云ふやうなものは御承知の通り何も肺病になるかならぬかと云ふことを研究するためにのみ測るのではない。我々の知識の働き、我々の感情の働き、我々の意志の働は一番呼吸の上に現はれるです。例へば注意をすると云ふには何うでせう。俗に息を凝らすと云ふのです。或は大變物事を考へた後では、ハア〳〵と溜息を吐く。それをマア假に圖に描いて見ると云ふと、種々の圖が描けるだらうと思ふ。即ち呼吸を測定することは心理を測定するに方りて最も必要である。其次は脈を測定する。脈の數を測定するばかりではなくして、脈の高さ、太さを測量する。斯う云ふことが入用であります。而して是等の測量したものを一々斯の如く圖に表はす。而もそれは時を計つて圖に表はす種々の裝置が要ると信ずるのでございます。なほ近頃は段々運動計などゝ云つて、或は一の刺戟の下に筋肉が如何に運動するかと云ふことを測る器械も出來て居ります。記憶を測る器械、疲勞を測る器械もあります。是れは誠に一々申しませぬが、毎年三月の一日京都大學に於きましては、紀念日と致しまして、汎く學校内を開いてお目にかけます。其時にマア誰でも素人に分つて面白からうと云ふので、文科でも實驗心理室を開いて、種々の器械を運轉してお目にかけるのでありますから、御出を望みます。それから又茲に最も調法な器械があります。何でもないものでありますが、非常に有用なる實驗の出來る器械であります。器械だからと云つて決して高價の物を買ふには及ばない、何れの學校にでも有りふれた器械を以て實驗が出來まする。それは何でありますか、所謂握力計であります。彼の握力計は大層に宜いです。たゞ握力を測るだけではありますけれども、あれ一つで以て第一に疲勞が分かります。人の疲勞を簡單に知らうと云ふのには握力計を持たして御覽なさい。例へば朝稽古を始める前に握らせて見る。それから又一時間授業をした後で握らせて見る。それから又三四時間も頭腦をば疲らせた後で握らせて見ると、必ず其の握力計の上に疲勞の度が違つて現はれる。疲勞の度を知る簡單な仕方として握力計を用ゐるが宜い。なほ最も大切なことは意志です。意志の力を測る法として握力計を用ゐるのであります。意志の力などゝ云ふものは中々測り難い。けれども學問的に觀察するのには、誰でも握力計を持つてウンと力を入れて見る。何うしても十分に行かぬやうな人は矢張り意志が弱いのであります。固より是れは筋肉に關係するけれども、筋肉と意志とは殆んど同じものと云ふやうに親密の關係を持つて居りますから、握力計に依つて意志の力が分る。

女の念力岩をも通すと云ふけれども、女の念力握力計をも握り潰して御覽に入れると云ふくらゐのことがあるか、ないか。又もう一つは意志の修養が出來るか、出來ねかと云ふことを觀る。彼の人間は意志の修養が出來ない、此の人間は意志の修養が出來る。此の意志の鍛錬と云ふことは人が常に口にすることであるけれども、何うして分るか。それは矢張り握力計で分るのである。卽ち今日握つて見たら三五である、明日握つて見たら三七である、明後日握つて見たら四〇になると云ふやうに、一日毎或は一週間毎にズッと其度が上るやうな人であつたならば、今の學說では意志修養に堪へる人である。幾らやつても上らぬ人は意志修養の出來ない人であると云ふのです。斯の如くたゞ一箇の握力計に依つてさへ心理上種々の科學的研究が出來ると云ふことを思ふと、大層面白くなつて來はしますまいか。尤もアナタ方がこれ以上の精密なることを研究するには及びませぬ。又これよりも精巧なる器械を用ゐるには及びませぬ。たゞ普通の握力計の用ゐ方を能くお心得になつたならば注意の疲勞、意志の力、意志修養の程度と云ふものを知ることが出來ると云ふことを申すのでございます。

是等のことに就ては何か案內記が入用であらうと思ひますから、其の案內記のことを申して置きますが、私の見まする所では同じく京都文科大學の實驗心理學室に居る人で、此の大阪市でも東區の教育會かで嘗て講義をしたことと信じまする、彼の野上文學士と竝に上野文學士此の兩學士の合著になつた『實驗心理學講義』と云ふ書物がございます。是れは一昨々年でありましたか、私が福岡縣へ行きましたときに、野上君に同伴して貰つて其の席で講述を願ひました、それが間もなく本になりました、それには澤山の說明が附いて居ります。澤山の圖が這入つて居ります。て今の案內記としては之れをお奬め致します。大槻文學士の『實驗心理學』も精密で宜しい。なほ英書でさう云ふ事を讀んで見たいと云ふ人のためには種々の書物もございまするが、私は亞米利加の彼のチヽナーと云ふ人の書物を最も良いものとしてお奬め致します。亞米利加に於ける實驗心理學の書物としては、是れが最も良いものであると存じます。マイヤ新著の『實驗心理學教科書』もまた大に宜しい。けれども右樣の書物で調べることが聊か億劫であるとしますれば、初めに立歸りまして、今日の心理學の研究は所謂發問法に據ると云ふことに依つて甘じなければならぬかと存ずるのであります。是れは今云ふ通り實驗者と、それから家庭と最も親密なる連絡を望むのでありまして、實驗者、學者がたゞ研究室や教場に於て空理

空談で割り出した兒童研究論、兒童教育論は何の役にも立ちませぬ。矢張り母親が生れたときから極く親しく、極く親切に觀察せられた、其の實驗談をお借りしたいのであつて、發問法とは卽ち家庭に於て母親の親切なる觀察法、親切なる御用意を承はらうとするのであります。それに就て茲に何う云ふことを發問すると、非常に實際上兒童研究が役に立つかと云ふ一例を申して見やうと思ひます。それは倫敦にチャイルド、リーグと云ふものが組織されて居る。リーグと云ふのは組と云ふやうな字です。それだからチャイルド、リーグは卽ち少年組と云ふことです。之れには種々の分ちがありまするけれども、畢竟少年の知育、體育、德育に對して十分學校と提携して保護を與へやうと云ふので、先頃乃木大將もその少年組に臨んで、種々の話をされたと云ふことを新聞で見ました。倫敦のチャイルド、リーグの主なる書記長をして居りまするヒリップと云ふ人がある。是れは女です。此人が昨年の學會に於て、「私は嘗て自分の職務上斯う〳〵云ふ風の問題を各家庭に出して、答案を募つたのでございますが、皆さんの御參考に供しまする」と云つて、自分の手でやつた發問法を五箇條ほど朗讀いたしました。是れは諸君に非常に御參考になると思ひまするから、同じく茲に朗讀いたして見やうと思ふ。卽ち實際諸君の如き兒童教育に當られる人が發問法に依つて兒童を研究しまするならば、何う云ふ問題を出して研究したら宜いかと云ふことの標準が分らうと思ふ。それに就ての第一番の問題は斯う云ふのです。四歲の子供で兎角嘘を云つて困る子供がある。虛言癖のあるのがある。それは如何に取扱ふたら宜からうかと斯う云ふ問題を出した。是れは諸君も御承知でせう。隨分子供には嘘を云ふものが多い。私は親しく日本の小學校の教育に從事せねから承知しませぬが、先年獨逸で調査しましたときも、兒童の研究の主なる問題は此の兒童の虛言癖のことでございました。そこで此の倫敦のチャイルド、リーグのヒリップ女史が四歲になる子供にして嘘を云ふのがある、其時アナタの家庭に於ては之れを何うお取扱ひになつたら宜いかと云ふ問題を出したのであります。それから第二番は申すまでもなく、兒童の第一の道德上の義務は親の云ふこと、長者の命令することに服從することでございます、服從は兒童の第一の道德上の義務であると云ふことは申すまでもございませぬ。併し諸君！服從が兒童の義務だと云つて赤ン坊に服從を命ずることが出來ますか。ワア〳〵と泣くのに、幾ら服從せよと云つても恐らく止みますまい。昔から泣く子と地頭には勝てぬと云ふてせう。地頭と云へば今日で云ふと知事さんとか、もう些と低い所ではマア郡長さんと云ふ

やうなドエライ人、さう云ふ人でも泣く子と地頭には何うしても勝てぬと云ふくらゐである。即ち親が子に服從せねばならぬと云ふ實際の有樣であります。我々は如何にも辯論をすることが好きですけれども、赤ン坊に對して辯論を試み、さうしておれの云ふことに服從せよと云つても何うしても聽かすことは出來ない。さうして見れば服從の義務と云ふものは敎へる年齡があるに違ひない、ナンボ人間でも赤ン坊のときから敎へられぬ。第二箇條に於ては兒童には何歲頃から服從の義務をアナタはお敎へになつて居るか。是れも大變大切なことです。之れと關聯致しまして、第三箇條には此の服從をさせるにも種々の方便を使ふ。言ふことを聽かないからお灸ぢやと云ふやうな責道具を以て服從を强ゆるのもあるけれど、あれは餘り感心せぬ。併ながら已むを得ぬから大抵の所では必ず此責道具を使ふやうである。私の所でも子供に嘘を云はせるとは無論嫌ひであります。そこで子供の嘘を云はぬやうにするには、親が嘘を云はぬやうにするのが第一だと思ひます。併しながらさうも行かぬときがあるものと見えて、日外も私の女房が夜半に起きて小さい子の泣くを止める爲めに「ソラドラ猫が來るぞ、早くねんねをお仕よ」と、斯う云つて居るが、子供は泣くばかりである。そこで私が「そんな事を云つては可かぬ、豫て言ふ通り虛言は出來ぬと云ふことになつて居るのだから、さう云ふことを言つて脅しては可かぬ」と云ふと、女房が云ふのには「成程理窟はさうでせうが、是れだけは許して貰はねばならぬ。もしドラ猫を止めにしてしまつたら、夜通し泣かれて仕樣がありませぬ」「ナニそんなら代つておれが守をしてやらう」と云ふ譯にも行かぬから、ツイ私も其儘にして置いたのであるが、實際子供を育るのにはさう云ふことが餘程六づかしいと見える。けれども是れは實は敎育上能く研究すべき點であらうと思ふ。で第三番目にはさう云ふやうな責罰、即ち猫が來るとか、お灸をすゑるとか、所に依るとソラ巡査が來ると云ふやうなことを言ふが、さう云ふ責罰でなくして、速に兒童に服從を敎へる方法があるかと云つて聽いたのであります。成程兒童研究も斯う行かなければならぬ。兒童の好きなお菓子は何かなどゝ云ふやうなことを丈ては手間暇費してやるほどのことがないかも知れぬが、兎に角責罰を用ゐずして速かに兒童に服從を敎へるのは何うするのか、方法がありますか。第四番は頑固に親や敎師の云ふことに反抗する子供を取扱ふのには何うなさるか。第五番は子供に如何にして所謂宗敎思想を養成し、之れを吹き込んで居らるゝかと、斯う云ふことを承はりたいと云ふのでありました。諸君！殊に御婦人方に承はるが、之に就て

アナタ方は明瞭な答が出來るか、出來ないか。それは讀本の教授、細密な教案、固より必要です。併し兒童を教育することに就ては是等のことに對して了簡を決めなければならぬ。尤も斯く申す私でも矢張り明答が出來ない……明答が出來ないからして女房に負けてドラ猫に贊成するやうになるのぢやが、併し着實に、眞面目に斯う云ふことを研究するためには決して父母も反對を唱へますまい。視學官、官吏、公吏方も反對は唱へられまいと信ずる。私は斯う云ふやうな兒童研究の行はれんことを希望致します。

以上のことて大體兒童の研究はお話を了へた積りてござりまする。さて兒童研究と云ふものは子供の傾向を研究するのであると言つたが、最後にもう少し約めて申しまずると、何を研究するのであるかと云ふことに就て面白い話がある。それはもう少し約めて言ひましたならば、兒童の研究と云ふものは兒童の頭を研究するのである、兒童の腦髓を研究するのてあると云ふのてす。何故に兒童は殊に腦髓を研究しなければならぬかと云ふと、これも或學者は斯う言ふた、大人と小兒、それに就て頭高、身長……腕長、それから脚長、夫等の比例を計つて見たならば大人は斯う云ふ風になりはせぬか。大人は頭高二、身長三、腕長四、脚長五と云ふ順序になつて居るから、頭は比例上小さいのてあります。所が子供ては皆一の釣合を持つて居る。即ち一、一、一、一である。して見ると頭は比例上非常に大きなのてある。是れ兒童は頭の動物と云つても差支ない所以てあるから、兒童の研究は一般に研究するとは言ひ條、殊に頭を研究するのてある。又更に論鋒を進めて、頭を研究する中に於ても矢張り腦髓の働きを研究するのてあるが、腦髓の働きとは何ぞやと云ふ問題があるならば、それも明かにせねばならぬ。これは新しい心理學の話になるのてありますが、先刻兒童研究の目的物は兒童の傾向てあると云ふことを申しましたが、これは俗語てす。今の學問の言葉で申しますれば、兒童研究の目的物は兒童の心の反應を研究するのてはありますまいか。英語て申しますればレァクションてある。レァクションを研究するのてはなからうか。諸君！これは何てもないことのやうてござりまするが、新しい心理學が茲に變つたのてござります。舊い心理學ては彼の英吉利のジョン、ロックてすね。彼の人が今から二百年前に唱へたやうに、我々の心は恰も白紙の樣なものてある。其の白紙の上に外の種々の感覺機關から種々の印象を受けるとする。即ちロック流の心理學に於ては、我々の心と云ふ者は全く受動てあつたのてあります……受身てあつたのてあります。併し今の心理學は然うは申しませぬ。我々は

外からの刺戟にばかり左右せられるものではない。我々は外から來る感覺ばかりに依つて左右せられるものではない。名は附けられぬけれども心の原動力とでも言ふべきものが意中に在つて、それが外部から來る感覺の刺戟に反動して現はれて來るところのものである。卽ち受動の心ではなくして反動の狀態であると云ふことであります。左すれば兒童研究は兒童に於ける心の反動方を研究するのであると思ふ。而して其の反動方には三通りあると云ふのであります。其の第一は行爲となつて現はれる。物を掴むとか、握るとか、驅けるとか云ふ行爲となつて現はれる。或は第二の反動の仕方は感動となつて現はれるのであります。第三の反動の仕方は寧ろ物を知らんとする……欲知と云ふ形を以て反動するのであります。所謂知情意と云ふ、此の三つは結局反動の方法なのであつて、心は實は外部に對する反動に過ぎないのであります。兒童には既にそれが現はれて居ります。故に夫れを研究する。併しそれをもう一つ根源に立入つて言へば何うかと云ふと、兒童心理學に於て研究すべき殊に重なるものは兒童の本能を研究するのであります。卽ち既に我々が心の反動であると言ふた以上は、心には是非本能があると云ふことを言はなければならぬと思ふ。尤も今の心理學者は多く本能と云ふ言葉を使ひませぬ。本能と言ふ代りに衝動と言ふ字を使ひますが、衝動も本能も同じことであります。卽ち今の心理學は、外から動かされるものでなくして、心と云ふものは生れながらにして內から外に動くものである。動くのが心の性質だと云ふのでありまするが動はやがて衝動であります。衝動はやがて本能であります。本能卽ち兒童の生命である。だからして、兒童の傾向を研究しやうと言ふたのは、取りも直さず兒童の本能を研究するのであります。それに就て注意すべきことが五箇條あると云ふことを申し上げて此の講義を了へませう。

第一番に兒童は生れながらにして世界を握らんとするの本能を持つて居るのであります。兒童の本能の傾は皆世界を掌握せんとするに在るのです。諸君！敎育者は消極的の敎て好いとか、積極的の敎であるべき筈だとか言つて、種々議論もあるやうに承はります。でありますけれども本當は消極的の敎などゝ云ふとは實は天性を曲げたものである。子供の天性と云ふのは往いて掴まんとするのである。其の證據には子供は所謂手を延ばし、ランプの火、火鉢の火さへ掴まんとするのが兒童の本能でありまするから、兒童の兒童たる所は卽ち掴まんとすることである。此の掴まんとする性質の愈〻益〻延びたものが卽ち大人物となれるのである。此の掴まん

とする性質の延び方の如何に依つて小さい人物と大きな人物の別が出來る。即ち人物の成功不成功は物を掴まんとする本能の發達の加減に在ると思ふ。其の本能の發達の加減に依つて、亞米利加のモルガンのやうに、一年の月給は日本の金に直して二百四十萬圓と云ふやうな大きな金を掴む人も出來れば、又一年の給料僅かに百圓内外の人も出來るのであらうと思ふ。知識でも同じことである。些との知識で滿足して居る人と、決して夫れでは滿足せずして多く……より多く掴まう〳〵と云ふ人とがある。即ち進取と云ふことが兒童の本能です。我々が新教育學に於て萬事偉大ならんと志せ、海外に雄飛せよと言つたのは矢張り兒童の掴まんとする本性を發揮するのであります。第二番に教育と云ふものは此の兒童天賦の遺傳に向つて……天賦の本能に向つて十分活動の餘地を與へることで、而もそれを適當に指導することであるのです。即ち我々が新教育で唱へまする自學補導と云ふのが夫れである。自ら學ぶと云ふのは本能を發揮して愈〻向ふへ進むのです。併したゞ向ふへ進めと言へば火の中に這入り水に溺れることもある。故に適當に輔導する。教育とは兒童の有する天賦の本能、天賦の傾向に十分活動の餘地を與へ、而も之れを適當に指導することを言ふのでございます。第三番目に此の兒童の本能と云ふものは、全く身體機關の上に屬するのでありますから、必ず體育と云ふことを盛んに致さなければならぬと存じます。身體が弱ければ志が大てあつても夫れを遂げることが出來ない。身體の弱い人は矢張り氣が弱い。特別の例は暫く措きます。本能は身體に屬するから其の身體の養成を力めねばならぬ。第四番目に、人は動もすれば人間の生活と云ふことは極く勝手氣儘なものである、放埒なものである。英語で言へはスポンテニアスである。たゞもう生れたまゝのもので大きく成り次第のものであると云ふことを申す者もありますが、夫れは間違うて居ると言ふのであります。成程我々は天職の本能と云ふことに重きを置くけれども、而も人間の愉快と云ふものは其の天賦の本能を練磨するに在るのであります。磨けば磨くほど偉い。たゞ勝手なことをすると云ふことも愉快なやうでありますが、何れの愉快が大てあるかと聞いたならば、自然の儘にたゞ無爲にして化して居るよりも、練磨する方が愉快である。教育者は練磨が愉快であると云ふことを自らも考へ、人にも教へて貰ひたいのであります。これが兒童を導く第一の心得であります。而して最後の第五箇條には屢〻本能と言ひ、天賦と言ひましたけれども、夫れには種々の型式があると云ふことを知らなければならぬ。種々のタイプがあると云ふことを知らなければならない。例

へば飢ゑると云ふは、これは一般の本能です。或は咽喉が渇くと云ふことも本能です。即ち飢渇と云ふとは人一般の本能びありますが、併し同じく咽喉が渇いたときにも其の飲みたいものが違ふのです。例へばアイスクリームにしませうか、ラムネにしませうか、炭酸水にしませうか、麥湯にしませうか、サイダーにしませうか、ジンヂャーにしませうかと問うて見たならば、必ず皆同樣ではありますまい。矢張り幾つも區別がありませう。これは其の顏面が異ると同じく其の欲する所のものも違ふのである。女ならば氷水が飲みたい。男ならばそれよりもビールが飲みたい。鹿兒島邊の男ならば燒酎が飲みたいとか。總て渇するとの本能は同じだけれども、氷水式本能があり、ビール式本能がある。或は燒酎式本能もある。腹が空つたら男なら牛肉を喰ひたい。女ならおさつを喰ひたいとか。これも皆それ〳〵型式の違ふことを見るならば、兒童研究の主眼は兒童の本能の型式を知つて、それに適應するやうに導くのであると云ふことを申すのでございます。

右の五箇條は知れ切つたやうなことでありますするけれども、英吉利マンチエスター大學に於て教育學の教授をして居るマークと云ふ人が論文を提出して、兒童研究者の注意と云ふことを促した中に書いてあつたので、彼の國でもそれだけの必要があると云ふことを言つて居るのであります。固より我國でも其の必要があらうと思つて申したのであります。これが兒童研究の一般の注意であります。

以上は總論の樣なものですが、是れからは實際兒童研究を西洋ではどんな風にやつて居るかと云ふ、西洋で研究して居る二三の實例を擧げて、諸君の實行の御參考に供しやうと思ひます。即ち以下は各論と云ふ順序にいたさうと存じて居ります。取りも直さず前論に引續いて歐羅巴各國で近頃やつて居りまする兒童研究の實例を幾つかお話申して、それで前の議論の證明に代へやうと思ふのでございますが、以上述べた所は理窟が多かつたし、以下は又事實が多いのです。

第一番にお話をしまするのは兒童研究にも矢張り兒童の身體檢査と云ふことが入用である。身體檢査とか體格檢査とか云ふ、それだけであるならば、夫れは寧ろ生理衛生の上に屬することであつて、心理の方には關係がないやうであるけれども、體格檢査、身體檢査も、やりやうに依つては非常に實驗心理學に役立つことがあると云ふことを最初に述べまする。夫れは和蘭にヘルデルセーと云ふ人がある。此の人が言つたのであつて、體格檢査に一新生面を開いたものであらうと思ふのであります。と云ふのはたゞ身體が強いとか、弱いとか、大きいとか、小さいとか云ふことを測

るのでなくして、身體發達と、それから兒童の學業成績との釣合を見たのです。果して體格の宜い者は矢張り成績が好いか何うか。成績の惡い子供は體格が惡いか何うか。體格の檢査と成績の調査とを比べて見たのでございます。そこで夫れは一つの方では身長ですね、身體の長を測りますし。一つの方では頭……此の頭蓋を測つたのでございますが、其の測つた子供の數は八百九十一人、男と女とが大體半々ございます。年齢は滿六歳より滿十一歳十一箇月と云のでありますから、卽ち日本の學齡兒童に就て測つたと見て宜しうございます。此の八百九十一人の子供を成績に依つて區別をいたしたのでございます。上等の出來と劣等の出來と云ふ風に區別する。先づ上と下てある。其の上等の者が何人あるかと云ふと百三十人てす。それから劣等の者が何人かと云ふと百三十五人てす。此の百三十人と云ふ上等の中でも亦優等の者がある。優等の者は、何人かと云ふと二十二人。それから下等と云ふ中でも最劣等の者がある。夫れが何人あるかと云ふと十八人。其他はマア竝てす。是れは非常に面白いとてす。諸君も長らく學校で經驗をなさるから定めて御發見になつたと信じまするが、凡そ一級の生徒の中でも竝の者は別として、優等と最下等との數は一定の釣合がある。其の比例がどれくらゐになるかと云ふことを見ると面白い。そこで私は大學だの、或は其他の學校などでも苟も、試驗する機會があるならば、夫れに就ていつも表を採つて見るのでありますが、大概それには定まつた比例のあるものであつて、級により優等生の少ない級もありますし、試驗に因つて優等生の少ないときもありませうが、大概は上下優劣と云ふものゝ比例は定まつたものであります。而も其の比例が略、斯う云ふ風に當りはせまいか、八百九十一人の中で上等が百三十人、下等が百三十五人と云ふやうな比例になりはせまいか。是れは大きな學校を立てゝ居る人などは表を作つて御覽なされ。大抵斯う云ふ比例になるやうてあります。

さて斯くの如く分けて身體檢査をやつたのてす。さうして先づ優等な人、上等な人、下等な人、最劣等な人、斯う四段に分つたのてす。そこて其の身長には無論各國に竝と云ふものがある、中がある。それて中以下と以上とに區別した。是れも面白い。西洋の言葉て云へばノルムてす。さうして身長て云ふと中以上のものが優等者に多いか、中以下のものが優等者に多いかと云やうなことを調るのてありますが、夫れは斯うなるものてあります。優等者には百分の四〇九は中以下てあります。之れに對して中以上の者が百分の五九、一てあり舛。これは諸君に能く御注意を願ひた

いと思ふのであります。矢張り除外例もありませうけれども、大體云へば身長も立派である者が矢張り成績も立派であると言へると思はれる。それから上等な方になると少し違ふ。中以下の者が四六、二であります、さうして中以上の者が五三、八であります。これも御覽になつたら分る。矢張り優等者は中以上の者に多いのであります。それから劣等の者になると何うであるかと申しますると、是れが異つて來る。中以下の方が五〇、四であつて、それから中以上の者が四九、六と云ふことが擧つて居る、之れに依つて見ると中以下の者が一寸多くなつて來て居ると云ふことが分る。劣等者では中以上の者が四四、四と云ふことになつて居り、さうして中以下の者が五五、六と云ふことになつて居るので、身長で優等者、上等者と云ふ方は中以下の者よりも中以上の者に多いと云ふことがお分りになつたと思ふ。今度は頭蓋の方で す、頭蓋の方も右の通り矢張り優等、上等、下等、劣等とし、同じく中以下中以上と致します。優等には中以下の者は三七、八で少ない。さうして中以上の者は六三、二である。それだから何うしても矢張り優等な者は頭が自然大きなと云ふとは疑へないやうになる。上等な者は些と中以下の者が増して四〇、八です、さうして中以上の者が五四、六であります。上とは少し比例が違ふけれども、中以上の者が矢張り多いと云ふことを現はして居ります。ところが劣等の方は何うであるかと云ふと、中以下の方が増して五二、六と云ふことになつて居る。さうして最劣等の方では五〇、五と云ふことになつて居る、兎にも角にもこれも非常に面白いことで、成績の降る程中以下の者が、順々に増して來ると云ふことは、非常に面白い現象ではありますまいか。今誰でも體格檢査をすると云ふことはケトレーなどの舊い法に據つて居るのでありますが、それは既に舊いのであります。今から後、學校で體格檢査をせられるときには、ヘルデルセーのやつた樣に成績の優劣と體格の優劣との比例表を作られるならば、それは教育上に非常な益があるであらうと云ふことを申すのであります。尙科學的に兒童學を立てるには萬國一樣の方法で身體の測量をして貰ひたいと云ふ議論もあつて、我々も其の動議に贊成を致しましたことであります。

其次にお話を致しますのは匈牙利のブタペストの中學校長のフェルテスと云ふ人が實驗したのであります。是れは記憶の實驗であります。中學と小學生との何れが記憶の宜いものであるかと云ふことを實驗したのであります。これも諸君の御參考にならうと思つて殊更お話をするのぢやが、併しながら決して定說と云ふ譯ではござりませぬ。と云ふのは其の實驗數も少なくありますから甚だ不十分

であります。先づ通例人の信ずるところでは、記憶と云ふのは年が行くに從つて衰へるものであると云ふことを申すのであります。在來の說に據りますれば記憶の最も熾んなのは七歲頃である。さうして記憶の衰へるのは四十歲からであります。四十歲から下り坂になつて、ズッと衰へるものであると云ふことを申しまするが、果して然うであるか何うであるか。此のフェルテス氏の實驗したことをお話致しませう。尤も其の數が少ないと云ふのは僅か小學校兒童七十人、中學校兒童三十人、合せてタッタ百人許りに就て實驗したのだから、是れば少々報告としては不足なのでございます。何を實驗したかと云ふと、記憶に就て二つの實驗を致しました。第一番は記憶の範圍に就て實驗をいたし、第二番は記憶の速度に就て實驗を致しました。此の記憶の範圍とか記憶の速度とか云ふことは容易く實驗が出來ます。記憶の範圍と云ふものは何うして實驗するかならば何か單語を書いた一の書物を持つて來る。さうして先生が其處で朗讀する。假りにやつて見ると山、池、松、楓、人、濱、猿、山羊、鷲、英吉利、智利と云ふ風に、餘り連絡のない單語を二十か三十拵へて置く、さうして一定の速度で以て讀むです。それから紙を與へて、今聽いた中の單語を覺えて居るだけ書いて見よと言ふ。而して澤山の語數を書けるのは卽ち記憶の範圍が廣いのです。

書くことの少ない人は記憶が狹いのです。斯くして記憶の範圍を測定する簡易な法は讀まれる語を幾ら記憶することが出來るかと云ふことを測るのにあるのです。其の方法を名づけて直接言語の記憶と云ひます。此の直接言語の記憶の法に據ると、中學生の方が遙かに大ださうであります。中學生の方を比例で云つて八十或は八十五とするのならば、小學校の生徒は六十六ぐらゐの割合だと申します。それで六歲から十七歲までは年々記憶の範圍が廣がることを見ると云ふのです。これは別に面倒のない方法でございますから、やつて御覽なさい。さうして其の記憶の範圍の廣い生徒は成績優等の兒童であるか何うかと云ふことを調べたら、大層面白いものと思ふ。それから記憶の速度と云ふものは一度習つたものを書いて見よと言ふのである。直ぐに書ける人と大變考へて書かなければならぬ人とがある。それは一定の時間內に書きました語數で時間を割つたならば記憶の速度は分ると思ひます。例へば十分間に今讀んだ字を五語しか書けぬならば、一語二分づゝ掛つたのである。卽ち其子供の記憶を回想する時間がやがて記憶の速度であると申すことが出來ると思ふ。語を換へて申しますれば卽ちそれが復記の繼續の時間であります。而して之れに據つて見ても亦中學生の方が大であつて、小學生の方が小さい、卽ち遲

いのであります。比例は何う云ふ比例になるかならば、中學生が一秒乃至一秒半でやる場合に、小學生は大體二秒掛ると云ふことになつて居ります。是れも實驗なさつて御覽じ、記憶の速度の早い子供は通例云ふ優等生であるか、或は優等生でないか。必ずしも記憶の範圍が大で、速度が早いからと云つて優等生とも決まりますまいが、何はともあれ一番實驗されんことを希望致します。

今のはブタペストの人の話でござりましたが、今度お話を致しますのは露西亞で、而かも女の實驗家の測つたことでございます。諸君は露西亞と云ひますると、如何にも野蠻國のやうに思はれませう。けれども大體から云へば開けぬかも存じませぬが、上流の方は中々開けて居るのであります。お聞き及びでもございませうが當代數學の名家は露西亞にあるのだそうでございます。それと同じことで、中々此の實驗心理學、實驗教育學と云ふやうなことも、手廣く、盛んにやつて居るやうでございますして、昨年の學會でも矢張り聖彼得堡で實驗教育學を教へて居りまするコスキメーと云ふ婦人が種々精密なる實驗報告を出して人を驚かせました。大分精密なものでありまして、一々お話することは出來ませぬから、大體のお話をしませう。矢張り此人も先づ最初は記憶に就て測つたのであります。一番は記憶の分量と云ふことを測りました。記憶の分量と云ふことは、前に申しました記憶の範圍と云ふことと殆んど同じことであります。其の測りました年齡は男女ともに三歳から十八歳までゞありまして、數は百八十人ほどに就て測つたのであります。でありますが小さい所は姑く措いて十歳の子供、それから十一歳の子供、それから十二歳の子供、それから十三歳の子供、それから十四歳の子供、十五歳の子供、十六歳の子供、十七歳、それから十八歳と、マア斯う云ふ表を書くとして、言葉の覺えて居る數を見た。今のやうにズット讀んだものを覺えさせた。其の語數の平均が十歳の子供は三、九であつた時に十一歳の者は四、一です。十二歳になつては六、二であります。ところが此所までズッと上つて來たのが十三歳では減つて來て六、六一となり、十四歳では六、〇となつて了つたのである。此點は御注意を願ひます。それから十五歳になつて又六、五となり、十六歳になつて七、二となり、十七歳になつて七、七となり、十八歳になつたら八、二となる。斯う云ふことなつて居る。之れに由つて見まするとと一寸斯う云ふやうに十三歳から十四歳の所で衰へて、其他は上つた線が書ける。即ち記憶の分量は年齡と共に增加すると云ふことが結論で、年齡と共に衰へると云ふことは間違つて居ります。だが一の缺陷がある。此表に依つて見ると十三歳、十四歳の所で一寸缺けて

居る。これは何を證明して居るのかと云ふと、これが卽ち春機の發動する時です。露西亞人の色氣の附く時は十三四歳と云ふことになつて居る。卽ち春機發動期には記憶が一寸衰へると云ふことを言ふのであります。此事は大變大切なことでありまして、春機發動期には日課の分量を減ぜねばならぬ。コスキメー女史の實驗は百八十餘人だから能く分らぬけれども、正に春機發動期に於て一寸斯う云ふやうな缺陷があると云ふことは諸君の御注意を煩はすのでございます。それから其次に觀念連合の特徴と云ふのです。これは何う云ふことを多く記憶するかと云ふことを見た。マア平たい言葉で申しますれば、記憶の種類と申しても宜しうございませうか。是れはもう一々書くと大層長くなりますから、たゞ少しに止めまするが、矢張り十歳から十八歳までの所でやるのであります。種々觸覺や筋覺に因つて痛いとか痒いとか云ふことを考へるのと、それから感覺……嬉しいとか悲しいとか云ふことを考へる。それから視感、聽感、及び抽象的に物を算へると云ふやうなことに就て一精密なことを測つて見たのでございますが、十歳の時には觸覺とか筋覺とか云ふのは二、七であるのでございます。それが順々に增して十八歳では七、七と斯うなつて來て居ります。それから數字の方では何うであるかと云ふと、十歳の子供では五、一であつた場合に、十八歳の所では九、三と云ふやうな增を現はして來て居る。外は飛ばして置いて抽象觀念でお話をして見ると、抽象的の觀念のことを記憶するのが十歳の子供では僅かに二、一であつた、それが十八歳の子供では八、五であると云ふやうなことに就て精密なる測定がございます。一々書けば時間が取れるから他日に讓りまするが、之れに依つて見ても殊に抽象と云ふことの記憶は何うしても年齡が長じなければ出來ぬと云ふことが分ります。一體記憶は年齡と共に長じ尙且つ精確の度も亦增して來る。斯樣にして觀念連續の種類と云ふことを測つて居ります。其次の第三目に測りましたのは、是れは觀念聯合の時間であります。卽ち連合の速度であります。それは斯う云ふ風に測つてあります。十歳から十二歳の子供と、それから十三歳から十五歳の子供と、それから十六歳から十八歳と斯う三組に於て測つて見ますると、十歳から十二歳の者が例へば二秒九一掛るものであるならば、十三歳から十五歳の者は二秒四四となつて減ずる、而して十六歳から十八歳になると二秒二七と云ふやうな數になつて來る。速度は順々に早くなると云ふことを證明されて居ります。これも御注意迄に申して置き舛。第四番目に測りましたとは、其の兒童の學業成績に依つて記憶の種類が違ふと云ふことて

ある。同じく物覺えが宜いと云つても、優等生の覺えるものと劣等生の覺えるものと事柄が違ふと云ふことは面白いです。コスキメー女史は何う云ふ風に實驗いたしたかと云ふと、上等生と、それから中等生と下等生、大體上中下の三つに分けたのであります。山とか川とか猫とか鼠とか云ふ單語を記憶させたのであります。一面には單語を記憶させた。一面には數字を記憶させた。例へば五〇、八八、一〇三、一五と云ふ風に數字を記憶させたのである。然うすると其の單語と數字との記憶の割合が學業成績の上中下に因つて違ふと云ふのであります。即ち上等生は單語を五一記憶いたしたのであつて、數は三五であります。それから中等生は單語が四五であつてさうして數が四〇であります。劣等生は單語が三二であつて、さうして數が四〇であるのです。斯うなると此表を能く推して見ると、丁度逆になつて居りませう、上等生の方には數字が少なく、下等生の方では單語が少ないから、丁度斯う云ふやうな十文字形になつて、裏表があると云ふことを諸君は御覽になることが出來る。これは何う云ふことを意味して居るかと云ふと、コスキメー女史が之れに就て判斷を下して居るのに、單語と云ふ方には幾らか道理がある。數字の方は全く機械的である。即ち上等生は道理のあることを記憶し、劣等性は器械的記憶に長じて居る。優等生と云ふものはラショナルの記憶に長じ、劣等生はメカニカルの記憶に長じたるものであると云ふことを申して居りますが、果して然う云ふ結論が出るか出ないか、それをお調べになることを希望致します。

尙コスキメー女史は種々の事を調査して居ります、其の次に調査致しましたのは子供が何う云ふものをすき好むかと云ふことでございます。即ち先づ何う云ふ菓物をすき好むかと云ふことを調査したのであります。昨日は讀物のことを申しまして、今朝起きて見ると其事が新聞に載つて居りましたが、昨日のお話は此の實驗話とは或點は合はないのであります。又合はないところが妙です。或は我々が實驗に據らずして定めたことゝ云ふものは、或點が缺けて居ると云ふことを證明されるのであります。是れは子供に就て實驗したのでありますが、私共も始終やつて居ります。小學校の生徒に就て、京都などでやるのですが、今て云へば尋常の五年生と、六年生とはどれくらゐの讀物が違ふか、中學校の一年から五年までに讀む雜誌はどれくらゐ違ふかと云ふことを種々の方法に據つて統計を取つて居ります。コスキメー女史も同じことを研究いたしたのであります。それは斯う云ふことをして研究致しました。第一番は旅行記です。族行記を愛することが年齢と何う云ふ違ひ

があるか。第二番は歴史、マア傳記も這入りませうが、歴史を愛することが年齢と何う關係をするか。第三番は小說を愛することが年齢と何う云ふ關係をするか。第四番は詩歌である、是れは何う云ふ關係をするか。第五番は科學卽ちサイエンスであります。夫れに就ては十一歳から十八歳までの子供に就て精密に測つたのでありますが、又一々書くと長くなりますから、ただ其の兩極端を擧げませう。是れは十一歳から測つたのであつて、十一歳の子供は旅行記を四七、さうして十八歳の子供は旅行記を三と斯う云ふのです。諸君！若し此通であるならば昨日私の要求したことが少し困る。私が要求したと云ふのは西洋の學說を皆合はして言ふたので、十六歳以上の青年には成るたけ旅行記を讀ませることが宜いと言ふたが少々違ふ。讀ませうとしても讀むまいと思ふ。併し茲に問ひたいのは其の旅行記の種類がどんなものであつたかと云ふことであります。歴史は十一歳の子供が二六であるならば十八歳の子供は三二だと云ふのです。是れは歴史が好きと見える。小說は十一歳の子供が二三ならば十八歳の青年は四七、これは尤もです、非常に多い。それから詩歌です、詩や歌と云つても大和田先生の東海道鐵道の歌のやうなものではなく、もう少し六づかしい人情の詩歌でありますから、十一歳の子供が三〇、八歳の子供が一四である。それからサイエンス、卽ち科學は十一歳の子供が一であつて、十八歳の子供は四であると云ふことを現はした。是れは斯う云つてしまつては一向面白くないが、何人ぐらゐの生徒に就て測つたのかと云ひまするが、實は一々年齢の表を書くと實に面白側つたと云ふから大分面白いと思ひまするが、實は一々年齢の表を書くと實に面白いのであります。それは先刻も申しましたやうに、たゞ一樣に上るとか一樣に減るとか云ふのでなくして、春機發動期に於て非常に變化を起すのであります。諸君！コスキメー女史の言ふところに據ると、春機發動期と云ふものは確に人の心を一變せしめるものであると云ふのであります。何う一變するかと云ふと、春機發動期の子供は其の考へるとがたゞ一事の下に纏まつて居ると云ふのです。たゞ愉快と云ふことに集中して居る。或は飯を能く喰ふ、美味い物を餘計に喰ふ、快樂を欲すると云ふ一事の下に集中して居る。殆んど道德的、殆んど精神的の事はなくして、たゞ愉快の一事に集中して居る。强いて謂つたならば、春機發動期の者は總て外部的の生活を喜び、內部的の生活を喜ばぬやうである。外部的生活は百分の八三であつて、內部的生活は百分の一七ぐらゐの割合であると云つて、種々の證明をいたして居りますが、斯樣なことを此處に我々が忙しい中に居て緩々言ふのは抑〻意味があるのです。

卽ちどう云ふ譯でありますかなら、コスキメー女史が言ふのに、作文などの敎へ方などの上にも、此の春機發動と云ふ事は、非常な意味のあることゝして見なければならぬ。て春機發動時代と、又其の春機發動以後と以前とは、自から作文が違ふと云ふことを申しまして、なほコスキメー女史が自分の作文敎授に關する意見を縷々述べて居りますが、日本に於ても作文の敎授と云ふことは非常に六づかしい。小學校に於きましては綴り方の敎授と云ふことが非常に六づかしいので、本年も熊本縣の講習會などには、態々廣島高等師範學校の訓導の人て、綴り方敎授の上手な人を呼んて來て、私の前に講釋をして貰つて居つたやうてあります。其の先生は熊本を濟まして山口に行く、岡山に行く、それから滋賀に行くと云ふので、彼方此方から招かれて居る所を見ると、綴り方敎授が、如何に困難な仕事てあるかと云ふことが分ると思ひます。之れに就て詳しいことは申す時もない、又私は其の用意も足るまいと存じますが、コスキメー女史の言ふたことが面白いから一寸茲に申しまする。女史の申しまするのに、春機發動期以前は作文と云ふものが凡そ純粹簡單の記載てあります。然るに春機發動期後になると然うてなくて、自分の感覺か這入る。それだから個人的て、卽ち其の人々の感覺や、それから種々の反省が這入ります。卽ち春機發動期以前の作文は純粹簡單の記述てあるが、春機發動期以後は個人的の感覺反省が這入るのてあると、斯う云ふことを申して居ります。是れは何てもないことてありまするけれども、之れを從來の作文の上の言葉に合はして云ふと何うかと云へば、春機發動期以前は卽ち記事文だと云ふことてはありますまいか。春發變動期以後は或は論か或は何々の說とか云ふやうな文になりはしますまいか。昔から大體文章を分けて記事文と論說文とにすると致しますれば、春機發動期の前後に由り其の區別があるのてあつて、小學校は今の學齡に據りますれば春機發動期以前てありますから、小學校の作文綴り方に記事文を用ゐる外は無理てあらうと思ひます。それと反對に中學校や高等女學校に於て個人的感覺反省を加へぬ單簡なる記載的文を課さうとしたならば、必ず子供が飽かうと思ひます。それて先生の腕前ても、小學校の綴り方の先生には記事文に長じた者てあり、中學校や高等女學校の先生には論說體の文章の出來る人を望むと云ふことが申せませう。

尙それに同じことて、矢張りコスキメー女史が言ふのには、作文には二つの原素が含まれて居ると云ふのてあります。作文に二種類の原素がある爲に、卽ち作文には二種類が出來るのてあります。其の原素の一を稱して外的原素と云ひます。一を

稱して內的原素と云ふのです。一體本當の文章と云ふのは此の內外兩面の原素が兼ね備はつたのでなければ本當の文章とは云へぬ。けれども夫れは年齡に依つて一概に行かぬ。春機發動期以前は外的原素が秀でるのである。春機發動期以後は內的原素が秀でるのである。字形の如きは作文の外的原素です。字數の如きも矢張り外的原素であります。それから種々の語法是れも外的原素であります。種々の口調是れも外的原素であります。種々の熟語是れも外的原素であります。字形字數語法口調とか熟語とか云ふ總ての類のことは是れは文章の外的原素であります。內的原素と云ふのは如何なることを申しまするかならば其人の心象感情判斷と云ふやうなことを言ふのであります。是れは文章の內容であります。諸君！文章は兩方を兼ねて居るのが宜いのでありまするけれども、さて何れか一つしかないと仕ましたならば、無論文章の本義としましては內的原素の多い方が宜いのであります。昔の人は今の人を種々に誹ります。今の書生を誹つて字の書きやうが下手だと云ふことを言ひます。諸君！本當を云ひましたならば、字の書き樣は下手でも宜いのです。字の上手な人は恐らく物書ぐらゐにしかなれまい。私共は字が下手でも實は恥とは思はぬ。他に幾らでも上手な人がある、其の人に賴んだならば、手紙の代筆

でも何でも立派に書いて呉れる。でありますからナンボ字が能う書けて居つても、內容の意味が平凡であつたら誰れも感心せぬ。だから私は內容の宜い方を採るのである。新聞社に投書をするのでも、字畫を誤らず正しく書いてやつても其の內容が詰らなんだら採用しませぬ。假令字が惡うても內容が宜かつたら採つて呉れます。でありますから外的原素と云ふことは必要でない。之れに就て面白い話がある。今回の講義には最初に二日ながら添田壽一君の名前を擧げたのでありますが、其の添田君の話が一寸之れに當ると思ふ。今日更に同君のえらい事を云へば、添田君は外的作文の生活を去つて內的作文の生活に移つたからえらいのだと云ふことを言へる。是れも他所で話をしたら左程感奮しなからうが、此の大阪で話をしたら殊に其の感が深からうと思ふ。添田君は今猶五十歲前後であつて、福岡縣の人です。子供の時から神童と言はれて、非常に字が上手であつた。十二三歲にして龍躍り雲飛ぶと云ふやうな字を書いたので、お父さんに連れられて彼方此方を廻つて居つた。尤も日本の神童は皆字を書くです。但し私なども亦子供の時には少々神童と言はれた方だが、別に字は能く書かなかつた、マア人童ぐらゐであつたらうと思ふ。所で添田君が親に連れられて追々と乘込んで參つたのは日本繁榮の都會、卽ち此の大阪

であります。斯う云ふ繁榮な所だから字を書かせる所が多いと云ふので、大阪へやつて來ると、中々評判が高くして、彼方からも此方からも揮毫を頼まれた。一日行つたのは當時の大阪府知事渡邊昇さん、今は子爵でありますが、此のお方の前で段々字を書いたところ、渡邊さんが頻りに見て居られる。定めて賞めて呉れるのだらうと思つて居ると、添田君は字を書き了り、やがて水晶の大きな印を取つて落款を押さうとすると、渡邊さんは其の水晶の大きな印を取るや否や、イキナリそれを庭前の敷石の上に打つ突けて粉微塵に打ち碎いてしまつた。お父さんが喫驚して、「御前、何を遊ばすか」と言ふたら渡邊さんがカラ〳〵と笑つて、「是れはお前の子供をえらくしてやるのだ。「お前の子供はたゞ字を書く丈の事で歩いたら、何時まで立つても字書に過ぎない。まだ年が行かないのだから此上どんなにでもえらくもなれる。字を書いて居ては所謂十を(とを)て神童、二十(はたち)て才子、二十五六て只だの人になつてしまふ。折角是程の人間に生れたのだから、字を書くことなどは廢めてしまへ。乃ちおれは最早不用と思つて水晶の印を打ち碎いたのだ。これからおれが世話してやるから、良い學校に這入つて學問を勉強せよ」と言つて、第一に此の大阪の英語學校へ入れて呉れられたそれからズッと延いて大學までも卒業し、法學博士として、今日では大藏大臣に擬せられるやうな立派な人になつた。是れが外形的のことを廢めたからであります。昔我々は『文章軌範』を稽古したが、今は何故文章軌範が流行らぬかと云ふと、あれは外的のものであるからである。是れは宋末の謝枋得と云ふ人が古文の體式となすに足るべき文凡そ六十何編かを選び集めたものであつて、何れも句法は調ふて居ります。技術は調ふて居ります。初めには有名な韓退之と云ふ大文章家が其頃の唐の宰相于襄陽と云ふ人に奉つたと云ふ一文が載つて居る。今の活版刷にすると五號活文ならば僅か一頁ぐらゐしかないでせう。併し森田節齋と云ふ先生が曾て此の于襄陽に奉つた韓退之の文の語法、句法を講釋すること約六七時間以上に及んだと云ふ。私とても若し韓退之のあの文を講釋するならば五時間ぐらゐは掛つてゞなければ出來ない。固より一頁ぐらゐだからスラリと講釋すれば何でもない。併しあの文章の波瀾、抑揚、頓挫其他文體の妙を講釋したら落語家講釋師よりも面白く言へるのである。それで漢學をした人が昔の文章は調うて居る、今の文章は拙い、昔の文章でなければ可かぬと言ふ樣だが、昔の文章は實は主として外形が調うて居るのである。其の代りに今の文章ほどに內容が調うて居らぬのである。何うも昔の文章は今日より見れば實は外形に長じて居つて、內的に長じて居らない。マア天王

寺邊か何所かに在る書の碑文を見て御覽じ、大概碑文と云ふものは字數も順序も決まつて居るものである。假に私の碑文を書くとすれば『谷本先生、諱富讃岐人』と云つた風に書くのである。チャンと極まつて居る。面白味と云ふものは少しもない。だから今は文章が衰へたのでなくして、今は文章の內的の方に重きを置くやうになつたから亂れたやうに見えるのである。さて斯うなつて來ると小學校では其の亂れた儘に今風の文章を敎へるが宜いかと云ふと、然うは行かぬと云ふことを、諸君に御注意するのであります。大人の方は別問題でありますけれども、春機發動期以前には、外的原素が多いのであるから、何うか小學校では小理窟や小說紛ひの變な懸賞文を書いて、それが珍しがられて賞品を貰ふやうな事をせずして、寧ろ字形、字畫、語法、口調等の誤らぬやうな文章を書くことにし、層一層外的文章の方に重きを置いて貰ひしたい。其の根柢が据つて居つたならば、中學大學へ來られたときに矢張り正確なる文章が出來るのである。けれども情けないかな、有り樣は只今大學の卒業生にして、何學士と肩書を打つて出す者にも誤字を書く人が往々ある。間違つた文章を書く人も隨分ある。熟語を違へて居る者も澤山にある。先日も卒業試驗の論文を審査したが長いのは千頁ぐらゐあるものもある。それに我々には一々批評を加へて、討論をするのであるが、後は私はいつても二つ三つづつ誤字を指摘すると、先生我々大學の學生を捉へて誤字までを指摘し、彼是仰しやるのは餘りひどいではございませぬか。何分大部の論文だから少々の誤字ぐらゐはありませう。誤字などはどちらでも宜いではありませぬか、木偏でも手偏でも宜い。活版にするときには宜いやうに直して呉れますから」と言ふから私が「イヤ君はこれから文學士と成るであらう、字を能く書くまでには行かぬでも、間違つた字を書かぬやう、間違つた熟語は使はぬやうにして貰ひたい」と言ふと、ハヽア左樣ですか」と云つて下るのですが、其の罪は高等學校に在るのです。高等學校でさう云ふことを少しも構はぬからである。併し段々詮索して見たから、其の初めは小學校で其の外的作文の基礎の敎へ方が書ほどに行かぬからである。事に依つたから小學校の先生がたゞひねくつた文章を書くことに注意して、字形や字數、語法や口調と云ふことの上に重きを置かれぬからではあるまいか。日本國ほど文章の亂れた所はないのである。堂々博士にして自國の文章を正しく書けない人が幾人もあると云ふのは世界中日本だけであらう。尤も其人は言ふだらう「私は西洋で稽古をしたから日本文は書けない」と。けれども果して西洋文も能く書けるかと云ふと、信用は出來ぬ。何れ外國語のことだから餘

り能くは書けないのであらう。苟も○學博士と云ふ肩書が附いてある以上には、せめて日本文だけは當り前に書けるやうになつて貰ひたい。固より○學博士と云つても自分の專門でない詩や漢文を殊更上手に作る必要はない。けれども自分の意志だけは日本文で滿足に言ひ表はすことにして貰ひたい。私も固より文章は甚だ下手ですが、四五年前に平仄に合ふか合はぬか知らぬけれども、二三の絕句を作つたのが『讀賣新聞』に載つたことがある、ところが近邊の或老儒、詩の上手な人が私の作を見て「これが文學博士の詩か」と言つて非常に嘲笑したさうな。私はそれを聞いて笑つて「實に愚なことを言ふ人だ、私は何も詩を作るで博士になつては居らない。私は教育學に由つて博士になつたのである。若し詩で博士になつたのなら、失敬ながらそんな人は側にも寄れぬほど、うまい詩を作つてお目に掛けやうが、私は決して詩を作るのが專門でない。けれども作ることは少々作る。文でも矢張り書くことは書く、マア普通のことはやる積りだ」と云つて笑つたことがありますが、何うか小學校に於ては徒らに面倒な文章を教へることは要らない、捻くつた作文を教へるには及ばない。主として外的元素に重きを置いて貰ひたい。其の事が分つたら作文教授方が面倒か、面倒でないかと云ふことは直ぐ分かる。名文を書かせやうと思ふから面倒だけれども、小學校に於ては別に名論卓說を書かせる必要はない。たゞ正しい文章を書かせることを主としてなければならぬ。作文の根柢はそれなのです。正確なる文と云ふものは第一に外形の調ふことになるのであります。

其次にお話をするのは注意の事であります。實は此の暑いのに長い時間、而も聲自慢の私でも最うこれで二十日以上も講演を續けて居りますから、昨今は餘程聲が汚なうなつた。それにも拘らず諸君は一向欠伸も居眠りもせず聽いて下さるのは、諸君の注意力の强いことに私は感服するのである（笑聲起る）併しながら是れは諸君の如き熱心家に望むのであつて、小學兒童一般には望まれぬことであると思ふ。私がナンボ話が上手だと云つても閉口したことがある。何時でありましたか、岡山の孤兒院の總會に行つた。八百人ばかりの子供が庭に竝んで居る。其所へベテーさんと云ふ西洋人が出て「これからお前さん等の事を常に骨折つて世話して下さる、評議員の谷本さんと云ふ博士の人がお話をされるのだから、能く聽いて置きなさい」と云ふので私が其所へ出て行つて話を仕掛けた。ところが何うも七八歲の子供ばかりだから、何だかワア〳〵と云つて少しも靜まらない。私はそれを靜めやうとして話をするのに種々の秘傳を使うて見たけれども、何うしてもそれだけの子供の注意

を十分に惹くことは出來なかつた。尤も青天(あを)で、綺麗な幕を張つて、其の外(そと)ではドンチャン〳〵と云ふ樂隊が囃立てゝ居る、其中で話をしたので、誠に話が仕難(しにく)うあつた。併しながら私だからあれだけでも子供が聽いたのですさうな。して見ると小供の注意を惹くと云ふことは餘程六づかしいに違ひない。其の注意力のことに就てお話をしまするが、第一番にお話をするのは、白耳義の人が多いのは勢ひ學會がブリユッセルで開かれたからです。此人が凡そ學科に依つて疲勞の度が違ふとし、其の注意の疲勞の程度に依つて學科を配列しました。所て最も疲勞する學科は算術であると云ふのです。其次は理科だと云ふのです。其次は國語とか何とか云ふ語學である。だから是等は疲勞的のものである。疲勞的のものが一二三と斯うなりませう。其の反對に輕い學科は所謂休息的學科である。學科は學科だけれども、其間に骨休みの出來る學科です。是れが又一二三となつて、一番は唱歌です。唱歌を唄うて疲れたと云ふことはなからう。先生の方は疲れますけれども、習つて居る方は唱歌を唄うて非常に疲れたといふことはない。其次には圖畫であります。其次は手工である。大體實驗の結果斯うなるやうであるから、學科を配列するのには略ぼ此の組合せてしたら宜からうと云ふことを申されて居りますが、是れは極めて俗談であります。併しながら大方そんなことであらうかと思ふ。御注意の爲に申して置きます。

併しながらなほ進んで此の疲勞のことをやかましく申されたのは、同じくお醫者さんでシュィテンと云ふ人です。是れは長らく注意の疲勞のことにつき研究して居る人でありますが、諸書を參考し、種々の實驗を集めた結果、昨年の學會に凡そ四箇條ほどの意見を持つて參つたやうでございます。是れは何う云ふことであるかと云へば、第一は總て人の注意には二つある。任意的注意と不任意的注意とがある。任意的注意と云ひますのは注意しやうと思つて注意するので、不任意的注意と云ふのは自然に注意するのですが、今茲に要求するのは任意的注意である。即ち子供が氣を注けてウンと勉强するので、此の任意的注意は冬の方が夏よりも餘程强いと云ふのであります。夏分は任意的注意が極めて弱ると云ふのであります。昔から學問をするのは冬に限ると申します。是れは本當です。我々が大學でやつても一番講義の進むのは、十月頃から翌年の二月までであつて、此間に一番捗が行くやうです。三月から先きは捗が行きませぬ餘程だれる氣味があります。夫れは諸君も定めて實驗されることであらうと信じますが、小學校中學校では始業は四月から、高等學校

大學校では九月からにしてあります。是れも何れが宜いかと云ふことは非常に議論のあることと信じまするが、任意的注意は夏季よりも冬季の方が宜いと云ふとは爭はれぬやうである。それでありますから實は斯う云ふ夏季講習會などは廢めてしまつて冬季講習會にしたいと思ふ。今回の如きも夏季にして人々の心がだれて居るときに、斯くの如き講習をするのだから、是れはマア非常に諸君の御迷惑な話であらうと思ふ。第二番は下級生よりも上級生の方が任意的注意は強いと云ふのであります。是れは辛抱強いと云ふのであります。申さなくとも分つて居ります。第三箇條は西洋の學校でも種々ありますが、大抵は午前は朝八時に始めて十一時まで稽古する。それから家に歸つて飯を喰ふ。或は晝寢などをする。冬でもやる。それからまた午後は二時に始めて四時までやる。然う云ふところでありますが、夫れに就て測つて見たと云ふのです。すると段々其の時間に應じて注意力が漸次遞減して參ります。午前は午後より強い、併し午後二時の者は午前十一時の者よりは注意力が大であると云ふが、併し午後二時の者を午前八時の者に比べたら注意力は非常に劣つて居ると云ふのです、即ち働くのは早朝であると云ふのであります。第四箇條は是れが又面白い、休息の功能、即ち休んだら疲れが癒えると云ふ功能は下級生の方が上級生よりも大であると云ふのである。下級生は休憩すれば疲勞は回復するけれども、上級生は早く疲勞せぬ代りに一旦疲勞したならば容易に回復せぬと云ふのであります。是等の議論より致して、御承知の通り獨逸では疲勞のことを最もやかましく調査して居る大家がある。是れは諸君も屢〻おききでせう、グリースバッハといふふ人であります。此人が小學校の兒童の休憩が午前と午後との間に二時間では不十分であると云ふことを言ふのです。十一時まで稽古をして十二時、一時と休んで、一時から午後の業を始めると云ふのでは不十分である。午前と午後との間なる休憩時間をモッと延長したいと云ふことがグリースバッハの議論であります。其他オイレンブルグなどゝ云ふ記憶調査の名人も之れに贊成をいたして居ります。で諸君に申しまするが、日本では午前と午後との間の休みが短かい。長うして一時間、甚だしきは食事の間を短かくし、僅か三十分で午後の授業を始める人もありますが、恐らくグリースバッハ又はオイレンバルグなどに聞かせたら驚いて死ぬであらうと思ふ。西洋では短かうても二時間であります。一時間より以下の所は斷じてないと云ふことを申して置きます。私も數年來此事を主張するのであります。日本人の教師諸君は勉强家でありまするから、午前と午後との間の休憩時間

を餘程短かうして居られるやうである。恐らく早引きをして自修に勉めやうと云ふのであらう。西洋では銀行でも商店でも大抵二時迄は表戸を閉めて休むのであります。食後二時間休憩してでなければ新たに業務は執らない。子供ではそれでもまだ短かいと云ふ議論であります。

其次に是れも矢張り獨逸人でせう、マックス、ロッフシーンと云ふ人が主張致しました。夫れは何う云ふことであるかと言ふと、夏季は總て衛生に注意しなければならぬ。溫度が高まつたならば決して授業をせぬやうにしたいと云ふのです。即ち獨逸では御承知の通り、寒暖計は攝氏の百度計に據つてやりますが、其の攝氏の二十三度になりましたならば、小學校の授業を止めてしまふと云ふのであります。攝氏の二十三度と云ふのは華氏の八十五六度であります。之れに就て一の話がある、私が先年ライプチヒに居りましたときに、高等小學校の一教員と懇意になつて、其人に種々作文を直して貰うて居つた。尤も私は獨逸の作文に對しては小學の兒童である。內的原素は遙に私の方が進んで居やうけれども、獨逸文の字形、字數、語法、口調と云ふことは幼稚だから、其人に直して貰ふ。向ふも亦「內容はアナタの御勝手だ、外的のことだけは私が直して上げる」と云つて直して呉れた。さうして是れは綴り方が違つて居る。例へばこゝと云ふたらけれと來るぞと云ふたらばるだと云ふやうなことを注意して呉れる。然して寒暖計が二十三度になつたときには朝でも突然やつて來る。今日は學校が休みだからと云つて來て直して呉れました。然う云ふ風であつて、二十三度ではスッカリ學校の授業は廢めると云ふことになつて居ります。日本でも夏になると勉强などは廢めてしまつて、避暑々々と云ふやうなことを言ふ。此の避暑と云ふ事がやかましくなつたのは御維新後です。一體西洋人は日本人よりも暑がるのです。向ふは大變國が涼しい、國が涼しいから、少々暑くつても大變暑いやうに思ふ。日本は何時でも暖かい國だから少しぐらゐ暑うても太だしく感じない。だから日本でも二十三度になつたら朝から休むと云ふやうなことにするが宜いか惡いかは別問題である。併し何度からかは休ませると云ふことは大切な問題である。今や兵隊に日射病が澤山にあると云ふことは、新聞で承知を致します。尤も日本には日射病は少ない。巴里などは實は然う暑くないです。巴里に居ると、夏が來たからと云つて夏服は着ない。私の今着て居るのは熱帶の衣服の着方であつて、こんな風をして巴里の市中を歩いたら人が笑ふ。矢張り夏になつてもモーニングコート、即ち冬の衣服と同じとて、唯だ下着だけ更へる。冬が來たら下を

厚くする、夏が來たら下を薄くする。それぐらゐの國だから暑うなつたら表戸を閉める、煉瓦造りだから戸を閉めたら内が涼しい。又戸を閉めると内が暗い、仕方がないから、電氣や瓦斯を點けて本を讀む。尤も外の暑さだとても二十三度式で、左程暑うないのに、私の前度巴里に居つた時に、八月の何日でしたか、巴里市中で馭者にして九十何人も日射病に罹つた者がある。それだから若し西洋人と戰爭をするのであつたならば、成るだけ暑い國の方へ引寄せる。然うさへすれば別に手數を勞せずしてへこたれさせてしまふことが出來ると思ふ(笑聲起る)是れは大變諸君に親切なお話をした積りである。と云ふのは暑いときには冷いお話をした方が冷うなると思ふけれども、暑いときには矢張り暑いお話をすると、却つて冷うなるのが人情であるから、わざと斯う云ふお話をしたのである。(笑聲起る)

其次にお話をするのは一週間の日曜日だけを休みにすると云ふことは、是れも不足であると云ふのである。否土曜日の午後は半休日であると云ふことでさへも不足であつて、今の一般の輿論は日曜日の外に尙木曜日か水曜日の午後は同じく休みにせよと云ふのであります。之れにも種々の理由があつて、授業上から來ることもありませうが、今は疲勞問題として小學兒童を一週間打通して稽古をさせるのは惡いと云ふことになつて居ります。是れも我々の贊成するところであります。要するに十分休養して、身體を健康にすると云ふことが目的である。西洋では小學校の授業時間を餘り長うせぬのでありまして、如何に長うしても一週間に二十四時間より上は越えさせぬやうにせよと云ふのが近頃の新趨勢であります。

さて最後に申しますることは、只今の一般の輿論は總て兒童をして成るべく長く座らせるなと云ふことである。餘り長く腰を掛けさせるなと云ふことを申すのです。長く腰を掛けさせることにして居つたら、衛生上非常に害があると云ふことで、調査の結果衛生上の害と云ふものを算へた先生があるのであります。それは和蘭のお醫者さんでォートマールと云ふ人が言ふのに、總て家庭でも學校でも子供を長く腰掛けさせると云ふと第一は脊椎が彎曲する。併し學校ばかりでやかましく云つても家庭が注意しなければ駄目だ。それから筋力が減少する。常に座つて居る人は筋肉の力が弱い。それから消化が不良になる、是れは申すまでもない。それから呼吸が障害せられる。それから顏面が蒼白になる。斯う云ふことはやがて胃病となり肺病となる原因でありませうから、成るべく長く座らせると云ふことは禁じて貰ひたいと云ふ。夫れを直すのには學校で課業時間中でも暫く立てらせるので

ある。例へば四十分なら四十分稽古をして居る、其の間の二十分か二十五分目に一寸立てらせる。さうして尙出來得べくんば體操をさせるのである。諸君！そんな事をしたら教場が亂れると言ふてありませうが、流石は獨逸だと思ひます。私が親しく感心したのは、先年ライプチヒ大學で教育學の實地稽古をして居るときのことであります。教育學の理論は大學で聽くのであるけれども、實地は豫て連絡を取つて居る中學校がある。其の中學校へ行つて先づ實地授業を參觀すると云ふ組織になつて居る。其の學校をトーマス中學校と云つて、英語の先生はハルトマンと云ふ人であります。私の行つたのは既に十幾年の前ですが、其時大學卒業後同一の學校に先生として二十八箇年同一の學科を持つて居つたと云ふから、此のハルトマンと云ふ人が如何に熟練家であるかと云ふことは分ると思ふ。今もなほやつて居るから、一寸四十年奉職して居る。二十二三歳から矢張り六十幾歳まで英語の教授をやつて居る。然う云ふ人でありまするから、中々實地教授がうまいものである。私の行つたときには中學の二年生ぐらゐに英語を教へて居りました。さうすると授業時間は四十五分の規則でありましたが、三十分ばかり經つと云ふと、先生がトンと机を敲く。然うすると生徒が一齊に立つて四方の窓をバヽバヽッと開けてしまひます。それから號令を掛けると云ふと、一二三……と云つて三分間ばかり體操を始める。それから又机を敲くと、元の通り四方の窓を閉める。又英語をやる。其の手際が誠にうまい。他の所では然う云ふことを見なかつた。それが而かも朝の十時から十一時までの稽古であつたやうでありましたが、今はそれが輿論となつて、小學校でも然う云ふことをやるが宜いと云ふことになつて居る。是れが手際よく行つたら誠に宜い。若しもうまく行かなかつたら近頃流行する彼の深呼吸でも宜い、あれでも濟むです。何でもない。詰りジッとして居つては衛生上甚だ惡い、又同じ事ばかりやつて居ても飽くです。それで私共が眞面目な話をして居つて、上司イと而白いとを言つて諸君を笑はせるのは、全く此の呼吸を應用して居るのである（笑聲起る）

第七章　異常兒の研究

前章には兒童研究の一斑のことに就てお話を致しましたが、今は又兒童の中で特別なる者に就てお話をしやうと思ひます。そこで題して異常兒と斯う申すのでございまするが、異常兒とは讀んで字の如く常に異つた子供……常兒に異つた者であります。詳しう申せば夫れには兩方の極端があるであらうと思ひます。謂ふま

てもなく高能も矢張り異常兒でございます。又それに竝べて低能も同じく異常兒であります。異常兒と云ふ問題の下には高能と低能との兩方を論ずべきであらうと思ひます。又高能と云ふものゝ中には詳しく言つて見れば天才と云ふ者と、それから俊才と云ふ者との區別を立てることも出來る。天才と云ひまする方は種々の解釋もありまするけれども、總て前の人のした事物を襲ふのでなくして、新に工夫する人が天才である。俊才と云ふ方は人のしたことの美い所を採り、夫れを組織し、巧みに利用して行く方が俊才である。謂はゞ發明工夫の才は天才に於て長じて居り、應用實行の才は俊才に於て見ると云つても宜しうございませうか。近頃は御承知の通り此の高能兒の教育とか、或は俊才の教育とか云ふことが我國の教育界に於ても非常にやかましくなつて參つたのでございます。併しながら有りやうを申して見ると、未だ如何なるものを高能と云ふか、天才とは何ぞ、俊才とは何ぞと云ふ問題が十分に定まつて居らぬのでございます。今東京あたりの雜誌などに書いてあるやうな論は多く素人論であつて、學術上の値打はございませぬ。何故かなれば高能と云ふのは何であるか俊才とは何であるかと云ふことが決まらぬ日には、たゞよい加減の議論は出來ないのである。學者の研究としては先づ高能の何であるかと云ふことを調ぶべきであらうと思ひます。之れに就ては英吉利のエリスと云ふ人の著した『英國の天才人』と云ふ書物がある。是れは英國での昔からの幾多の天才に就て深く科學的に研究した書物であります。又佛蘭西ではオーダンと云ふ人があつて、今から五六年前に佛蘭西の昔からの文學者に就て……一般の天才と云つては非常に範圍が廣いから……文學者に就て矢張り科學的に研究をなし、さうして大きな書物を著して居るです。で天才研究の範圍竝びに標準は此のエリスとオーダンとの書物に依つて明かに示されて居ります。日本の天才に就ても然う云ふことを研究したら宜いと豫て考へて居りましたが、幸に本年京都文科大學の教育學科を卒業しました福島亦八君と云ふ人が、マア及ばずながら私の指導の下に日本の此の高能兒のことをスッカリ調査したのであります。論文としますれば約八百頁もある大きなものでありますが、是れで日本の調査も稍〻出來たと申して宜しいと思ふ。それは何う云ふやうに調べたかと申しますると、日本には誠に書物が少ないからして古い事はトンと分らない。そこで德川氏になつてから明治初年に至るまでの約三百年間に於て、凡そ學者とし文人と云ふやうなことで大名を成した人、總じて六百幾人と人と云ふものを選擇したのである。然う云ふ者の選擇標準は同じく此のエリス

氏に據りまして、人名辭書を土臺とするのである。人名辭書で何段とか何行とかを占めて居る人を先づそれだけのえらい人と見て徳川氏以來約三百年間に於ける六百幾人と云ふ學者竝びに文人として名を成した人を得たのである。夫れに就て種々の方面から調査をしたのであります。御承知の通り高能に關しては昔から種々の問題があるのです。譬へば高能兒と云ふやうなものは長男に無くして次男以下に多いものである、總領の甚六と云ふやうなことを言ふ。尤も此中に總領にしてえらい人も澤山に在りませうが、先づ昔からの言傳へでは何うも總領にえらい者はない、えらい者は次男からだと云ふことを云ふ樣です。けれども果して總領と云ふものが甚六であつて、次男以下がえらいか、何うかと云ふことは科學的に研究して見ねばならぬ。て之れに據つて研究して見ると然う云ふことは嘘である。六百何人の中に次男も澤山に在るけれども、矢張り總領も澤山に在るから、總領と次男とは些とも關係せぬ。否寧ろ總領の方が多い。或は又人の能く云ふことだが、高能兒と云ふやうなものは何うも良い家に生まれぬものである。矢張り貧家に多く生まれると云ふことを言ふのであります。是れも事實であつて、亞米利加などの格言にも「えらい人はコッテージから出る」と云ふことがある。コッテージと云ふのは板小屋と云ふことです。彼のワシントンに次いての豪傑と云はれたリンカーンなどは卽ち此のコッテージから出た人である。であるから高能兒と云ふものは富貴な家に求めることが出來ない。餘裕のある家に求めることが出來ない。貧家でなければ出來ないと云ふやうに言ふけれども、それは若干の例外を見て言ふたのであつて、能く調査して見ますると決して然う云ふことはない。矢張り立派な家から今言ふた六百人中の多數が出て居るのである。又斯う云ふことを言ふ、何うも都會にはえらい人が出ない。えらい人は田舍の方から出ると。是れは矢張り幾らかは事實です。併しながら統計の結果に依つて見ると、矢張り多分は都會か都會附近から出たのであつて、決して田舍の方が多いことはない。或は年寄の子は可かぬとか、或は高能は子供が無いとか有るとか、種々の話もありますが、然う云ふ事をイヽ加減に決めるのでなくして、今言ふ六百何人に就て調べて見ると、世間で普通言つて居る事は僅に半面の眞理であつて、全般の眞理は含んで居らぬと云ふことを見るのであります。卽ち右樣に調査をして、始めてそれから如何にして高能兒と以ふものが出來るかと云ふことが分ります。或は又高能兒は先生がなくして出來る、先生に就て物を習ふ人は祿な者でないと云ふ者もあるけれども、今の六百何人に就て見ても必ずしも然う

は行かない、矢張り立派な先生があると云ふやうなことも分つて來たのであります。日本に於ては右の福島君の論文に依つて大體ながら調査の出來たことを喜びます。たゞ夫れは如何にも大きな論文でありまして、無論日本のケチッポケな雜誌に載せる譯にも行かず、左ればと云つて書物として出すのも何うかと思ひ、今にまだ私の手許に置いてありまするが、然う云ふ風に學問上から根本的に研究して居るのでございます。で私はまけぬ氣にあり今支那に於ける高能兒の研究に着手して居ります。其の結果の一部分は『藝文』と云ふ雜誌の本年四月號の分に「天才と教育」と云ふ題で書いてありますから、御覽になることを望みます。いつも申しまする通り教育學は今や非常に學問的に研究される時代となつて居りますが、併しながら其の實際の仕事と云ふものは未だ半仕事である。我々は是れから尙十分の調査研究をして、此の仕事を完成したいと思つて居るのであります。

然う云ふ譯でありまして高能の話をすると非常に面白いのでありますけれども、併し高能兒と云ふものゝ數は少ないのです。又高能兒は放つて能いても能い加減なものになるだらうと思ふ。矢張り多いのは低能兒である、故に此度は專ら低能兒の話をして見やうと思ふ。尤も日本人は誠に飽き易い性質で、先頃申しまする通り學校園のことを一時やかましく申し出したかと思ふと、もう下火になつてしまつて居る。低能兒のことも只今は早や下火になり掛つて居る。て今日は一番異常兒と申しまする中でも、上の方てなくして下の方に屬くものに就てお話をして見やうと思ふ。是れは矢張り昨年の萬國會議に於て一の特別部門をなし、盛んに攻究されたことでありまするから、夫等に依つてお話をするので、多少耳新らしいことを申上げることが出來やうかと信じます。

第一番にお話をしまするのは惡い意味の異常兒てすね、惡い意味の異常兒と云ふものは何う云うやうに分類せられるかと云ふ、其異常兒の分類からお話をして見たいと思ふ。此事は幸に東京の高等師範學校て教授をして居られまする乙竹岩造と云ふ人が『低能兒教育法』と云ふ本を先年出した(目黑書店)夫れに精しく書いてありまするから、諸君も定めて夫れに依つてお學びになつたらうと思ひますが、西洋の書物から言ひまするとー體低能兒の研究……異常兒の研究をやりますのは佛蘭西に多く、白耳義に多いのであります。獨逸などは餘程遲れて居る。今日其の方面て最も名高いドモールと云ふ人が白耳義にある。乙竹君の書物なども餘程此のドモールの書物に據つて居るやうに思ふのでありますが、是れはもう今日異常兒の研究て

は一のオーソリテーと云ふことになつて居る。此のドモラルは嘗て異常兒を分けて何う云ふやうにしたかと云ふと、大體四つに分けたのであるのです。其の第一番は言語の上に障害のある者、例へば吃りと云ふやうな者、是れは一の異常兒に違ひない。吃らぬ者が當り前で、吃るのが異常兒である。元も言語の障害のある者は吃るばかりでない、なほ種々ありませうが、マア平たく云へば吃りである。それから第二番は聾、第三番は眼が見えない……盲目、第五番は低能、大體斯う云ふやうに分ける。其の低能と云ふ方を亦二つに分けまして、一は教育上から觀た低能、二は醫學上から觀た低能、斯う云ふ風に區別をして居ります。教育上から觀た低能と云ふのを又二つに分ける。極くおとなしい、從順なる者、即ち從順的と、それから非常に教師の命なり親の言ふことを聽かないと云ふ反抗的の者、從順的と反抗的との二つに區別するやうであります。それから醫學上から觀ましたのは平たう言ひますと、夫れは一種の白痴であります、併し此の同じ馬鹿と云ふのにも程度があつて、輕い馬鹿と中くらゐの馬鹿と大馬鹿とがある。夫れだからそれは第一種の白痴、それから第二種、第三種、斯う云ふ風に分けてあるのです。第一種の白痴と云ふのは、是れは道德上の低能者であるのです。悉く馬鹿ではない。精神は多少發達いたして居りますけれども、何分各方面の活動が一定致しませず、少しも整頓せず、意志が極めて動搖し易くて無責任な人であるのです。世の中に極めて放蕩な人などゝ云ふものがある、或はこれであらうと思ふ。放蕩な人だからと云つて精神が丸で馬鹿ではない。けれども直さうと思つて居つても自分の意志が弱いものだから、ッヒやるのである。或は借りた物を返へさぬと云ふやうな無責任極まつたことをやる、是れも一種の道德上の低能であります。第二種はそれよりも稍ひどいのである。理解力は多少あるけれども、最う精神の活動が總て幼稚であつて、謂はゞ生きては居るけれども丁度機械が動いて居ると云ふやうなことであつて、何事も受身にして、自から是れと云ふ工夫をするやうなことのない人を云ふのであります。第三種に至つてはマア眞の大馬鹿であつて、殆んど無精神である、西洋の言葉で云へば殆んど腦髓が無いと言はれるくらゐの大馬鹿である。此の第三種に至つては無論教育が出來ないのでありませう。第一種第二種に至つては或は教育の效があるかも知れないと云ふやうに、一方は醫學上、一方は教育上から區別したのである、之だけは乙竹君の本にも書いてあります。

ところが此度の學會に於きまして、又他の人が多少異つた分類を掲げて來たから、夫れを擧げてお話をして行きませう。それはドモラルでなくして、佛蘭西の學者エ

レルと申します。此の人が三年ほど前に其の意見を既に公表したことがあるのでありますするが、ドモールに比べて見ると多少方面を異にして居る。此のエレルと云ふ人が矢張り此の問題に於きましては、今日では大きなオーソリテーでございます。先づ異常兒を原因に依つて區別するのである。其の一番は外因、第二番は內因と致します。外因と云ふのは生れて後、其の子供の生活中に何かの事情が起る。或は怪我をするとか、病氣をするとか云ふことの爲に起つて來たのでありまするから、此の原因は社會的なのであります。それから內因と申しまする方は、其の子供が天賦：：生れながらにして其の身體に曰くがあるのでありますから、是れは生物的であります。だから異常兒の原因を社會的に觀たのと生物的に觀たのと二通りになるのであります。それから內因の方を更に分ちて第一類、第二類と云ふことに致します。第一類と云ふ方は身體の上に缺點のあるのを言ふのです。第二類と云ふ方は精神の上に缺點のあるのを言ふのでございます。第一類の身體の上に缺點のあると云ふのは何う云ふものかと言ふと、之れにも種々あると云ふのです。何處か表面に多少の變形のある者、脊髓が曲つて居るとか、或は耳が何うかして居るとか云ふ者である。それから全體が何となく發育が惡いと云ふやうな身體異常との二つがある。

それから第二類と云ふ方には種々あります。先づ第一番は感覺異常：：感覺ですね、卽ちいま言ふ通り耳が聽えぬとか、眼が見えぬとか云ふ感覺の異常です。それから第二番は運動が出來ない。人に依つて何うも手が動かぬ。或は我々は指を何うしても動かすことが出來るけれども、人に依つたら指が十分に動かぬ。或は首が廻らぬ、足が曲らぬと云ふ者がある。是れは運動異常である。それからもう一つは感覺とか運動とか云ふ外部のものでなくして、本當に其人の心に異常のある者、卽ち心狀の異常である。心狀の上から見ても亦三つある。卽ち心狀異常を更に分けて三種類にすると云ふのです。第一番は所謂低能です。何うも些と足らぬ低能である。それから最う一段進んだのは馬鹿である：：痴呆である。此の痴呆、馬鹿と云ふのは何うかと言ふと、物を習ふ力の缺乏して居る者を云ふのである。習得力の缺乏して居る者を痴呆と云ふ。低能と云ふ方も習得力が足らぬのは足らぬけれども、習得力の缺乏して居る者は卽ち痴呆である。それから第三番目は別に低能でもない、又別に馬鹿でもないです、併しながら高等の心力の上に異常があるのであります。此の高等心力の異常と云ふのにも亦種々の通りがあるのであります。例へば第一種はメランコリーなどと云ふのが夫れであります。之れを譯して憂鬱といふ。別

に馬鹿でもないが、不斷に氣を閉ざして居る者、矢張り一の變狂です。是れは能く私の話をすることでありますが、私が先年まだ書生のときに、巢鴨の病院へ行つたことがある、尤も何も變狂人になつて行つたのではない。心理學とか教育學とか云ふものを研究するのには、何うしても當り前の者ばかりを研究しては可かない、當り前の人とは異つた人の精神を研究せねばならぬ。卽ち精神病學は今日でも教育學竝びに心理學を研究する人の矢張り參考學科になつて居るから、私も然う云ふことを實地に研究しやうと思つて參つたのであります。先づ先生に連れられてズッと病室に這入つた。さうすると入院患者の中には彼の有名なる蘆原將軍と云ふやうな人もある。さうして段々見て行くと、「君、氣の毒な病人がある」「それは何處か」と言ふと、「元は理科大學とかの學生であつて、植物學を勉强し、非常に植物の採集に熱心であつた。其人が外に何うと云ふこともないが、ヒョイと高等心力異常に罹り、所謂メランコリーになつた、非常に物を考へ込んで、大變不精な人になつた、君、行つて見玉へ」「然うか」と云つて其人の所へ行つて見た。先づ先生が近寄つて、某さん、今日は何うてすナ、相變らず植物學を御勉强ですか」と言ふと其の患者は此のやうなことをして居る（此時演者一種の態度を以て示す）「手を擧げて御覽なさい」と幾ら言つても擧げない。さうして先生が手を取りて擧げると、すると二十分經つても三十分經つても決して其の手を下ろさない。もう宜しいと言つても下ろさない。然う云ふやうな人は別段物が分らぬのではない。此方の言ふことは能く分つて居る。たゞ高等心力が缺乏して一種の鬱憂になつて居るのである。是れが世の中に澤山あります。夫の世の中で物を發明するとか工夫するとかして、物に凝つて居る人は何うかすると斯う云ふ患者になる。是れは一種の高等心力に缺乏を來したのであります。女であれば卽ちヒステリー、是れも同じ種類のものであります。是れは何でもない事を心配する。ヒステリーの人でも他の事は當り前ですが、たゞ一種變な病氣があつて、何だかムシヤクシャとして居る。何でもない事が心配になつてならぬ。それから第三番目は所謂犯罪であります。成程さうでせう、罪人と云ふ者でも眼が見え、耳は聽える、當り前に運動も出來る、たゞ高等心力が缺乏して居るのである。もう少し言つて見れば是等は心力墮廢である。心力墮廢を英語で云ひますと、デゼネレーションであります。是れは當り前の能力はあるのぢやが、高等心力がないのです。私の知つて居る人にも今も然う云ふ患者がある。私の所には種々の人が來る。或時一人の男が尋ねて來た。其の男は常に親戚の者が訴訟を起し、自分の財產を橫領しやうと考へて